令和 8 年度 ふくしま学力調査

報告書

子どもたちが、どれだけ自分が伸びたかを実感し、
自信を深め、意欲を高め、さらに学力を伸ばすために



令 和 8 年 11 月
福島県教育委員会

ひとり、ひとり、実現する ふくしま

目　次

1　ふくしま学力調査について　・・・・　1
2　調査結果から見える県全体としての傾向　・・・・　3
3　教科に関する調査の結果　・・・・　8
（１）県全体の平均正答率（%）と「学力のレベル」　・・・・　８
（２）県全体のカテゴリー別平均正答率（%）　・・・・　８
（３）県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化　・・・・　９
（４）県全体の「学力のレベル」の分布　・・・・１０
　①　国語　・・・・１０
　②　算数・数学　・・・・１２
（５）県全体の「学力の伸び」の状況　・・・・１４
　①　国語　・・・・１４
　②　算数・数学　・・・・１６
（６）帳票４８の活用方法　・・・・１８
4　「非認知能力」・「学習方略」等の質問項目　・・・・２０
（１）非認知能力　・・・・２０
（２）学習方略　・・・・２３
（３）主体的・対話的で深い学び　・・・・２５
（４）帳票４０の活用方法　・・・・２６
5　児童生徒質問調査結果と「学力のレベル」　・・・・２７
（１）授業に関すること　・・・・２７
（２）学習意欲や学習環境に関すること　・・・・３５
（３）家庭での生活に関すること　・・・・５７
6　学校質問調査結果から見える学校の取組状況　・・・・７０
（１）学校・教職員の学力向上に向けた取組状況　・・・・７０
（２）令和８年度の小学校６年生、
　　中学校３年生に対する取組状況　・・・・７８
（３）調査結果の活用状況　・・・・８８
7　各学校における分析とその活用例について　・・・・９２
　参考資料：教員用リーフレット（再掲）　・・・・９５

特別寄稿　分析協力者・
宮城教育大学教職大学院 田端健人教授より　・・１０３

令和8年度 ふくしま学力調査 報告書

令和８年１１月２７日
福 島 県 教 育 委 員 会

１ ふくしま学力調査について

１　調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

２　調査実施日

令和８年５月１８日（月）～６月５日（金）の１５日間
※　各学校において期間の中から学年ごとに１日を選択し、実施。

３　参加学校数・参加人数

（１）小学校　３８０校
※　義務教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部を含む。以下同じ。
（２）中学校　２０８校
※　義務教育学校後期課程及び県立特別支援学校中学部を含む。以下同じ。
（３）児童生徒数（人）（質問紙を含むいずれかの教科を１つ以上実施した児童生徒の人数）

小学校４年生	小学校５年生	小学校６年生	中学校１年生	中学校２年生
１２，６２８	１３，２１３	１３，４５７	１３，３０６	１１，９８４

４　調査事項

（１）調査方法
○　１人１台端末を使用したＣＢＴ（※今年度調査より実施）
（２）教科に関する調査
○　小学校第４学年～第６学年　国語、算数
○　中学校第１学年・第２学年　国語、数学
（３）質問調査
○　学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

５　結果の活用について

（１）児童生徒の学習改善への活用
各学校は、個人結果票をもとに児童生徒に学習改善に向けたアドバイスを行う。また、個人結果票を家庭学習の充実に向けて保護者と連携するための資料とする。
（２）各学校の授業改善への活用
各学校は、県教育委員会が提供する「校内研修活用資料」や「グラフ化ツール」、各校一斉参加型オンライン分析研修会（ハイブリッド型分析研修会）の機会等を活用して、返却された結果から児童生徒の学力のレベルや学力の伸びの状況等を分析する。その上で、学力向上プラン等を見直し、２学期以降の授業改善につなげていく。
なお、結果分析に当たっては、管理職や学級担任、教科担任等が単独で行うのではなく、結果帳票を基に、複数の教職員の視点で日頃の見取りと結果データを往還させながら、多面的に行うことを推奨する。
（３）好事例の横展開
各学校は、学力を伸ばした可能性のある教員の取組の共有や、県教育委員会が作成する「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集」の活用をとおして、自校の実態に応じた学力向上の取組の改善・充実を図る。

6　「学力のレベル」と「学力の伸び」について

各学年ごとのレベルの範囲　（白が当該学年のレベルの範囲です）

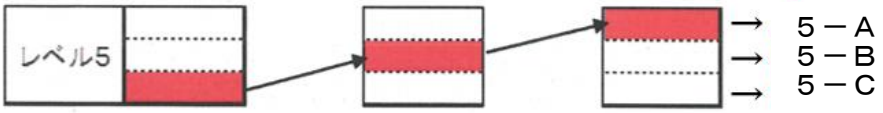
	小4	小5	小6	中1	中2	中3
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

レベル	レベル（3分割）	数値
レベル12	12−A	36
	12−B	35
	12−C	34
レベル11	11−A	33
	11−B	32
	11−C	31
レベル10	10−A	30
	10−B	29
	10−C	28
レベル9	9−A	27
	9−B	26
	9−C	25
レベル8	8−A	24
	8−B	23
	8−C	22
レベル7	7−A	21
	7−B	20
	7−C	19
レベル6	6−A	18
	6−B	17
	6−C	16
レベル5	5−A	15
	5−B	14
	5−C	13
レベル4	4−A	12
	4−B	11
	4−C	10
レベル3	3−A	9
	3−B	8
	3−C	7
レベル2	2−A	6
	2−B	5
	2−C	4
レベル1	1−A	3
	1−B	2
	1−C	1

（1）学力のレベル

全ての問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を「学力のレベル」で表す。「学力のレベル」はレベル１からレベル１２まであるが、測定は各学年７つのレベルで行う。なお、福島県では中学３年生は実施しないため、「学力のレベル」はレベル１１までである。

さらに、１つの「学力のレベル」は３分割され、「学力の伸び」が詳細に分かる。例えば、同じレベル５でも、「学力のレベル」が高くなるとバーの位置が上がる。



（2）学力の伸び

集計対象となる児童生徒の「学力のレベル（３分割)」を数値化し、前回調査との差を計算する（例：１－Ｃは“１”、１１－Ａは“３３”）。

（3）「学力が伸びた児童生徒」の定義

「学力のレベル（３分割)」を数値化した数値が、前年度から１以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。

2 調査結果から見える県全体としての傾向

1 教科に関する調査の結果から

【国語】

（1）県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化（P9）

（年度の異なる同じ学年の比較）

○ 中学校１年生は前年度より数値が１高い。

● 小学校４・５年生は前年度より数値が２～３低い。

（同じ学年集団の経年比較）

○ 中学校１年生は前年度から数値が３上がっており、学力を大きく伸ばしている。また、小学校６年生、中学校２年生は、前年度から数値が１～２上がっており、学力を着実に伸ばしている。

○ 中学校１年生は、８割を超える生徒が、前年度から学力を伸ばしている。

（2）県全体の「学力のレベル」の分布（P10～11）

（年度の異なる同じ学年の比較）

○ 中学校１年生は「学力のレベル」の平均が、前年度調査から１高い。

● 小学校４年生は「学力のレベル」の平均が、前年度調査から１低い。

（同じ学年集団の経年比較）

○ 中学校１年生は、「学力のレベル」の平均が、前年度調査から１上がり、他の学年は同じである。

● 学年が上がるにつれ、上位レベルに属する児童生徒の割合は少なくなり、下位レベルに属する児童生徒の割合が多くなる傾向がある。

（3）県全体の「学力の伸び」の状況（P14～15）

○ 中学校において、生徒が属する全ての層においてレベルが上がっている。特に、中学校１年生の「学力の伸び」が、他の学年に比べて大きい。

● 小学校５年生の上位から７５％に位置する児童が属するレベルについては、数値が下がっている。

小学校６年生、中学校１・２年生において、年々着実に学力が伸びている。特に、中学校１年生は８割を超える生徒が前年度調査から学力を伸ばしている。

一方、小学校４・５年生は前年度の異なる同じ学年に比べ数値が２～３低くなっていることや、小学校５年生の中位層の児童の「学力の伸び」が少ない。

これらのことから、学習内容の確実な定着を図るため、児童生徒一人一人の学習状況に応じた指導を充実させ、**学びのつまずきを早期に把握し、**解消することが重要である。また、上位・中位に伸び悩みが見られるため、授業では下位の児童生徒の「わからなさ」を明らかにし、協働的な学びによって多様な考え方に触れさせながら課題を解決していく過程を通して、**浅い理解から深い理解へと導いていく**ような授業づくりが大切である。

【算数・数学】

（１）県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化（P9）

（年度の異なる同じ学年の比較）

● 全ての学年において、前年度より数値が１～２低い。

（同じ学年集団の経年比較）

● 全ての学年において、前年度から数値の変化が見られない。

（２）県全体の「学力のレベル」の分布（P12～13）

（年度の異なる同じ学年の比較）

● 小学校４・６年生、中学校１年生は「学力のレベル」の平均が、前年度調査から１低く、他の学年は同じである。

（同じ学年集団の経年比較）

○ 全ての学年において「学力のレベル」の平均の位置が、前年度調査と同じである。

● 学年が上がるにつれて、上位レベルに属する児童生徒の割合は少なくなり、下位レベルに属する児童生徒の割合は多くなる傾向がある。

（３）県全体の「学力の伸び」の状況（P16～17）

○ 小学校５年生の上位から２５％に位置する児童、中学校１年生の上位から７５％に位置する生徒が属するレベルについて、伸びが見られる。

● 上記以外の学年・レベルにおいては、中位層（上位から２５％～７５％に位置する児童生徒が属する）の数値の変化が見られない。特に、小学校５年生の「中央に位置する児童が属するレベル」と中学校１年生の「上位から２５％に位置する生徒が属するレベル」については、数値が下がっている。

全ての学年において、前年度調査から学力レベルに変化がなく、前年度の同じ学年と比べて全ての学年において、数値が１～２低くなっている。また、学年が上がるにつれて、下位の児童生徒の割合が多くなっている傾向がある。

これらのことから、**下位の児童生徒がどの段階でつまずいているのか経年のデータで分析し**、要因を考察して具体的な指導改善に生かしていくことが大切である。

一方で、成果が見られた部分はどこか、**たとえ小さくてもよさの変化があった部分に注目し、普段の児童生徒の様子と比較しながらよさの要因を組織で確認したい**。よさを組織の「強み」と捉え、強みをさらに伸ばしたり、他の教員の指導に広げたりしていく取組が特に大切である。

２　児童生徒質問調査と学力の関係から

【「学力のレベル」の高い児童生徒が、肯定的な回答をした割合が多い質問項目】

（１）授業に関すること（P28～33）

- 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがあるか
- 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかり持てるようになったことがあるか
- 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがあるか

（２）学習意欲や学習環境に関すること（P36～55）

- 授業の内容は理解できているか
- 授業の前に、机の上に学習用具をそろえることができているか
- 学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれているか
- 学校の友達は、自分のよいところを認めてくれているか
- 先生の話や友達の発表を聞き、自分の考えを発表することができているか

（３）家庭での生活に関すること（P58～69）

- 学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間勉強しているか
- １か月に、何冊くらいの本を読むか
- テレビゲームをしたり、携帯電話を使ったりすることについて、家の人と約束を決めているか

「学力のレベル」の高さと関係が見られた質問項目から、県全体の傾向を参考にしながら、自校の児童生徒一人一人の実態を見直し、日々の指導に生かしていくことが大切である。

その際、「ふくしまの『授業スタンダード』」や「『学びの変革』授業デザイン」を活用した授業改善や、一人一人の児童生徒が自己肯定感を高められるような互いのよさを認め高め合う学級経営、家庭学習の方法の指導や情報モラル教育の充実等により、良好な環境を構築し、児童生徒の資質・能力の育成を図っていくことが大切である。

3　学校質問調査結果から見える学校の取組状況

（１）学校・教職員の学力向上に向けた取組状況（P70～77）

○　小学校においては校長が「ほぼ毎日」授業を見て回る割合（83.0%から 85.1%）が継続して伸びているほか、小・中学校共に校長による話合いへの働きかけや研修の奨励のもと、学級・学年運営の課題などを全教職員で共有し、組織的に対応する取り組みが定着・進展している。

●　児童生徒の学力の現状把握と分析を行い、課題把握を「よく行った」と回答した割合が両校種ともに３年連続で下降傾向にある。

（２）令和８年度の小学校６年生、中学校３年生に対する取組状況（P78～87）

【家庭学習の状況について】

○　ほとんどの学校で、家庭学習の課題を計画的に与える取組が継続的に行われている。

○　家庭学習の課題についての評価・指導が計画的かつ継続的に行われている。

【国語の状況について】

○　発達段階に応じて、児童生徒に理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導をしている。

○　中学校３年生について、理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導の割合が増加している。

【算数・数学の状況について】

○　国語に比べ、補充的・発展的な学習を行う時間を確保する学校の割合、習熟の早い児童生徒に対する発展的な内容を扱った指導の割合がやや大きい。

○　どちらの学年においても、理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導の割合が年々増加している。

（３）調査結果の活用状況（P88～91）

○　ほぼ全ての学校が、個人結果票を返却する機会を捉え、児童生徒をほめたり、具体的な助言を与えたりしている。

○　調査結果から把握した内容について全教員で共有し、具体的な授業改善にいかしている学校が前年度より増加している。

今年度は調査方法がＰＢＴ（紙によるテスト）から、ＣＢＴ（タブレットなどコンピュータによるテスト）に切り替わった初年度であり、従来のＰＢＴ調査とは問題の表示方法や解答方法の形式が異なったため、児童生徒のＣＢＴへの不慣れさが結果に現れている可能性が考えられる。

これらの結果（P3～P6）は、県全体としての傾向であり、そのまま各自治体や各学校・各学級においても同じであるとは限らない。各学校においては、県全体としての傾向を参考にしつつ、各自治体や各学校に送付されている結果帳票を活用し、詳細に分析することが重要である。そして、教師はその分析結果から児童生徒一人一人の実態を捉え、授業の質の向上や望ましい学級集団づくり等にいかすことで、児童生徒が学力を着実に伸ばせるよう指導をすることが大切である。

3 教科に関する調査の結果

(1)県全体の平均正答率(%)と「学力のレベル」

	小学校４年生	小学校５年生	小学校６年生	中学校１年生	中学校２年生
国語	５０．０	５６．４	５９．７	６２．６	６１．４
	５－Ｃ（１３）	６－Ｃ（１６）	７－Ｃ（１９）	８－Ｃ（２２）	８－Ｂ（２３）
算数 数学	５３．６	４４．４	４３．６	４４．１	４６．３
	４－Ａ（１２）	５－Ｃ（１３）	５－Ａ（１５）	６－Ｂ（１７）	７－Ｃ（１９）

上段：平均正答率（%）　下段：平均の学力のレベル（数値）

(2)県全体のカテゴリー別平均正答率(%)

【国語】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率		問題形式別平均正答率		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
小学校４年	59.2	49.8	46.5	35.6	56.6	40.2	57.0	35.0	23.3
小学校５年	65.3	60.5	47.9	42.5	64.2	44.7	59.9	50.6	30.0
小学校６年	69.1	42.9	61.3	45.4	64.7	52.1	64.9	50.6	21.2
中学校１年	73.4	61.5	55.2	52.4	70.4	53.6	67.6	51.9	57.7
中学校２年	66.5	57.0	59.4	57.4	63.7	58.3	59.6	66.3	58.3

【算数・数学】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率		平均正答率 問題形式別		
	数と計算	図形	測定（小４）変化と関係（小５～中１）	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
小学校４年	59.6	36.4	58.7	56.8	56.4	47.8	54.2	54.9	30.7
小学校５年	41.9	49.4	40.1	46.1	48.7	40.1	49.8	35.7	6.0
小学校６年	44.5	37.8	45.0	46.4	46.0	40.0	40.9	52.8	10.7
中学校１年	40.4	45.2	44.3	47.7	47.4	38.2	43.4	46.3	35.9
	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率		平均正答率 問題形式別		
	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
中学校２年	48.1	44.3	46.5	47.9	50.5	41.7	47.7	46.5	31.1

(3)県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化

○ 国語

学年	小４	小５	小６	中１	中２
現中３	R3 １８	R4 １８	R5 ２１	R6 ２２	R7 ２３
現中２	R4 １５	R5 １９	R6 ２０	R7 ２１	**R8 ２３** +2
現中１	R5 １６	R6 １８	R7 １９	**R8 ２２** +3	
現小６	R6 １６	R7 １８	**R8 １９** +1		
現小５	R7 １６	**R8 １６** ±0			
現小４	**R8 １３**				

○ 算数・数学

学年	小４	小５	小６	中１	中２
現中３	R3 １４	R4 １６	R5 １７	R6 １９	R7 ２１
現中２	R4 １４	R5 １６	R6 １７	R7 １９	**R8 １９** ±0
現中１	R5 １３	R6 １５	R7 １７	**R8 １７** ±0	
現小６	R6 １３	R7 １５	**R8 １５** ±0		
現小５	R7 １３	**R8 １３** ±0			
現小４	**R8 １２**				

※　表の中の数値は、児童生徒の「学力のレベル（３分割）」を数値化したものである。

※　横に見ると「同じ学年集団」を、縦に見ると「年度の異なる同じ学年」を比較することができる。

○ 令和７年度調査から学力が伸びた児童生徒の割合（%）（県全体）

	小学校５年生	小学校６年生	中学校１年生	中学校２年生
国語	４６．６	６０．０	８３．６	６４．４
算数・数学	４７．４	４９．８	４６．１	４８．７

※　現小学校４年生の学力の伸びが見られるのは、来年度の調査実施後となる。

【国語】

（年度の異なる同じ学年の比較）

○　中学校１年生は、前年度より数値が１高い。

●　小学校４・５年生は、前年度より数値が２～３低い。

（同じ学年集団の経年比較）

○　中学校１年生は、前年度から数値が３上がっており、学力を大きく伸ばしている。また、小学校６年生・中学校２年生は、前年度から数値が１～２上がっており、学力を着実に伸ばしている。

○　中学校１年生は、８割を超える生徒が、前年度から学力を伸ばしている。

【算数・数学】

（年度の異なる同じ学年の比較）

●　全ての学年において、前年度より数値が１～２低い。

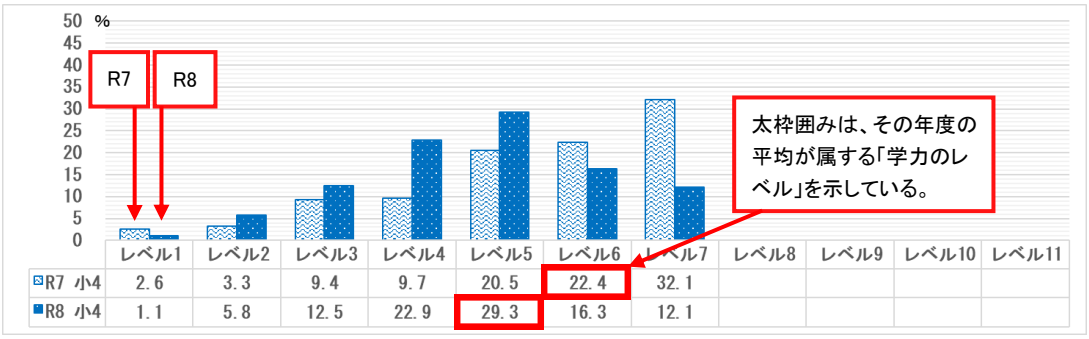
（同じ学年集団の経年比較）

●　全ての学年において、前年度と数値が変化が見られない。

(4)県全体の「学力のレベル」の分布 ① 国語

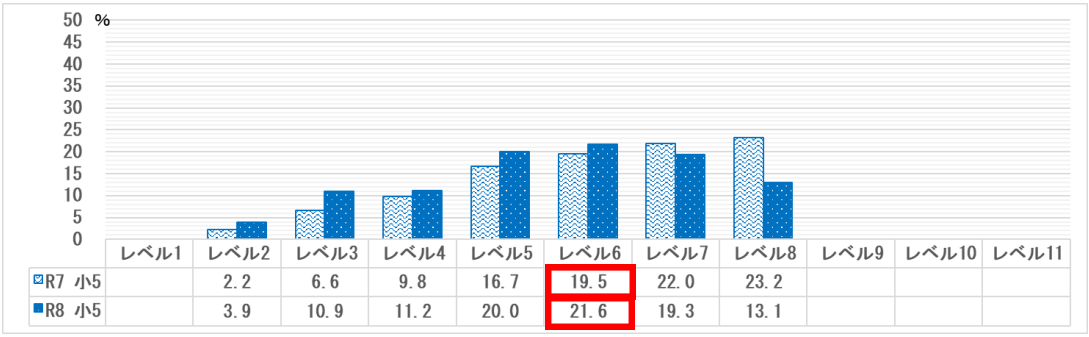
【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】

小学校 4年生 の分布



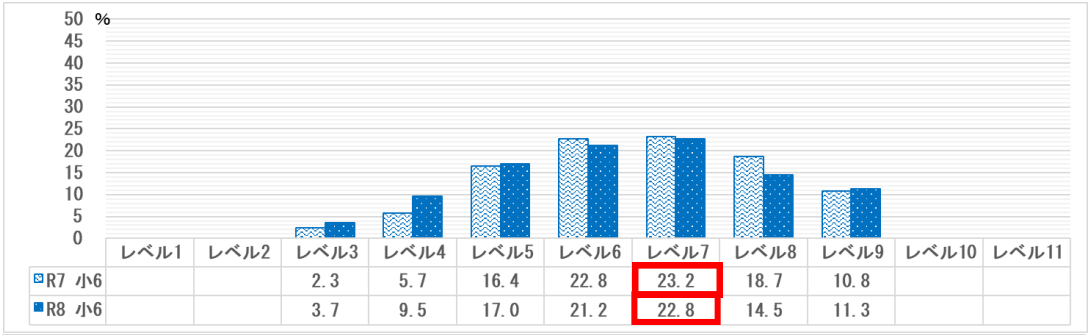
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小4	2.6	3.3	9.4	9.7	20.5	22.4	32.1				
R8 小4	1.1	5.8	12.5	22.9	29.3	16.3	12.1				

小学校 5年生 の分布



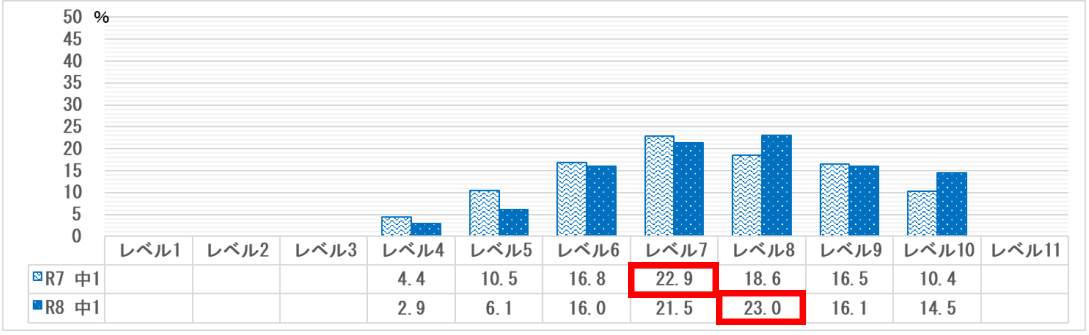
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小5		2.2	6.6	9.8	16.7	19.5	22.0	23.2			
R8 小5		3.9	10.9	11.2	20.0	21.6	19.3	13.1			

小学校 6年生 の分布



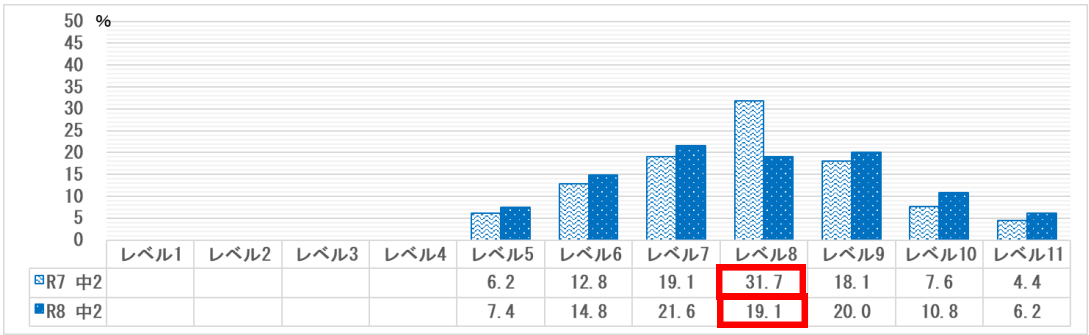
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小6			2.3	5.7	16.4	22.8	23.2	18.7	10.8		
R8 小6			3.7	9.5	17.0	21.2	22.8	14.5	11.3		

中学校 1年生 の分布



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 中1				4.4	10.5	16.8	22.9	18.6	16.5	10.4	
R8 中1				2.9	6.1	16.0	21.5	23.0	16.1	14.5	

中学校 2年生 の分布

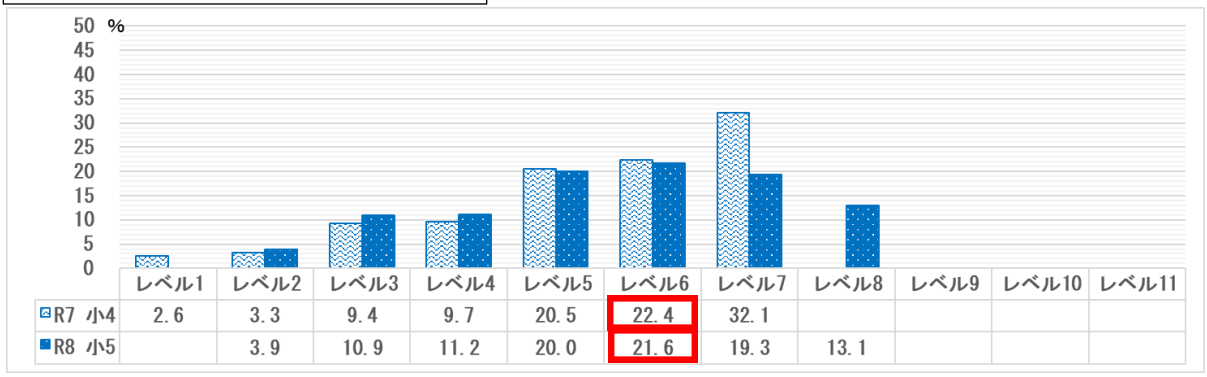


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 中2					6.2	12.8	19.1	31.7	18.1	7.6	4.4
R8 中2					7.4	14.8	21.6	19.1	20.0	10.8	6.2

※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は、四捨五入しているので合計が 100%にならない場合がある。

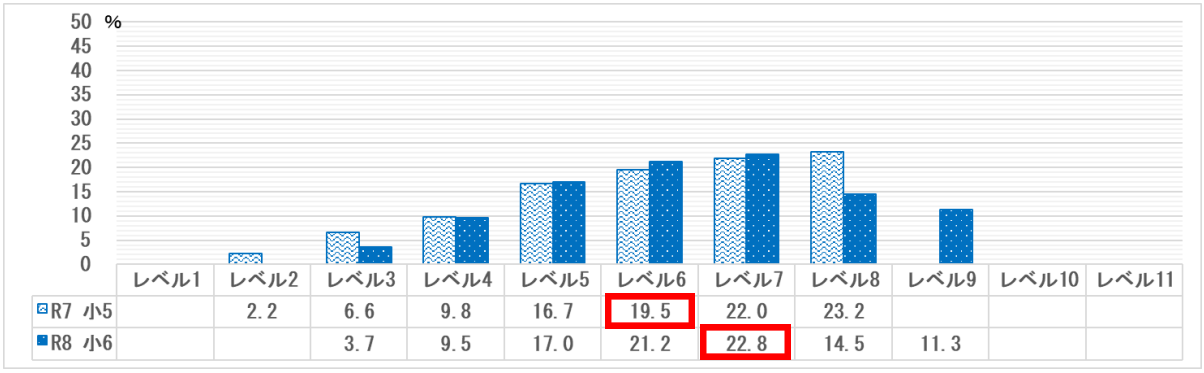
【同じ学年集団の経年比較（国語）】

Ｒ７小学校４年生　→　Ｒ８小学校５年生



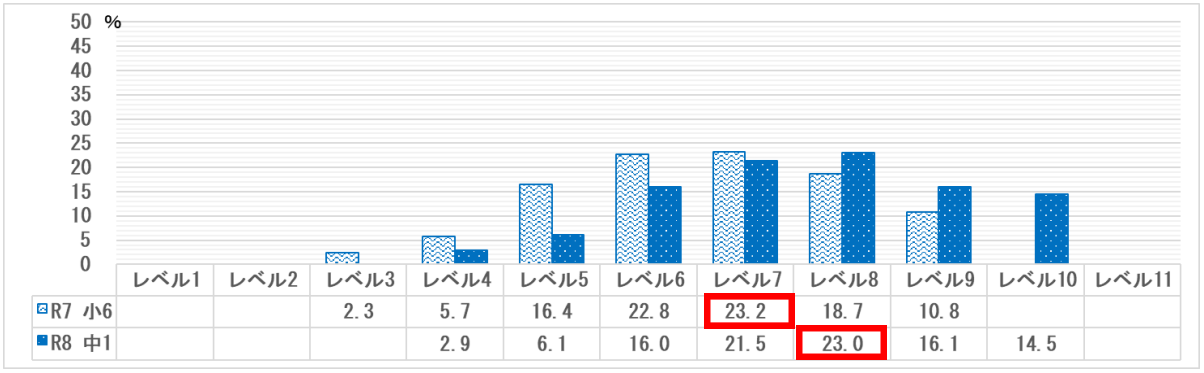
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小4	2.6	3.3	9.4	9.7	20.5	22.4	32.1				
R8 小5		3.9	10.9	11.2	20.0	21.6	19.3	13.1			

Ｒ７小学校５年生　→　Ｒ８小学校６年生



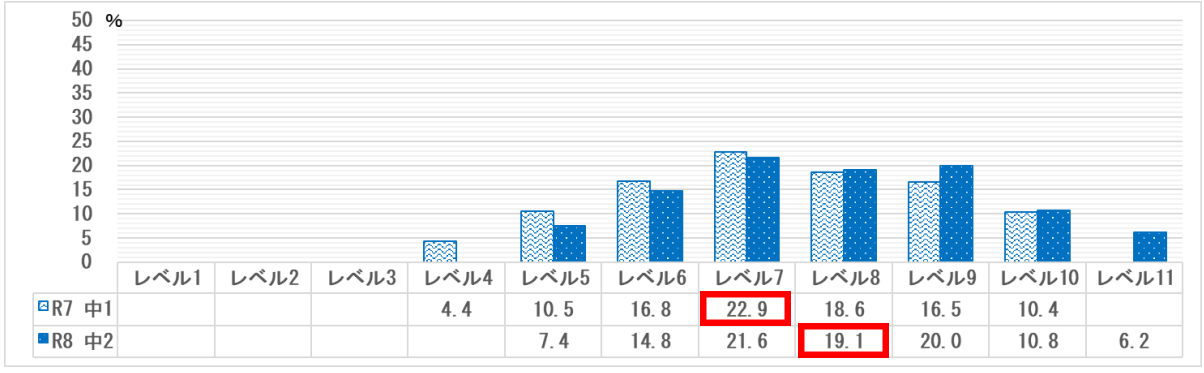
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小5		2.2	6.6	9.8	16.7	19.5	22.0	23.2			
R8 小6			3.7	9.5	17.0	21.2	22.8	14.5	11.3		

Ｒ７小学校６年生　→　Ｒ８中学校１年生



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小6			2.3	5.7	16.4	22.8	23.2	18.7	10.8		
R8 中1				2.9	6.1	16.0	21.5	23.0	16.1	14.5	

Ｒ７中学校１年生　→　Ｒ８中学校２年生

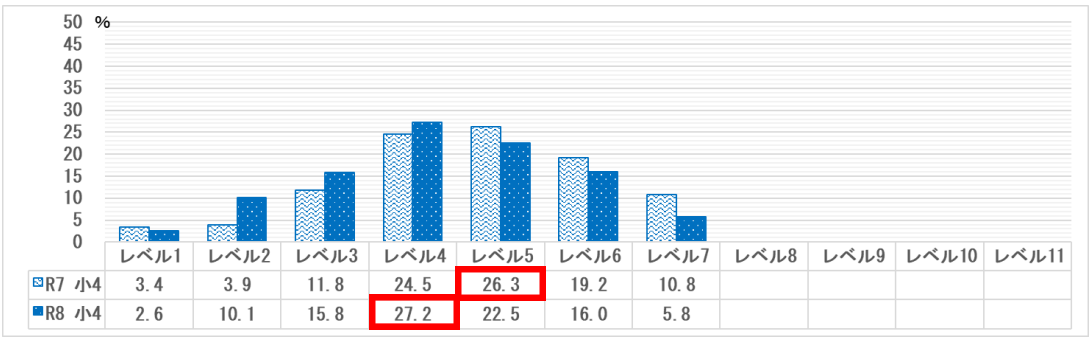


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 中1				4.4	10.5	16.8	22.9	18.6	16.5	10.4	
R8 中2					7.4	14.8	21.6	19.1	20.0	10.8	6.2

(4)県全体の「学力のレベル」の分布 ② 算数・数学

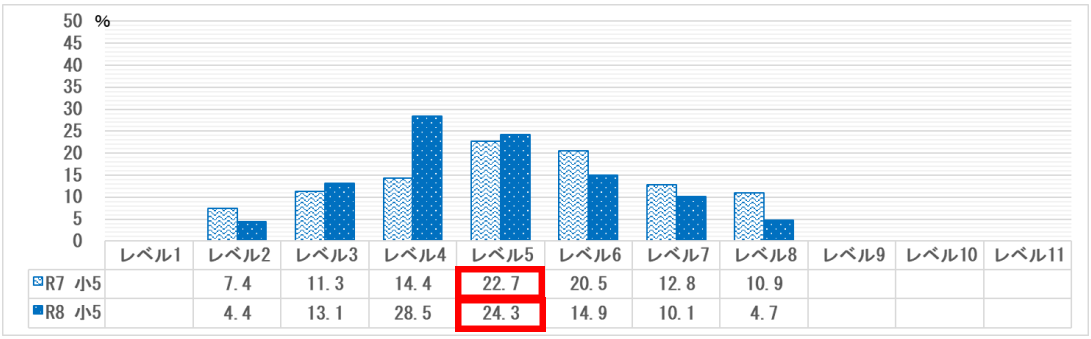
【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】

小学校 4年生の分布



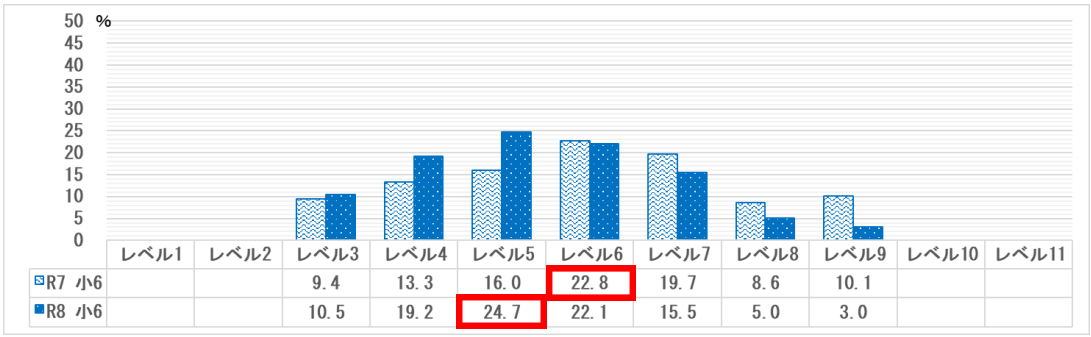
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小4	3.4	3.9	11.8	24.5	26.3	19.2	10.8				
R8 小4	2.6	10.1	15.8	27.2	22.5	16.0	5.8				

小学校 5年生の分布



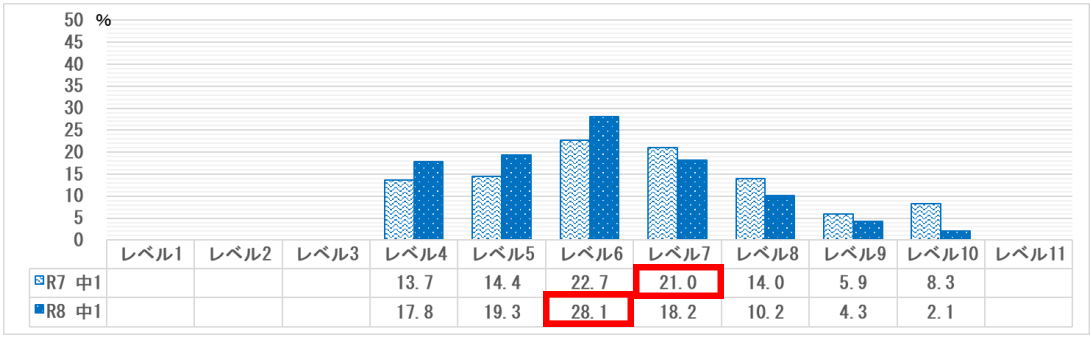
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小5		7.4	11.3	14.4	22.7	20.5	12.8	10.9			
R8 小5		4.4	13.1	28.5	24.3	14.9	10.1	4.7			

小学校 6年生の分布



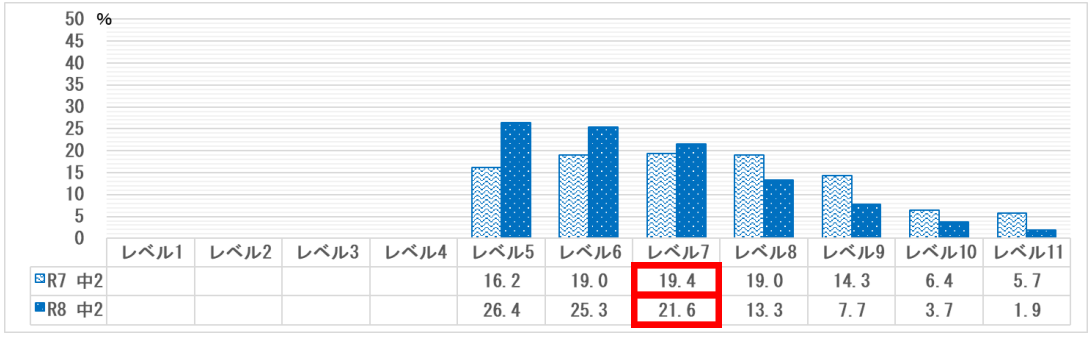
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小6			9.4	13.3	16.0	22.8	19.7	8.6	10.1		
R8 小6			10.5	19.2	24.7	22.1	15.5	5.0	3.0		

中学校 1年生の分布



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 中1				13.7	14.4	22.7	21.0	14.0	5.9	8.3	
R8 中1				17.8	19.3	28.1	18.2	10.2	4.3	2.1	

中学校 2年生の分布

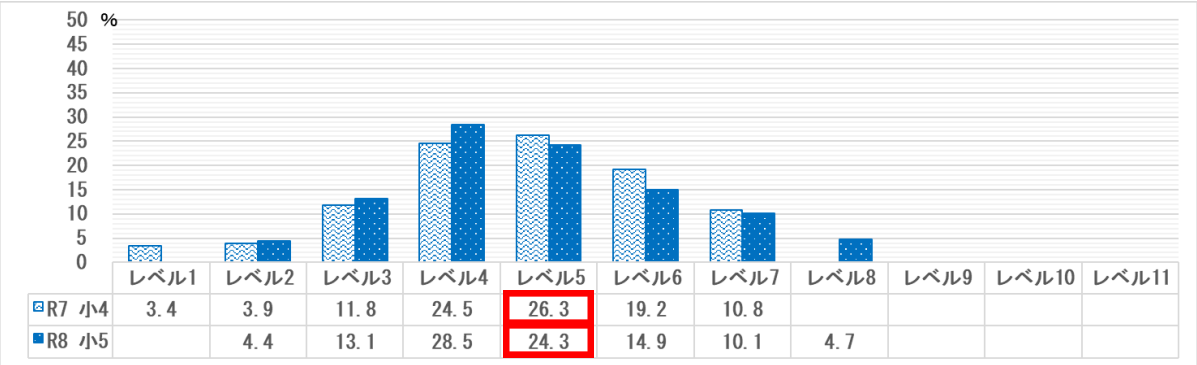


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 中2					16.2	19.0	19.4	19.0	14.3	6.4	5.7
R8 中2					26.4	25.3	21.6	13.3	7.7	3.7	1.9

※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

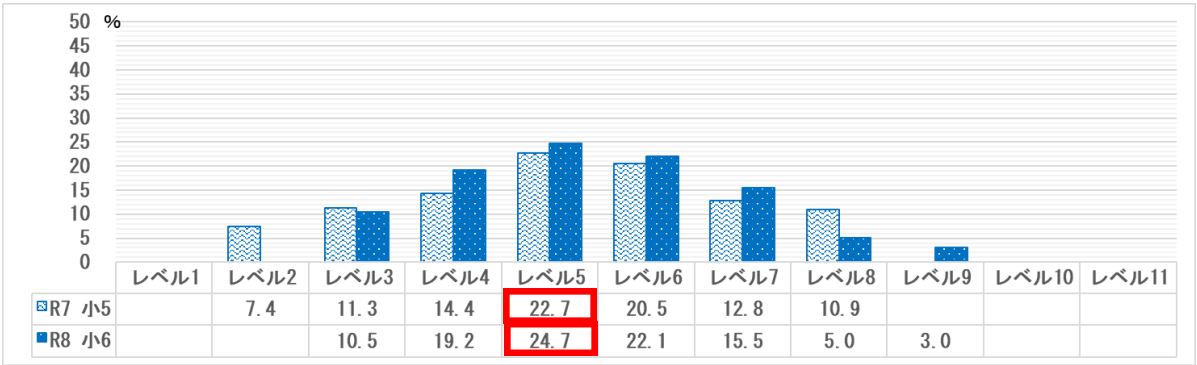
【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

Ｒ７小学校４年生　→　Ｒ８小学校５年生



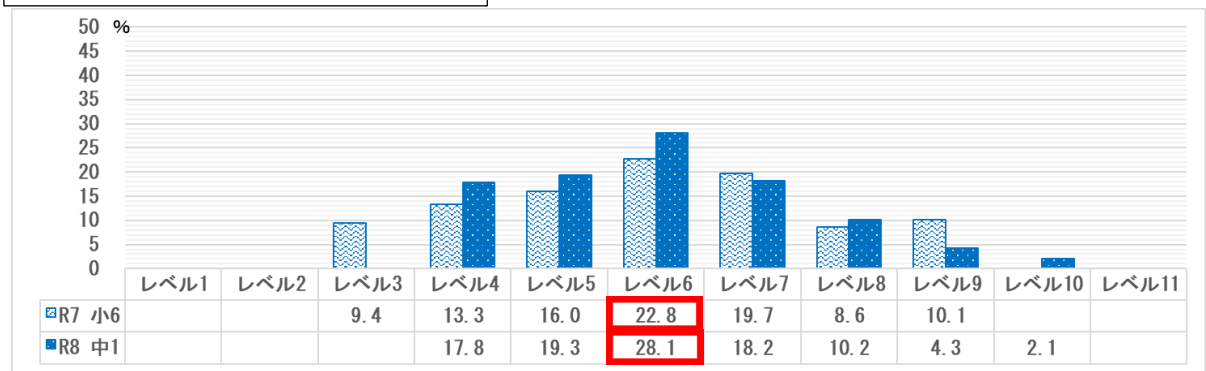
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小4	3.4	3.9	11.8	24.5	26.3	19.2	10.8				
R8 小5		4.4	13.1	28.5	24.3	14.9	10.1	4.7			

Ｒ７小学校５年生　→　Ｒ８小学校６年生



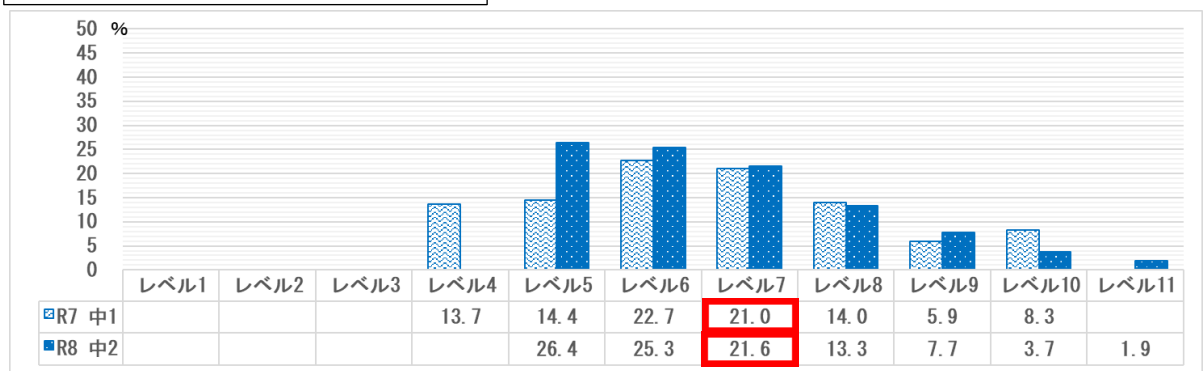
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小5		7.4	11.3	14.4	22.7	20.5	12.8	10.9			
R8 小6			10.5	19.2	24.7	22.1	15.5	5.0	3.0		

Ｒ７小学校６年生　→　Ｒ８中学校１年生



	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 小6			9.4	13.3	16.0	22.8	19.7	8.6	10.1		
R8 中1				17.8	19.3	28.1	18.2	10.2	4.3	2.1	

Ｒ７中学校１年生　→　Ｒ８中学校２年生

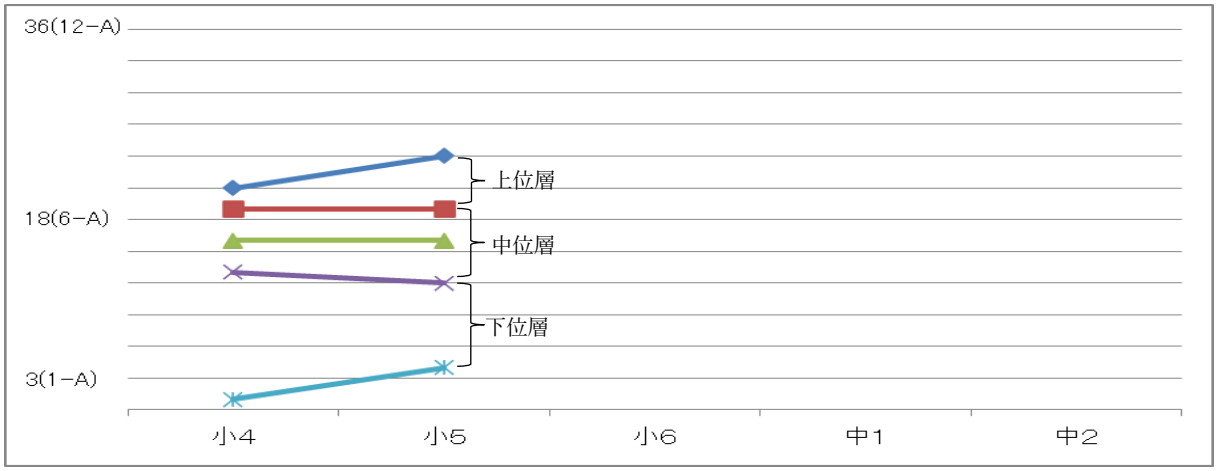


	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	レベル11
R7 中1				13.7	14.4	22.7	21.0	14.0	5.9	8.3	
R8 中2					26.4	25.3	21.6	13.3	7.7	3.7	1.9

(5)県全体の「学力の伸び」の状況 ① 国語

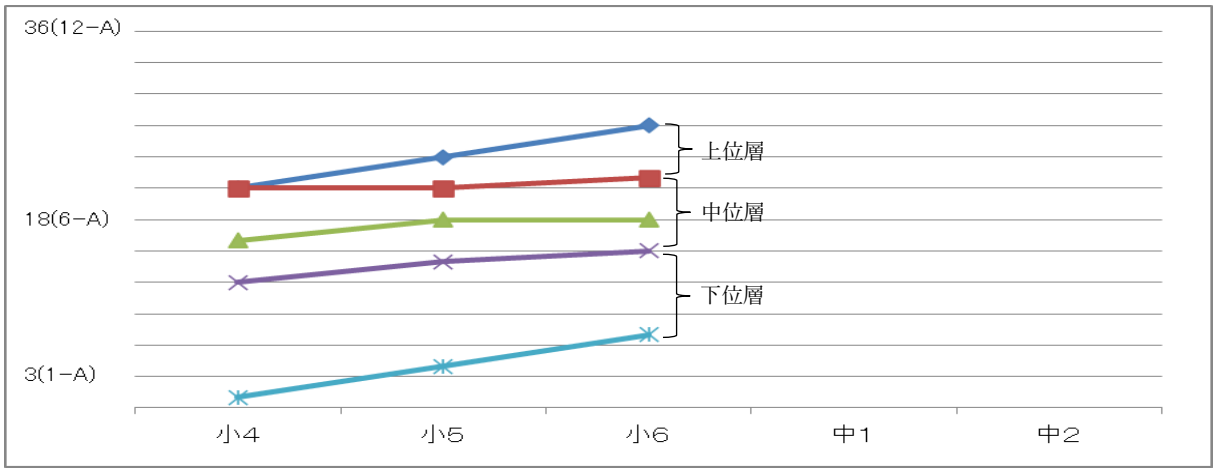
【現小学校５年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	－	－	－
上位から 25%に位置する児童が属するレベル	19	19	－	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	16	16	－	－	－
上位から 75%に位置する児童が属するレベル	13	12	－	－	－
最下位の児童が属するレベル	1	4	－	－	－



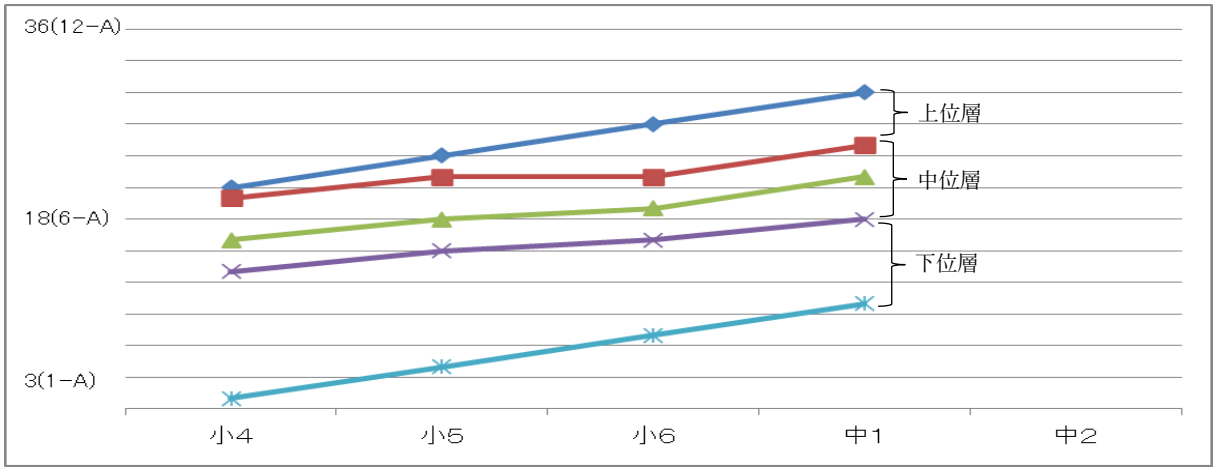
【現小学校６年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	27	－	－
上位から 25%に位置する児童が属するレベル	21	21	22	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	16	18	18	－	－
上位から 75%に位置する児童が属するレベル	12	14	15	－	－
最下位の児童が属するレベル	1	4	7	－	－



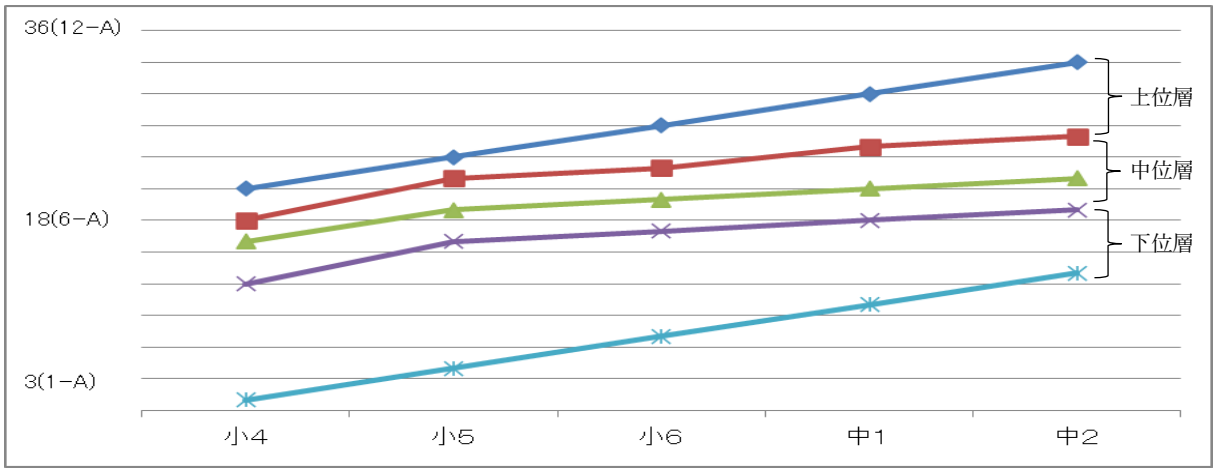
【現中学校１年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童生徒が属するレベル	21	24	27	30	－
上位から 25%に位置する児童生徒が属するレベル	20	22	22	25	－
中央に位置する児童生徒が属するレベル	16	18	19	22	－
上位から 75%に位置する児童生徒が属するレベル	13	15	16	18	－
最下位の児童生徒が属するレベル	1	4	7	10	－



【現中学校２年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童生徒が属するレベル	21	24	27	30	33
上位から 25%に位置する児童生徒が属するレベル	18	22	23	25	26
中央に位置する児童生徒が属するレベル	16	19	20	21	22
上位から 75%に位置する児童生徒が属するレベル	12	16	17	18	19
最下位の児童生徒が属するレベル	1	4	7	10	13



【国語】

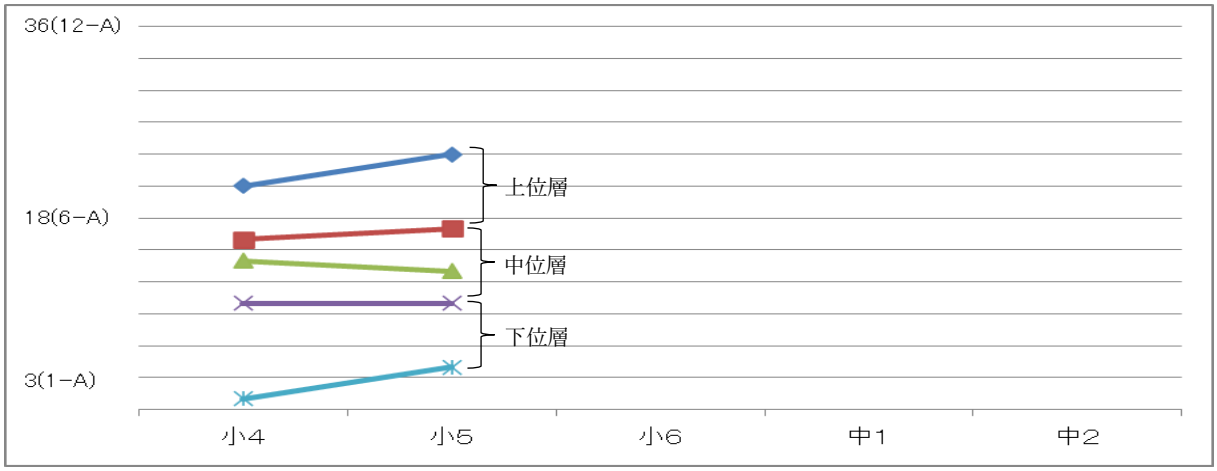
○　中学生において、生徒が属する全ての層においてレベルが上がっている。特に、中学校１年生の「学力の伸び」が、他の学年に比べて大きい。

●　小学校５年生の上位から７５％に位置する児童が属するレベルについては、数値が下がっている。

(5)県全体の「学力の伸び」の状況 ② 算数・数学

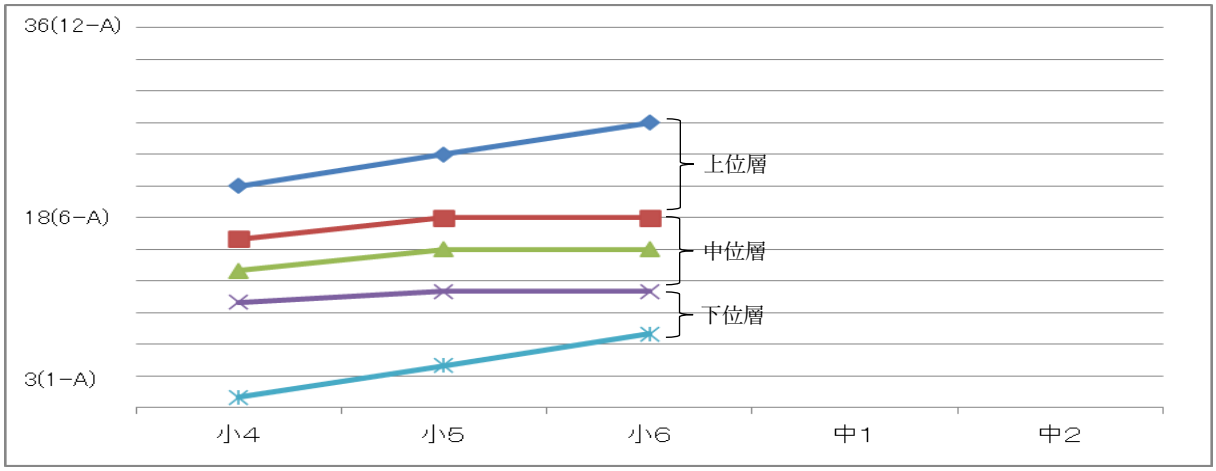
【現小学校５年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	－	－	－
上位から 25%に位置する児童が属するレベル	16	17	－	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	14	13	－	－	－
上位から 75%に位置する児童が属するレベル	10	10	－	－	－
最下位の児童が属するレベル	1	4	－	－	－



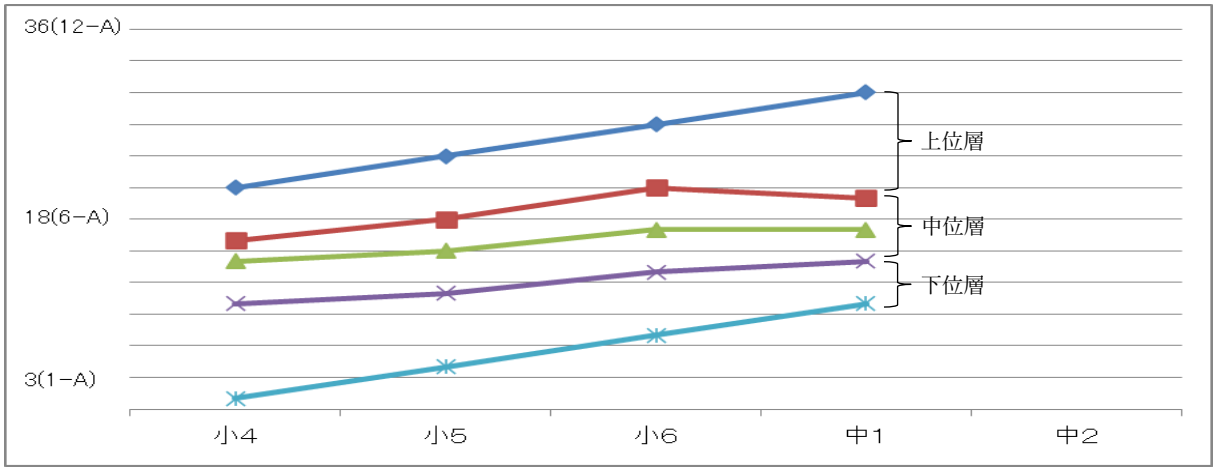
【現小学校６年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の児童が属するレベル	21	24	27	－	－
上位から 25%に位置する児童が属するレベル	16	18	18	－	－
中央に位置する児童が属するレベル	13	15	15	－	－
上位から 75%に位置する児童が属するレベル	10	11	11	－	－
最下位の児童が属するレベル	1	4	7	－	－



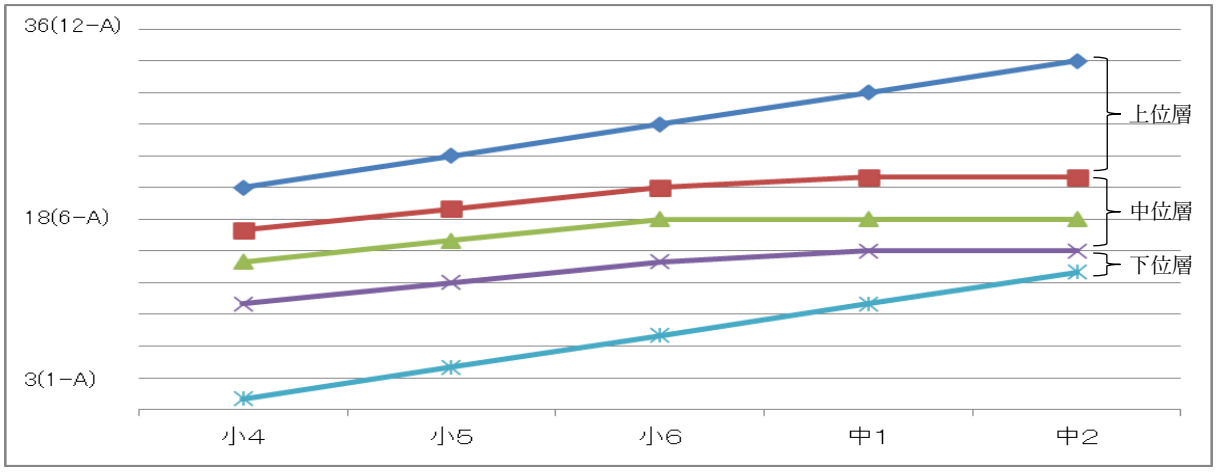
【現中学校１年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の生徒が属するレベル	21	24	27	30	－
上位から 25%に位置する生徒が属するレベル	16	18	21	20	－
中央に位置する生徒が属するレベル	14	15	17	17	－
上位から 75%に位置する生徒が属するレベル	10	11	13	14	－
最下位の生徒が属するレベル	1	4	7	10	－



【現中学校２年生】

学年	小4	小5	小6	中1	中2
最上位の生徒が属するレベル	21	24	27	30	33
上位から 25%に位置する生徒が属するレベル	17	19	21	22	22
中央に位置する生徒が属するレベル	14	16	18	18	18
上位から 75%に位置する生徒が属するレベル	10	12	14	15	15
最下位の生徒が属するレベル	1	4	7	10	13



【算数・数学】

○　小学校５年生の上位から２５％に位置する児童、中学校１年生の上位から７５％に位置する生徒が属するレベルについて、伸びが見られる。

●　上記以外の学年・レベルにおいては、中位層（上位から２５％～７５％に位置する児童生徒が属する）の数値の変化が見られない。特に、小学校５年生の「中央に位置する児童が属するレベル」と中学校１年生の「上位から２５％に位置する生徒が属するレベル」については、数値が下がっている。

(6)帳票48の活用方法

帳票４８は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票４８を活用すると、領域や問題ごとの平均正答率と平均解答時間の数値から成果や課題を把握することができます。正答率と解答時間の関係や、分析から気になる領域や問題を把握し、その要因等について吟味することで、授業改善の具体的な対策を検討することができます。

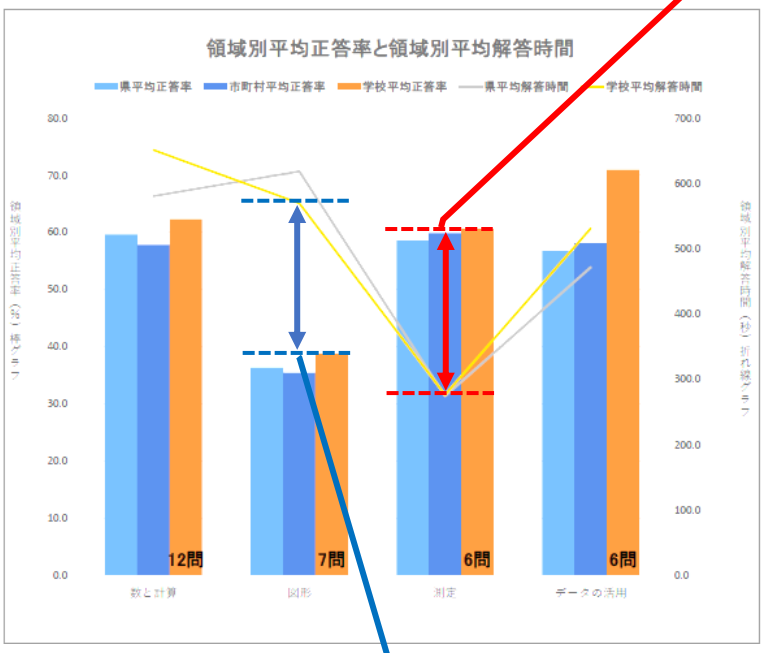
48　　学校用

令和8年度ふくしま学力調査（小学校4年生）
正答率・解答時間の県平均との比較　［算数］
○○市立◇◇◇小学校

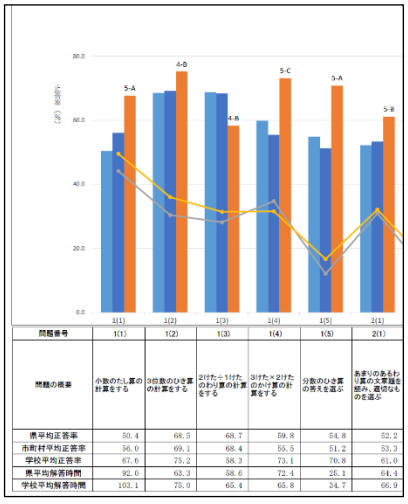
＜読み取り例＞

【領域別平均正答率（棒グラフ）と領域別平均解答時間（折れ線グラフ）】

【平均正答率が高く、平均解答時間が同程度または短い場合】
当該学年の児童生徒は、この領域の問題について、学習内容が比較的定着し、適切に問題を解決できている可能性があります。これまでの指導を振り返り、成果につながったと考えられる授業実践や指導の工夫を、今後の指導にも生かしていくことが大切です。

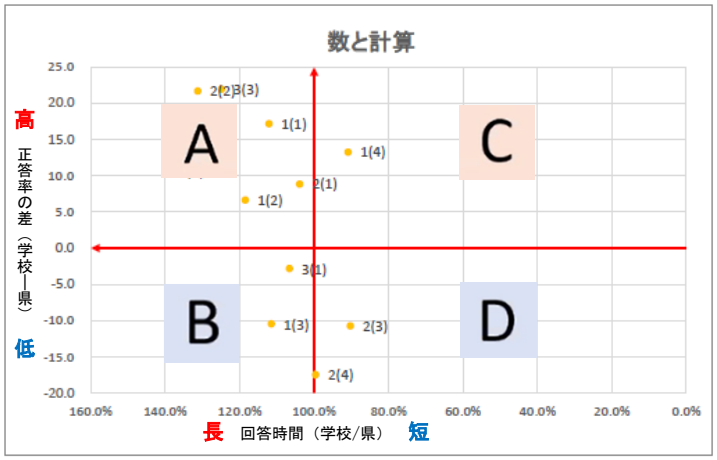


※　「問題ごと」の特徴も把握できます。



【平均正答率が低く、平均解答時間が同程度または長い場合】
当該学年の児童生徒は、この領域の問題について、学習内容の定着や問題解決の過程に課題がある可能性があります。問題ごとの結果も確認し、どこでつまずいているのか、その要因を具体的に捉え、今後の授業改善につなげていくことが大切です。

【問題ごとの平均正答率と平均解答時間】



※　赤線が県平均となっています。

問題ごとの平均正答率と平均解答時間の関係を散布図に表しています。散布図を県平均を示す赤線で４分割すると、問題ごとの傾向を以下のＡ～Ｄに分類できます。

	解答時間が長い	解答時間が短い
正答率が高い	A	C
正答率が低い	B	D

平均正答率と平均解答時間の関係から、表Ａ～Ｄに示した問題ごとの傾向を捉え、授業改善の考え方をもとに具体的な対応を検討していくことが大切です。

その際、正答率が高い問題から児童生徒に身に付いている力やこれまでの指導の成果を捉えるとともに、正答率が低い問題については、解答時間も手掛かりにしながら、どこにつまずきがあるのかを分析し、授業改善の方向性を検討していくことが大切です。

平均正答率だけで判断するのではなく、平均解答時間と併せて捉えることで、「時間をかけて考えた可能性があるのか」「十分に時間をかけずに解答した可能性があるのか」など、児童生徒の問題への取り組み方を多面的に捉えることができます。

〈具体的な対応の例〉

	問題の傾向		授業改善の考え方		具体的な対応
A	**解答時間　長い** **正 答 率　高い**	→	思考を整理するための授業改善	⇒	既習事項を振り返る際に、児童生徒の思考を整理することを心がけ、新たな学習内容とのつながりを明確にする。 また、考え方を振り返ったり、より効率的な解決方法を検討したりする機会を設ける。
B	**解答時間　長い** **正 答 率　低い**	→	基礎・基本を徹底するための授業改善	⇒	既習事項を丁寧に振り返る機会を設け、どこにつまずきがあるのかを教師が見取る。できている部分は称賛し、児童生徒自身が課題を自覚できるようにしながら、基礎的・基本的な内容の定着を図った上で、新たな学習内容につなげていく。
C	**解答時間　短い** **正 答 率　高い**	→	既習内容を精選した授業改善	⇒	既習事項の定着状況を確認した上で、復習する内容や時間を精選し、新たな学習内容に取り組む時間を確保したり、発展的な課題に挑戦する機会を設けたりする。
D	**解答時間　短い** **正 答 率　低い**	→	粘り強さを実感させる授業改善	⇒	問題の意味を捉え、解決の見通しをもって取り組めるよう支援する。既習事項と新たな学習内容とのつながりを意識させたり、考えた過程を振り返る機会を設けたりすることで、粘り強く問題に取り組む姿勢を育てる。

4 「非認知能力」・「学習方略」等の質問項目

(1)非認知能力

テストで計測される学力やＩＱなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では**「自制心」「自己効力感」「勤勉性」「やりぬく力」「向社会性」**の５種類について質問しています。

① 自制心	自分の意思で感情や欲望をコントロールする力

（例） イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問紙の項目】小学校５年生・中学校１年生に質問

- 授業で必要なものを忘れた
- 他の子たちが話をしているときに、その子たちの邪魔をした
- 何か乱暴なことを言った
- 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は除きます）に口答えをした

（出典）Tsukayama,E.,Duckworth, A. L.,& Kim,B.(2013).
Domain-specific impulsivity in school-age children.
Developmental Science, 16, 879-893.

② 自己効力感	自分はそれが実行できるという期待や自信

（例） 難しい問題でも自分ならできると考えられる など

【児童生徒質問紙の項目】すべての学年に質問

- 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- 学校でよい成績をとることができるだろうと思う
- 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う
- 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっている方だと思う

（出典）P. Pintrich, et al.(1991)
A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)

③　勤勉性	やるべきことをきちんとやることができる力

（例）　宿題が出されたらきちんと終わらせる　など

【児童生徒質問紙の項目】小学校４年生に質問

- うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ものごとは楽しみながらがんばってやります
- 自分がやるべきことにはきちんとかかわります
- 授業中は自分がやっていることに集中します
- 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします
- ルールや順番は守ります
- だれかと約束をしたら、それを守ります
- 自分の部屋や机のまわりはちらかっています
- 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません
- 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- 宿題を終わらせてから、遊びます
- 気が散ってしまうことはあまりありません
- やらないといけないことはきちんとやります

（出典）Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C.(2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. Personality and Individual Differences, 34(4), 645-664.

④　やりぬく力	自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力

（例）　失敗を乗り越えられる　など

【児童生徒質問紙の項目】中学校２年生に質問

- 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- 新しい考えや計画を思いつくと、前のことからは気がそれてしまうことがあります
- 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- 何事にもよくがんばるほうです
- いったん目標を決めてから、そのあと別の目標に変えることがよくあります
- 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- まじめにコツコツとやるタイプです

（出典）Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M, D., & Kelly, D. R.(2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. Journal of Personality and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.

⑤　向社会性	外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力

（例）　相手の気持ちを考える、親切にする　など

【児童生徒質問紙の項目】小学校６年生に質問

- 私は、誰に対しても親切にするようにしている。私は、その人の気持ちをよく考える
- 私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する
- 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける
- 私は、年下の子たちに対して、やさしくしている
- 私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする

（出典）Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note.
Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586.
Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version.
European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.

非認知能力の把握

○　児童生徒質問紙を用いて、非認知能力を以下の表のとおり把握

○　児童生徒は非認知能力についての同一の質問に継続して回答

	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9（予定） 2027
中２	①自制心 ②自己効力感	③勤勉性 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感
中１	③勤勉性 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感
小６	⑤向社会性 ②自己効力感	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感
小５	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	③勤勉性 ②自己効力感
小４	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	③勤勉性 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感

(2)学習方略

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。ふくしま学力調査では**「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」**の５つに分類しています。

① 柔軟的方略	**自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動**

（例） 勉強の順番を変えたり、わからないところを重点的に学習したりする など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

② プランニング方略	**計画的に学習に取り組む活動**

（例） 勉強を始める前に計画を立てる など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる
- 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

③ 作業方略	**ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動**

（例） 大切なところを繰り返し書く など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
- 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- 勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える

④ 認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動

（例） 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

【児童生徒質問紙の項目】

- 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
- 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
- 勉強していてわからないところがあったら、先生に聞く
- 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

⑤ 努力調整方略	「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

（例） わからないところも諦めずに継続して学習する など

【児童生徒質問紙の項目】

- 学校の勉強をしているとき、とてもめんどうでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
- 今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
- 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単なところだけ勉強する
- 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

（出典）心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉,(2007).,
心理測定尺度集/堀洋道監修. サイエンス社

(3)主体的･対話的で深い学び

学級における「主体的・対話的で深い学び」の状況を数値化した値

国語、算数・数学について

【児童生徒質問紙の項目】　※学年により、質問項目の教科が異なっています

去年の○○（※）の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
- 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと
- わからないことなどを質問しやすい雰囲気で授業が行われたこと
- 教材やワークシートがあることで、学習しやすくなったこと
- グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
- 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりもてるようになったこと
- 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
- 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
- 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
- 授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと

※　「主体的・対話的で深い学び」についての質問は、同一の学年集団に対して、同一の教科について継続して質問することで、変容を確認できるようにしています。具体的には、今年度の小学校４年生、小学校６年生、中学校２年生については、経年で国語について質問し、今年度の小学校５年生、中学校１年生については、経年で算数・数学について質問しています。

英語について

【児童生徒質問紙の項目】　中学校２年生に質問

去年の英語の授業について、当てはまるものを選んでください。

- 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと
- グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
- 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと

(4)帳票40の活用方法

帳票４０は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票４０を活用すると、学年や学級の児童生徒の学力のレベル・学力の伸び・質問調査項目の数値から、気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりすることができます。分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援することに役立ちます。

帳票４０には、国語と算数・数学の学力のレベルや学力の伸びと併せて**「非認知能力」**、**「学習方略」**、**「主体的・対話的で深い学び」**の児童生徒質問の回答状況及び前年度からの変化が示されています。これらは、ふくしま学力調査から見られる児童生徒の一つの側面であり、「学力のレベル」、「学力の伸び」と同じように目を向けてほしい内容です。「非認知能力」、「学習方略」、「主体的・対話的で深い学び」については、成長に伴い自分に対して厳しく評価するようになる児童生徒もいます。数値の上下だけで判断せず、複数の教員による日常の見取りも含めて数値を見ることが大切です。

40　学校用

令和８年度ふくしま学力調査（小学校６年生）

学力分析データ(学力のレベル･伸び･学習方略･非認知)児童生徒別

〇〇〇立△△中学校

当該児童Ａは、学習方略の「作業方略」と非認知能力の「向社会性」において、昨年度から数値が上がっています。また、Ｒ８の数値で見ると、「主体的・対話的で深い学びの実施」が 2.7 であるのに対して、「自己効力感」が 5.0 と高くなっています。これらの数値から見える特徴と、日常の見取りとを併せて、気になる児童生徒の状態等を分析し、授業での支援に役立てます。

R7→R8の変化量　　R8の数値

	算数・数学			R7→R8(変化量)								R8結果							
	R8レベル	昨年度からの学力の伸び	R7レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力		主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
					柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
	9-C	3	8-C	0.8	-0.4	-0.8	-0.3	0.8	0.5	1.3	2.6	4.0	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	4.9	5.0
	8-C	-2	6-A	-0.8	-0.3	0.5	1.0	0.5	-0.5	-0.8	0.8	2.8	2.8	2.8	2.8	3.3	3.0	1.9	3.0
該当児童A	8-A	0	8-A	1.1	1.0	0.8	1.8	-0.5	-0.5	0.0	2.4	2.7	3.0	2.8	3.0	2.8	4.0	5.0	4.0
	9-C	1	8-A	-0.3	0.3	0.8	0.0	0.3	-0.3	-0.1	1.2	4.2	4.0	3.5	3.0	4.5	3.8	3.5	4.0
	5-B	-1	5-A	0.4	0.8	1.5	1.5	0.3	-0.3	0.1	0.2	4.6	4.3	4.5	4.0	4.3	3.3	4.0	1.6
	8-B	2	7-A	0.2	-0.3	0.3	-0.8	-1.0	-0.8	0.0	0.2	4.8	3.8	4.0	3.5	3.5	4.3	3.8	4.8
	4-B	0	4-B	0.7	0.8	2.0	2.0	0.5	1.0	0.1	0.6	4.1	3.8	3.8	3.5	3.8	4.3	2.8	2.8
	7-C	1	6-A	-0.3	0.0	-0.8	0.5	-0.1	0.0	0.9	1.2	3.8	3.3	3.0	3.5	3.7	3.5	3.3	3.4
	5-B	-1	5-A	-0.3	0.3	0.0	0.5	-0.5	-0.8	0.1	3.6	4.3	4.8	5.0	4.8	4.5	4.3	4.1	4.6
該当児童B	5-C	3	4-C	0.0	-0.5	-1.3	0.0	-0.5	-0.8	0.1	0.0	4.8	4.0	3.8	4.8	4.0	4.3	4.3	1.0

当該児童Ｂは、Ｒ８の数値で見ると、学習方略の「作業方略」の数値が 4.8 と高い一方で、非認知能力の「向社会性」が 1.0 と低いことが特徴的です。学習を進める上では「作業方略」を意識させることで学習の効果を高め、「向社会性」が必要な活動では、他者と関わることへの負担を軽減しつつ、他者と関わりながら活動するよさを感じさせていくことなどの支援が考えられます。

5　児童生徒質問調査結果と「学力のレベル」

(1)授業に関すること

①調査結果から

○　「学力のレベル」が高い児童生徒は、学習課題を把握したり、話合いや交流を通して自分の考えをもったり、学習したことと既習事項を関連付けたりする傾向が見られた。このことから「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、学力向上に寄与していることがうかがえる。

○　特に、質問「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか」と「学力のレベル」の高さに関係が見られる。

②指導に当たって

◎　全ての子どもに学びを自分事として捉えさせるため、教材との出合わせ方を工夫し、子どもの問いや思い・願いを引き出したり、学習課題を理解しているかを確かめたりするなど、自ら学び出そうとする導入にすることが大切である。

◎　子どもが自己調整しながら個別最適な学びを進めたり、多様な他者と協働的な学びを進めたりしながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を展開することが大切である。

◎　「まとめ・振り返り」において、「何が分かり、何ができるようになったのか、どのように学習したか」を、子どもが自覚できる終末にする。そして、「授業でどのようなところが成長したと思うか」「次は、どのようなことに取り組みたいか」を子ども自ら考え、次の学びにつなげられるようにすることが大切である。

【「ふくしまの『授業スタンダード』」より】

- 「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために、「問い」や「思い・願い」を基に児童生徒の気付きや発言などをつないで焦点化し、学習課題を設定しましょう。
- 思いや考えを広げ深めることができるようにするために、児童生徒の考えを基に話合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。
- 児童生徒の言葉で、学習課題に対応したまとめを表現できるようにします。また、板書やノートなどを基に「どのように学習してきたか」を子どもが振り返ることができるようにしましょう。

【「『学びの変革』授業デザイン」より】

「学び出す」･･･すべての子どもが、結果の見通しや、解決方法の見通しをもち、自ら動き出そうとする導入にします。

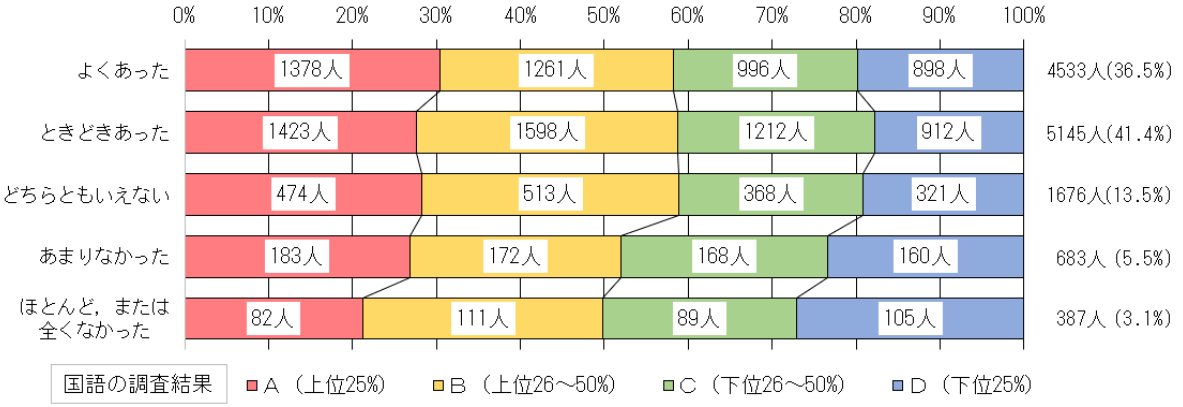
「学び合う」･･･すべての子どもが、友達の話に耳を傾け、自分の考えを確かにしたり、新たな考えに気付いたり、磨き上げたりする展開にします。

「学び取る」･･･すべての子どもが、今日の授業で「自分は何が分かり、何ができるようになったのか」を実感できる終末にします。

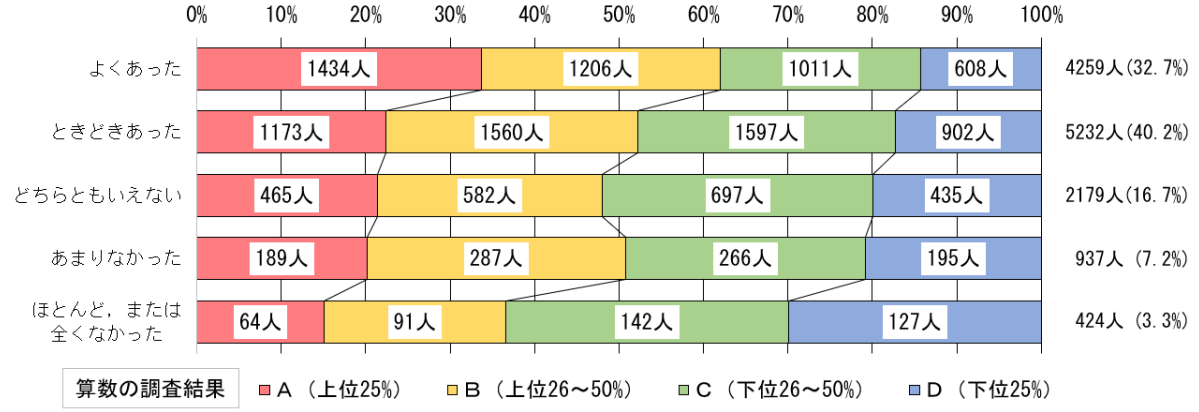
＜児童生徒質問調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

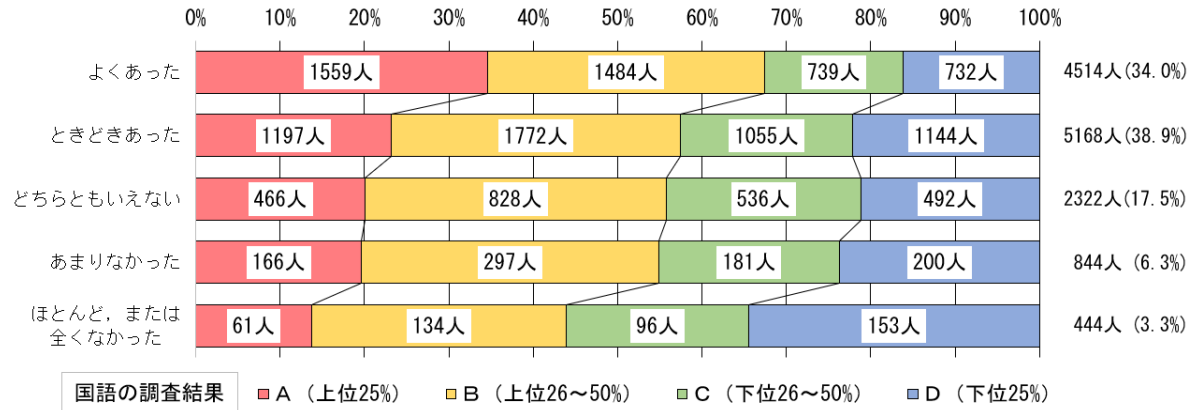
小学校４年生　国語



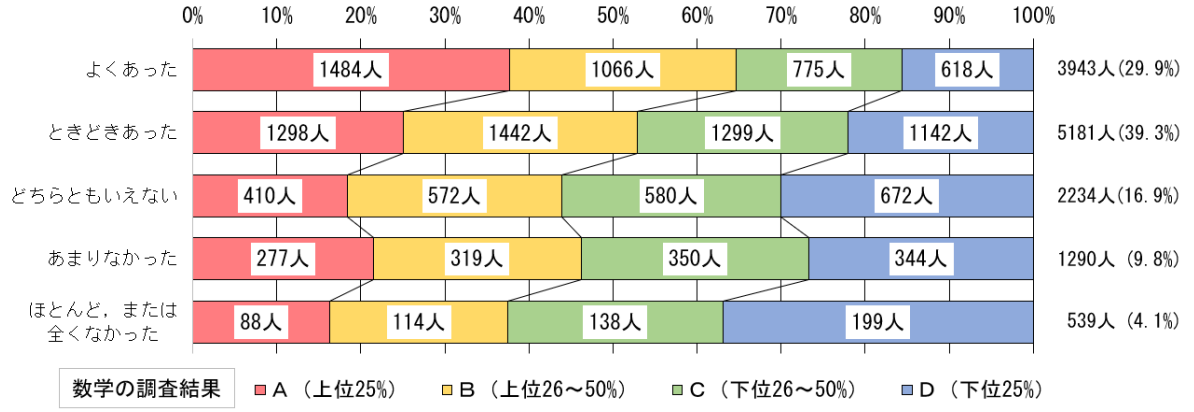
小学校５年生　算数



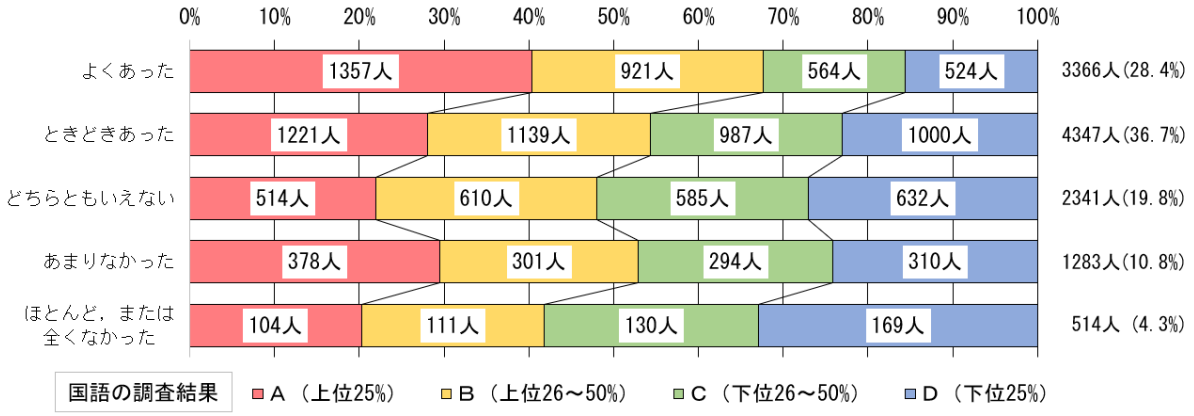
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



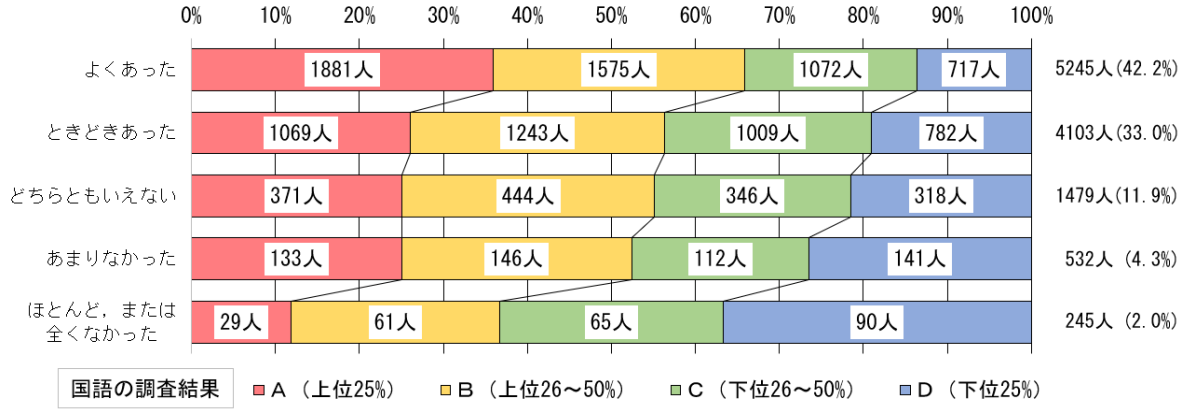
中学校２年生　国語



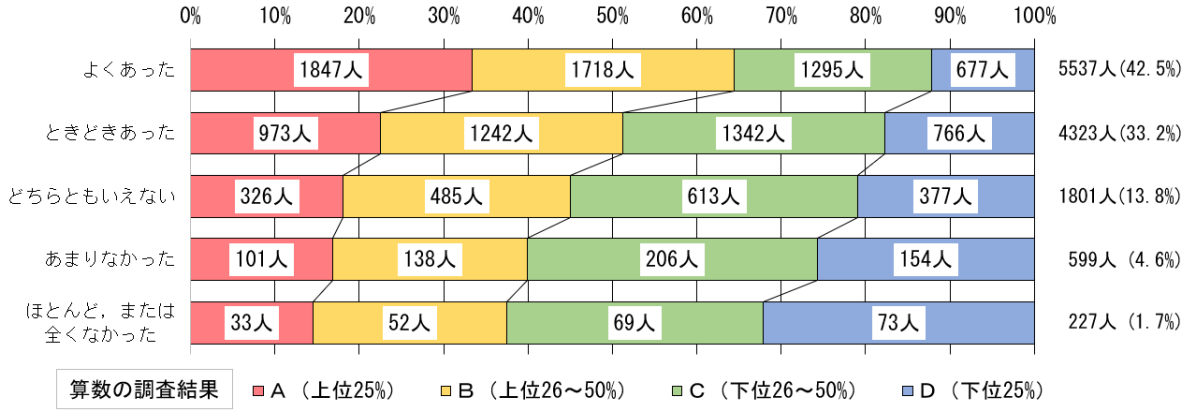
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかり持てるようになったことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

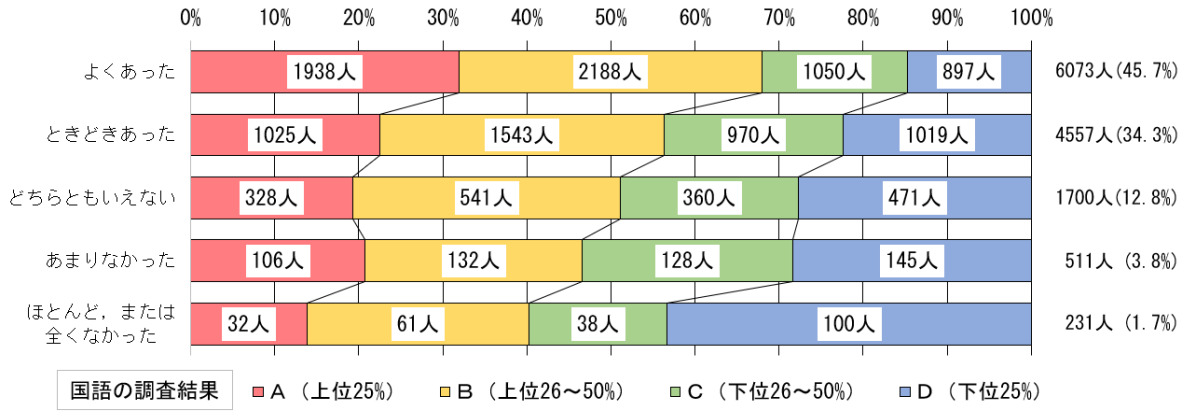
小学校４年生　国語



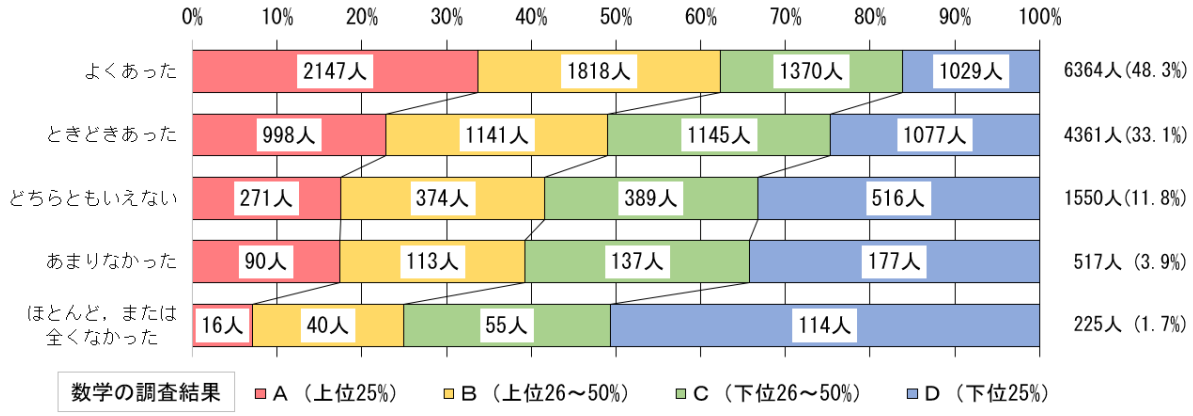
小学校５年生　算数



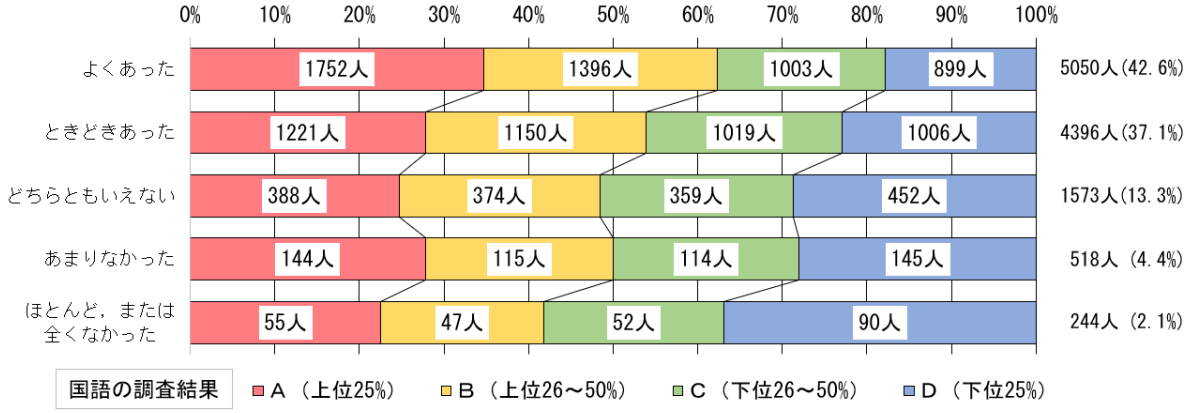
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



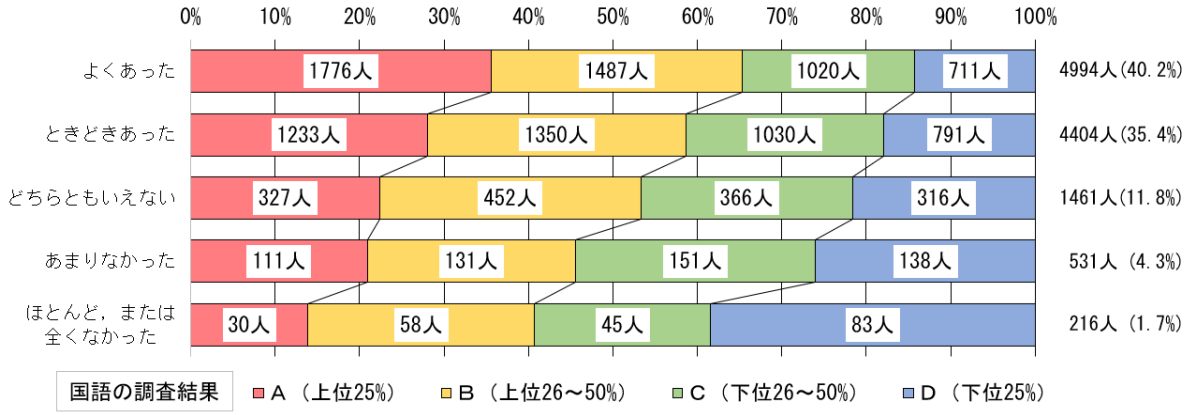
中学校２年生　国語



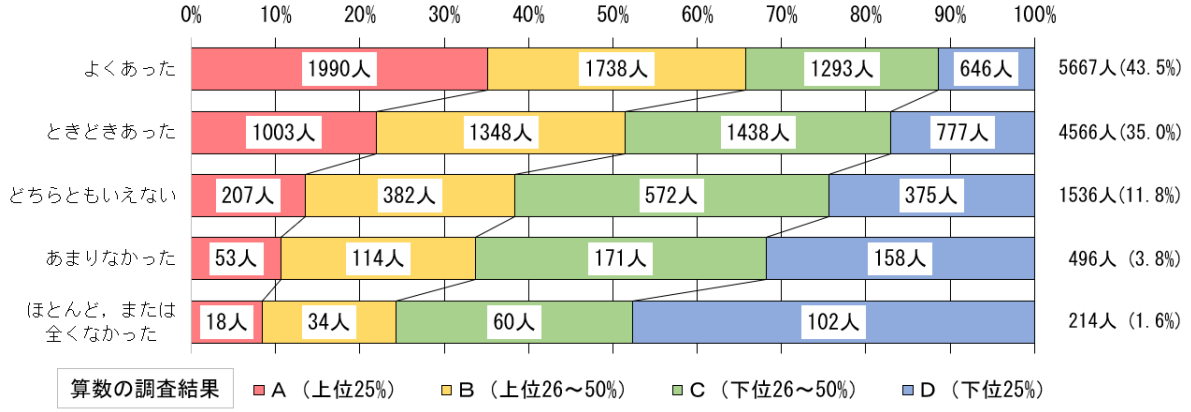
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

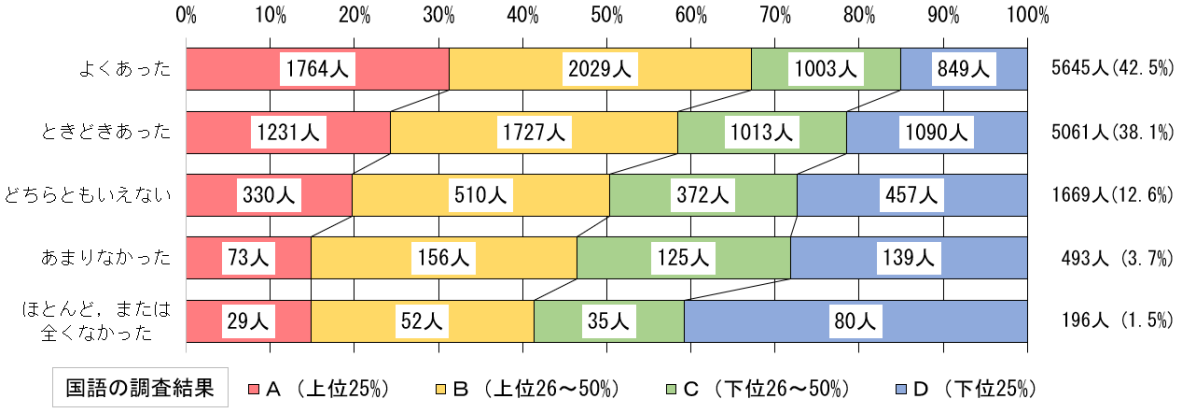
小学校４年生　国語



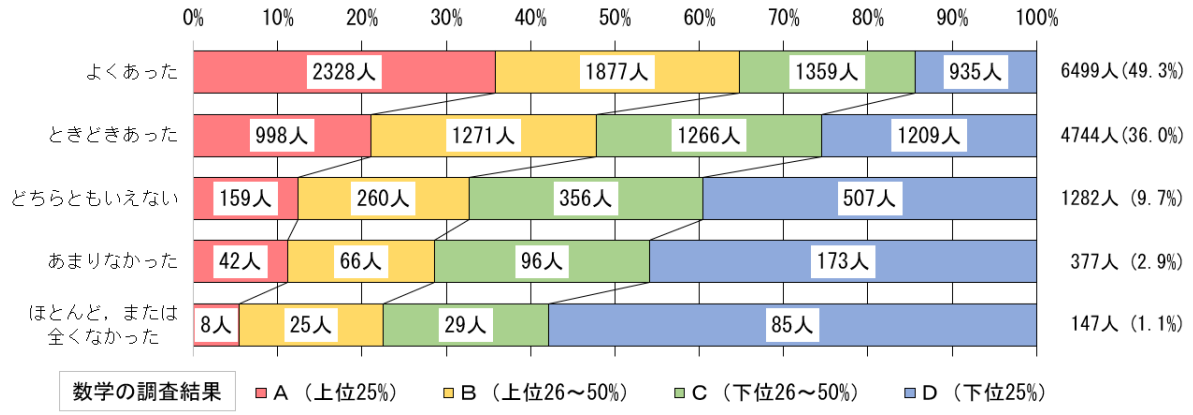
小学校５年生　算数



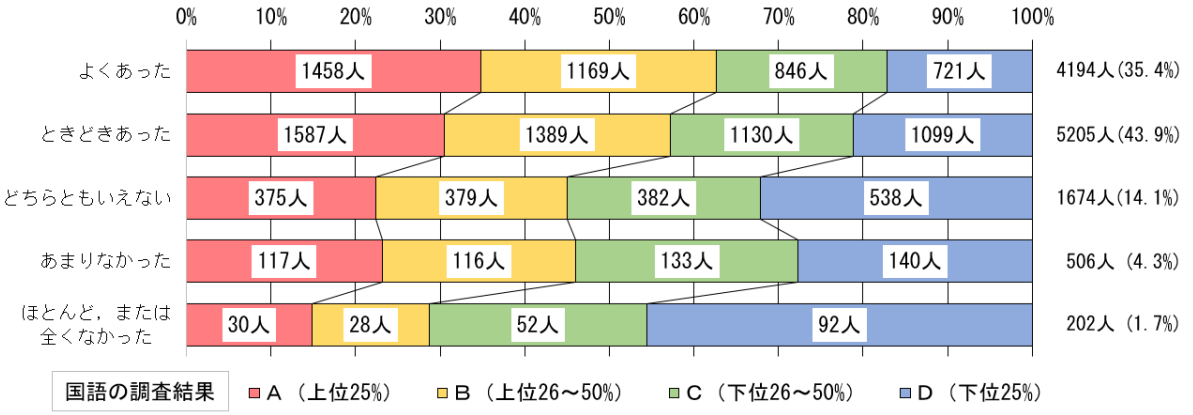
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



中学校２年生　国語



※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

(2)学習意欲や学習環境に関すること

① 調査結果から

○ 授業の内容がよく分かったという児童生徒の実感と「学力レベル」の高さに強い関係が見られた。
○ 学習の準備を整える等の授業に臨む心構えや、友達や先生が自分のよいところを認めてくれたという実感と「学力レベル」の高さに関係が見られた。
○ 教師の話や友達の話を聞き、自分の考えを伝えることができる授業における「聞く」「話す」を安定して実施できることと「学力のレベル」の高さに関係が見られた。

②指導に当たって

◎ 授業を通して児童生徒一人一人が「分かる」「できる」を実感できるよう、問いや手立てを十分に練って単元や授業をデザインしていくことが大切である。また、「分からない」と言える学級風土や、児童生徒の疑問や不安を教師が見取り、安心して学べる学習環境を保障することも大切にしたい。授業の振り返りでは、できるようになったことや、成長したこと、さらに考えてみたいことなどを自分の言葉で整理することが、学力向上につながると考えられる。

◎ 学級経営において、始業前に学習用具を準備しておく等のよりよい学習習慣の形成を図る。教師が積極的に児童生徒のよいところをほめたり、授業中の発言を価値付けたりすること、また、児童生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気を醸成することが大切である。これらにより自己肯定感を高め、学力向上につながると考えられる。

◎ 教師が「話す」授業ではなく、教師が「みる」、「きく」、「つなぐ」授業を意識し、児童生徒が相手を意識した聞き方や話し方ができるようコーディネートしながら、対話的な学びを実現させることが大切である。

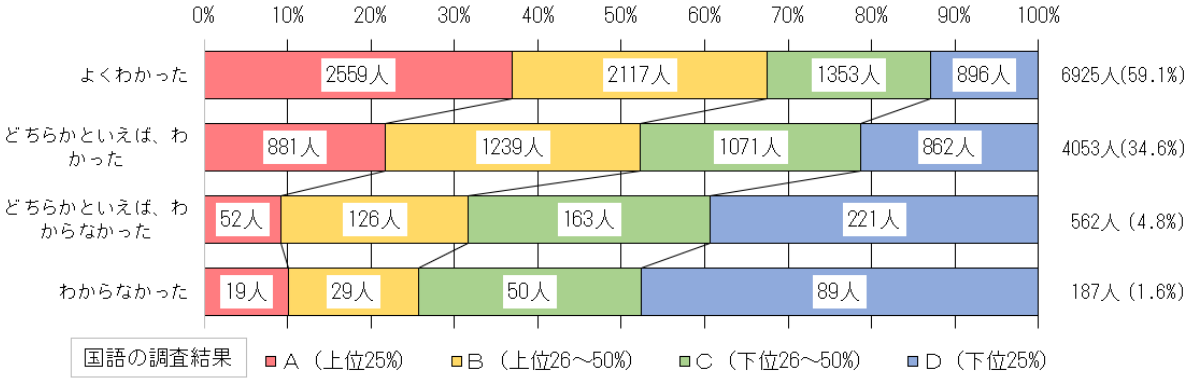
【「ふくしまの『授業スタンダード』」より】
- 学習規律について、発達段階を踏まえて共通実践することを大切にしましょう。
- 普段の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことを大切にしましょう。
- ねらいが達成された具体的な子どもの姿を明確にして単元や授業を構想しましょう。

【「『学びの変革』授業デザイン」より】
「誰一人取り残さないために」
- 「間違えても大丈夫」という心の安定が学びの基盤になります。
- 「先生や友達から大切にされている」という実感が、前向きに取り組む意欲を高めます。
- 「自分で選択・判断し、頑張ることができた」という実感が、自分で考える力を育みます。
- 互いを認め合い、励まし合い、支え合う共感的な人間関係が、協働的な学びを促します。
- 「自分はやればできる」という実感が、子どもの自己有用感を高め、学ぶ意欲を高めます。
- 互いを認め合い、助け合い、高め合う学級の風土は、日々の積み重ねでつくられます。

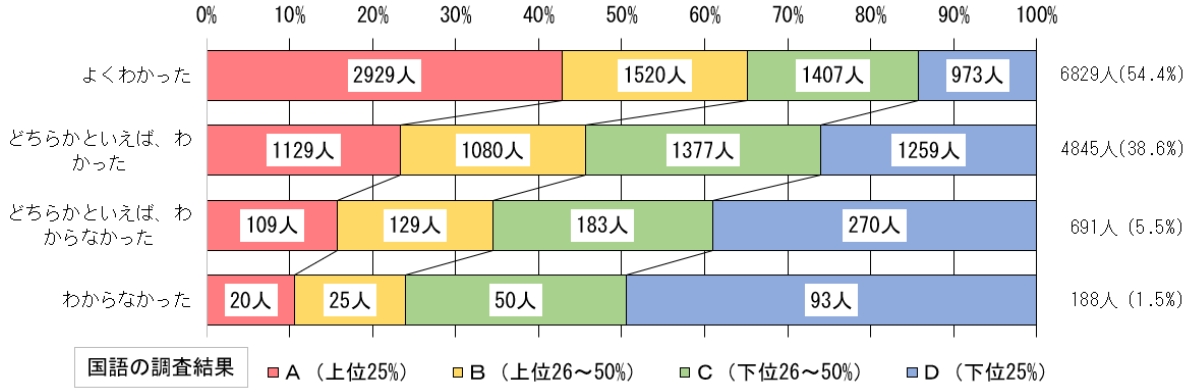
＜児童生徒質問調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『授業の内容はわかりましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

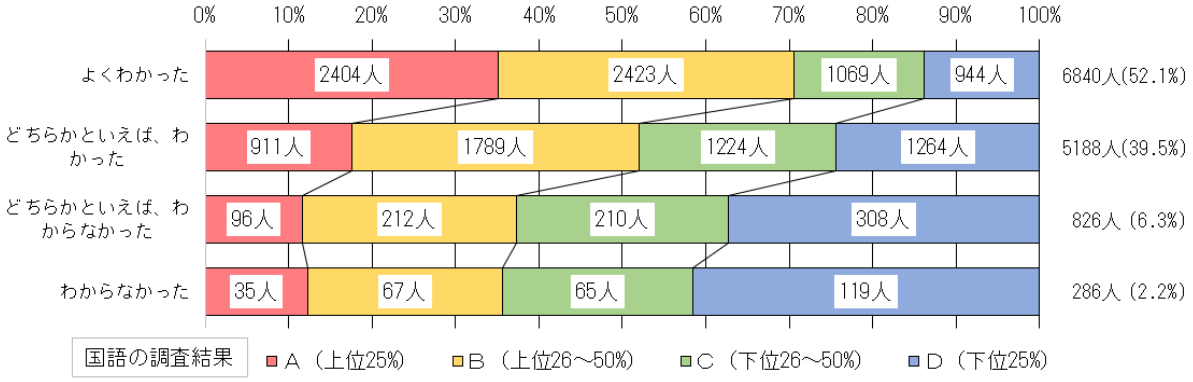
小学校４年生　国語



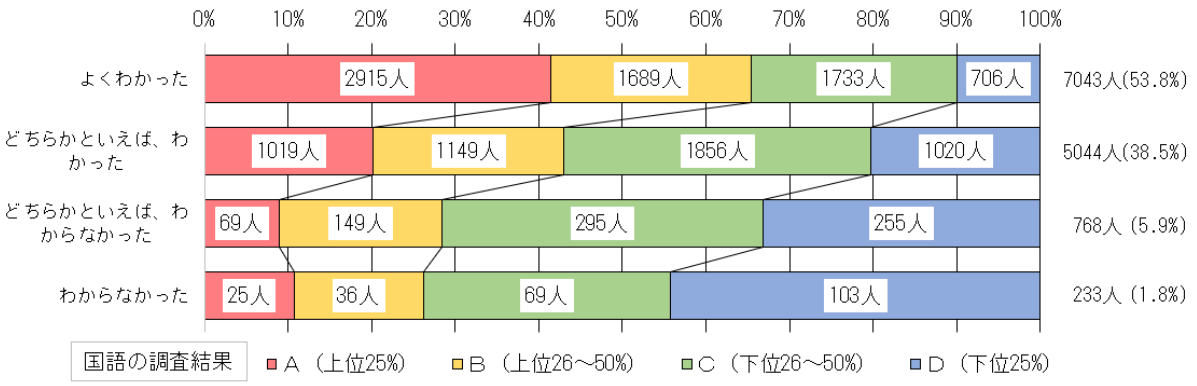
小学校５年生　国語



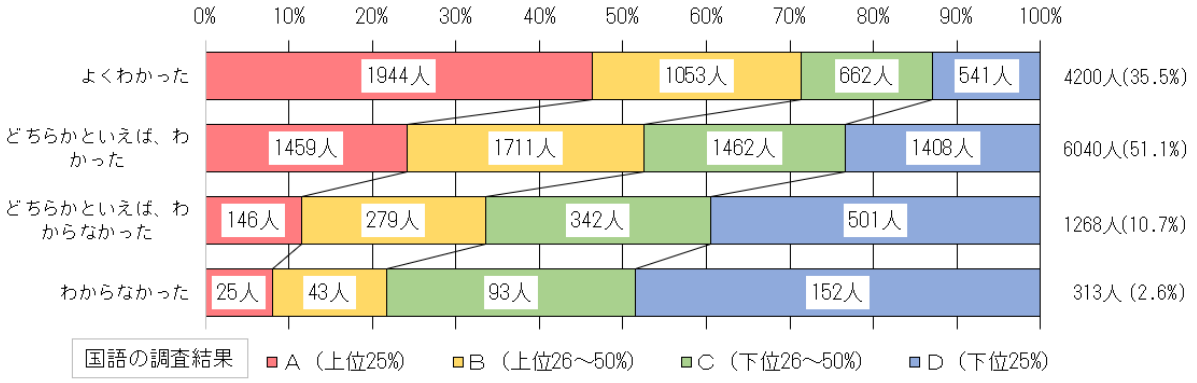
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



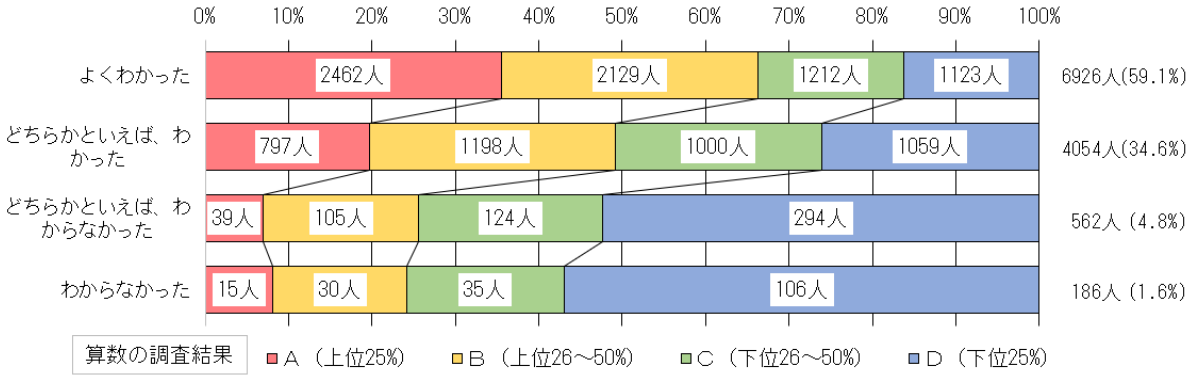
中学校２年生　国語



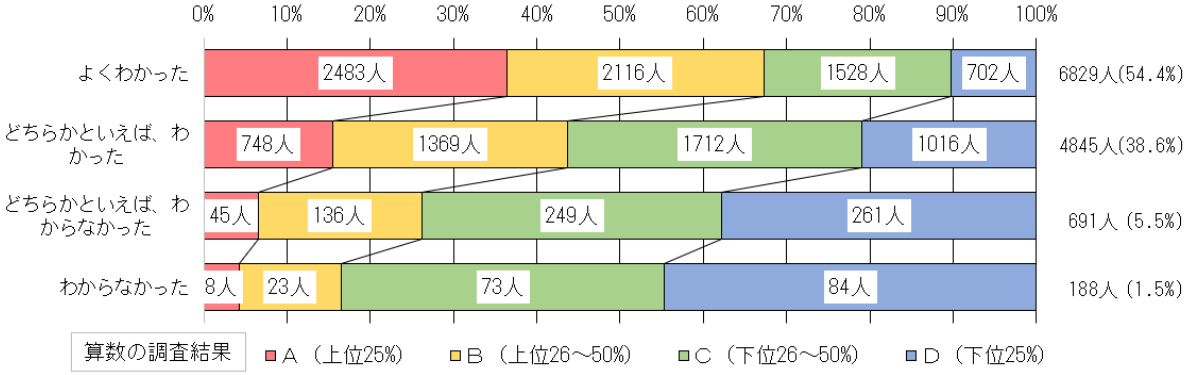
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『授業の内容はわかりましたか』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

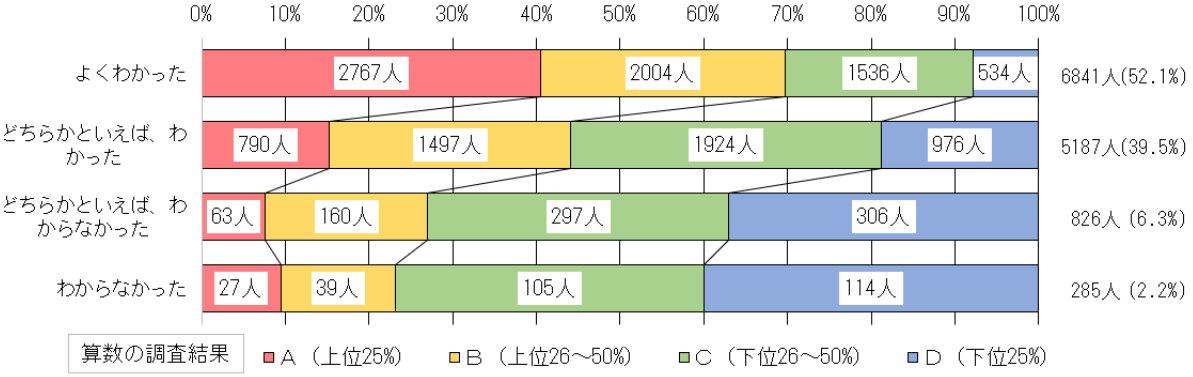
小学校４年生　算数



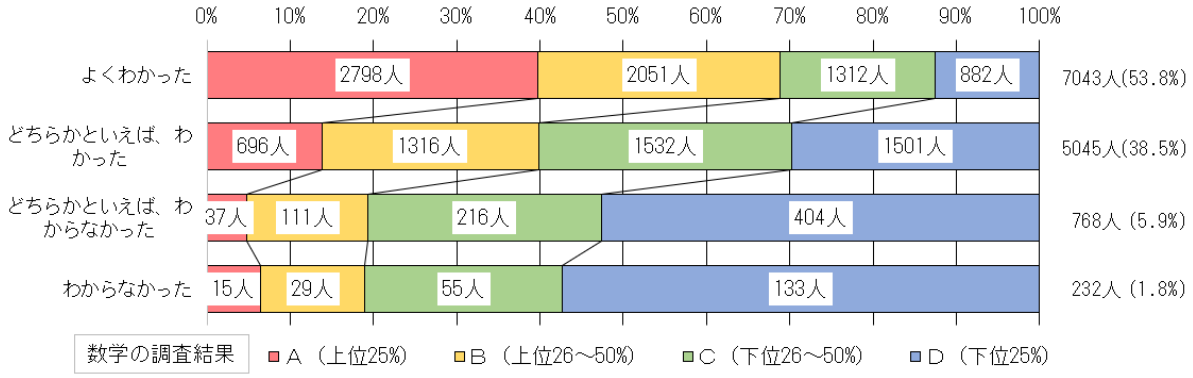
小学校５年生　算数



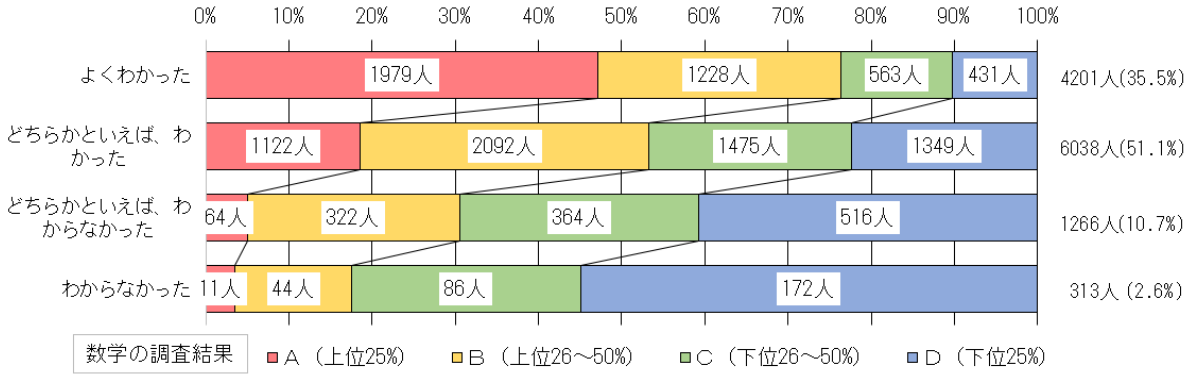
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



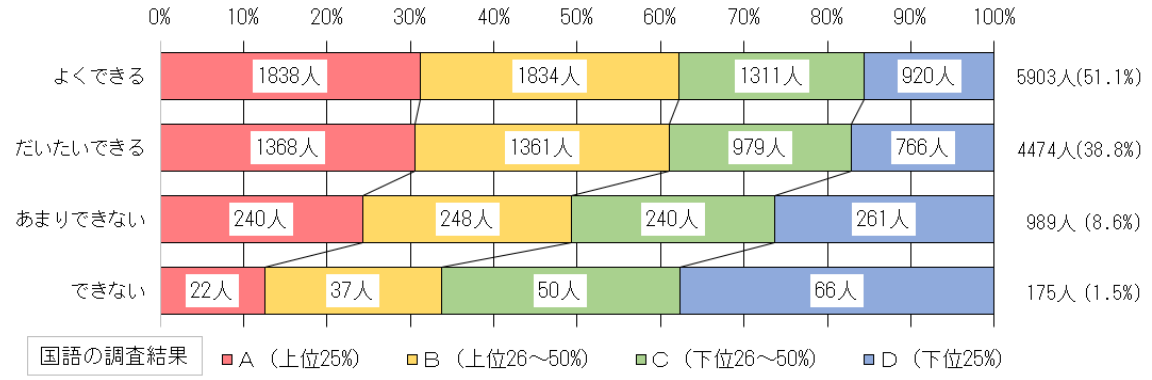
中学校２年生　数学



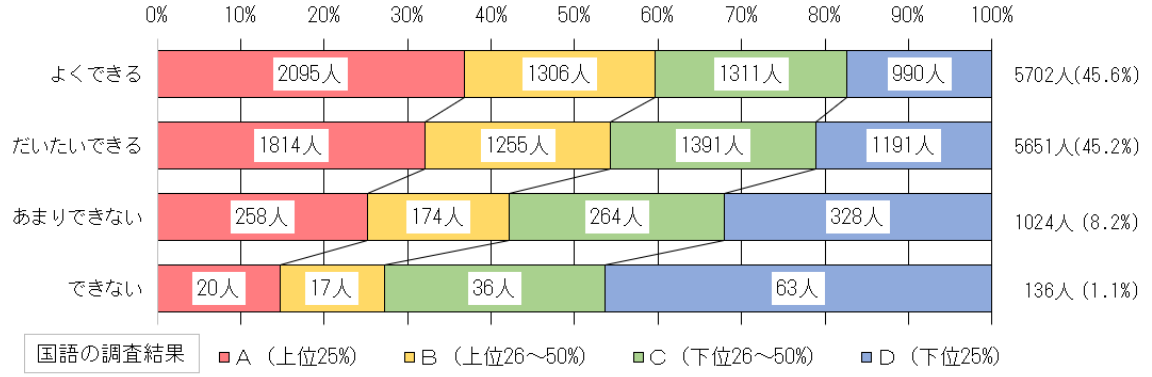
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『授業の前に、机の上に学習用具を準備することができますか（学習の準備を整え、授業に臨むことができますか）』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

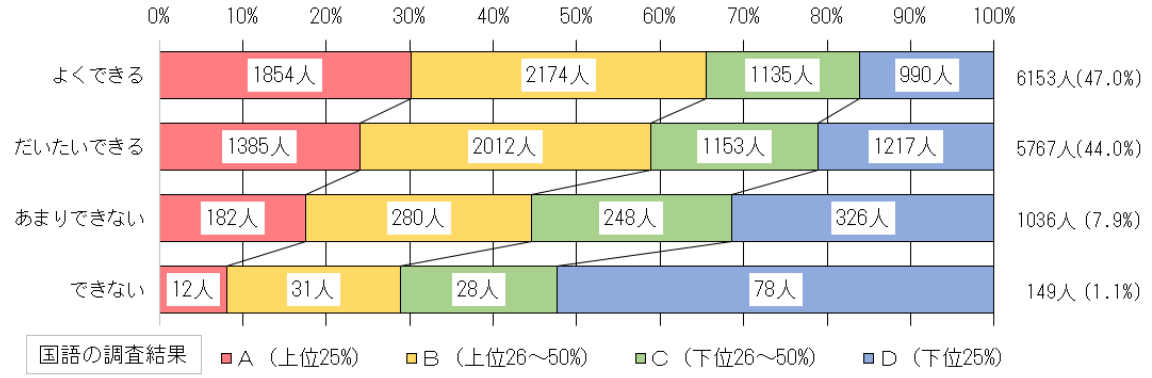
小学校４年生　国語



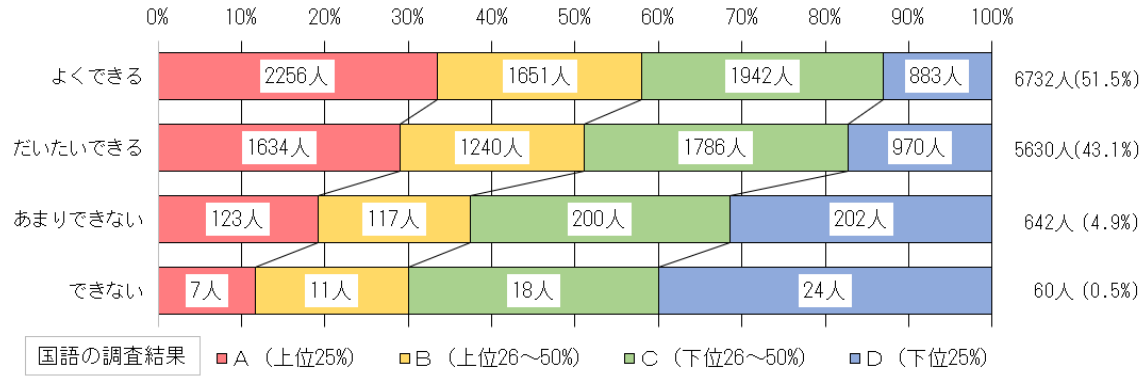
小学校５年生　国語



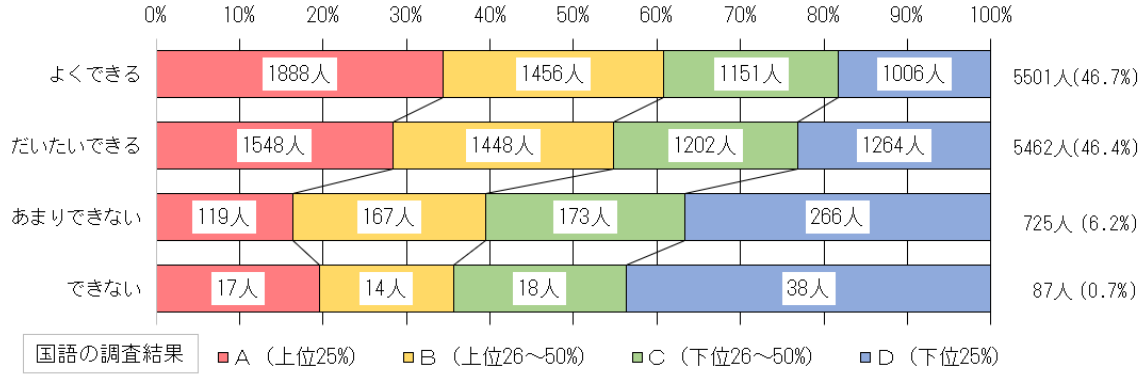
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



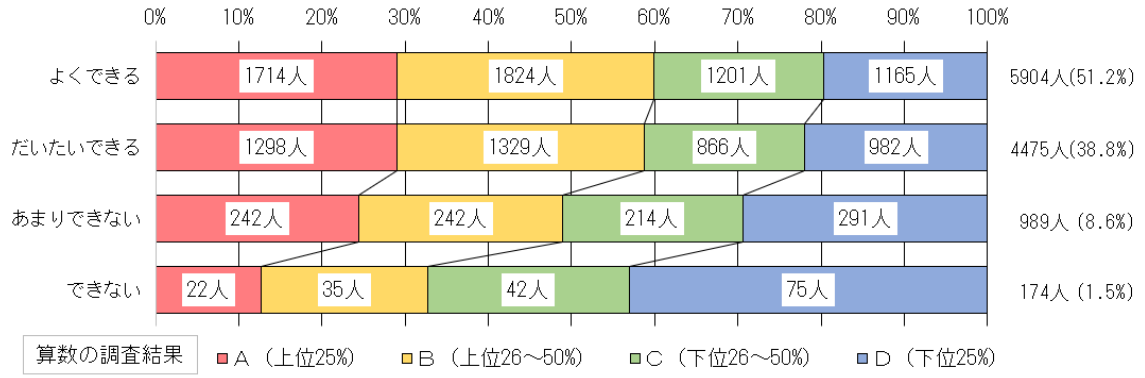
中学校２年生　国語



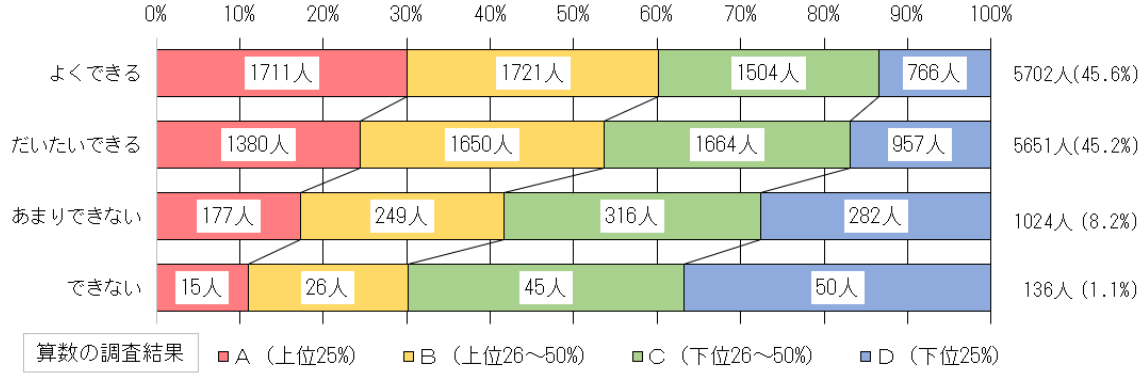
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『授業の前に、机の上に学習用具を準備することができますか（学習の準備を整え、授業に臨むことができますか）』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

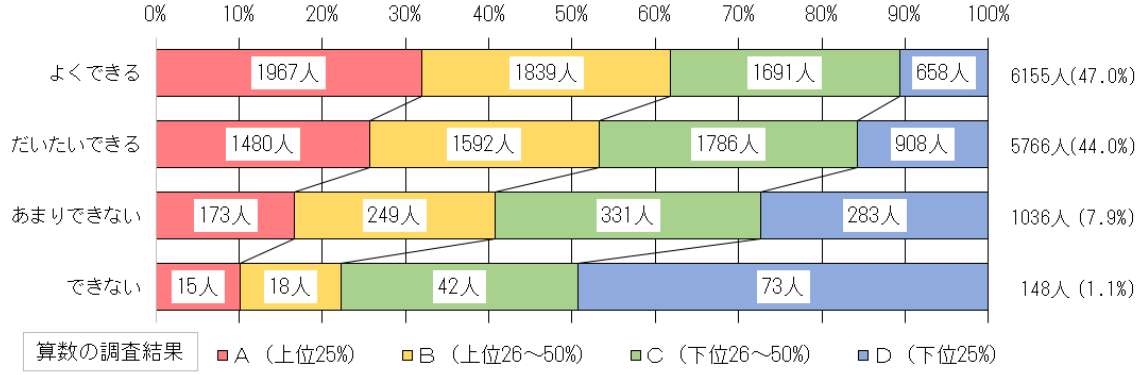
小学校４年生　算数



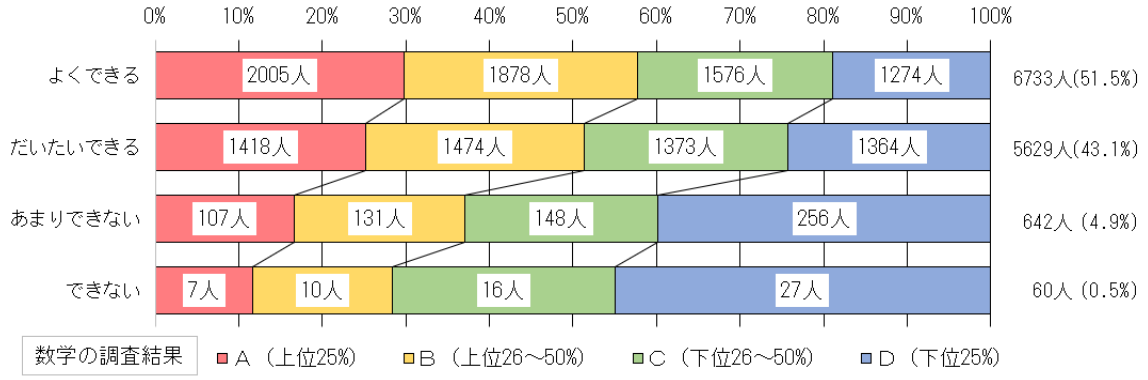
小学校５年生　算数



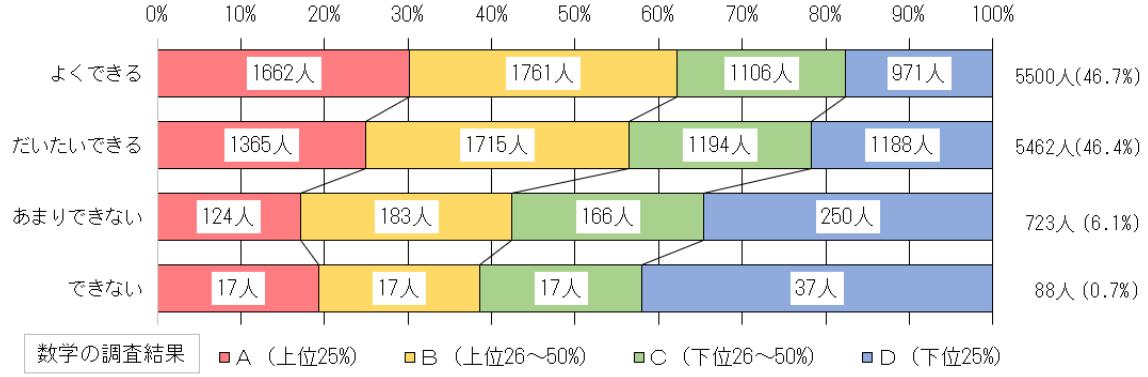
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



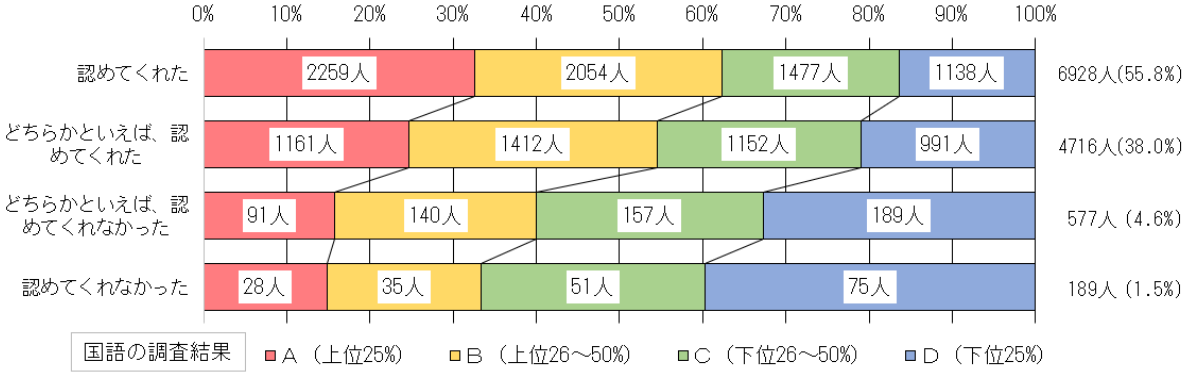
中学校２年生　数学



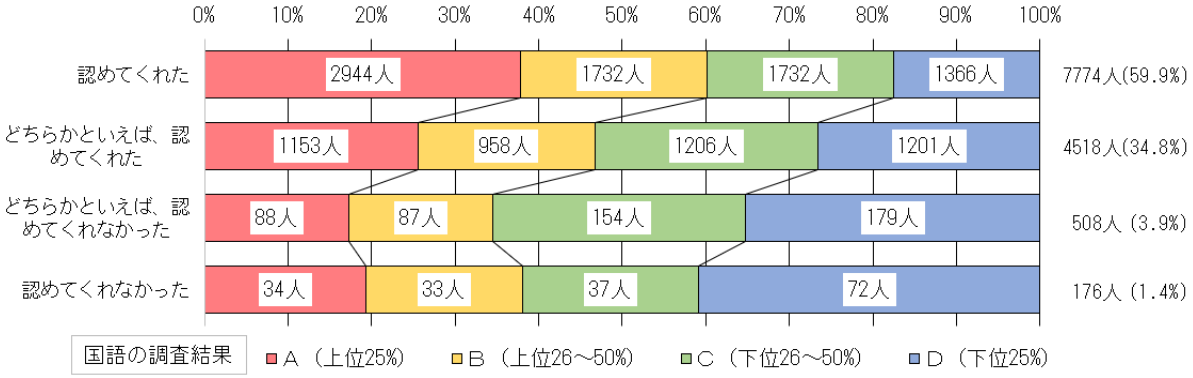
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

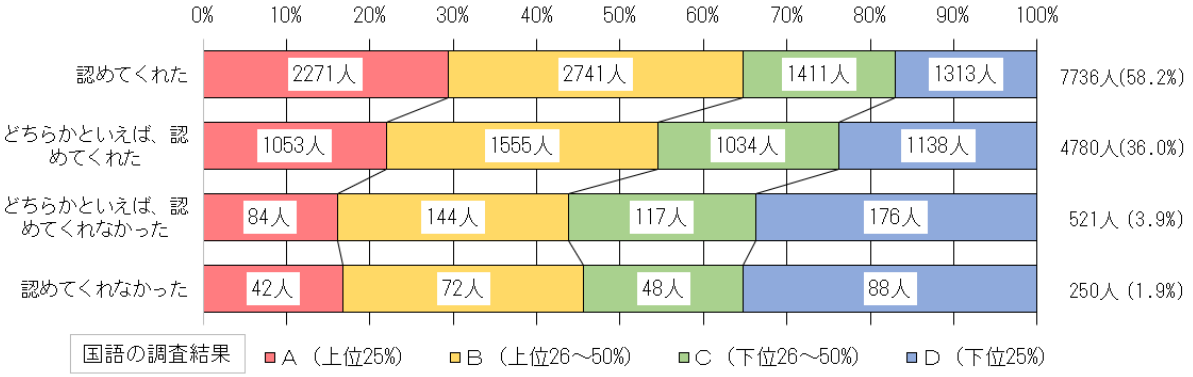
小学校４年生　国語



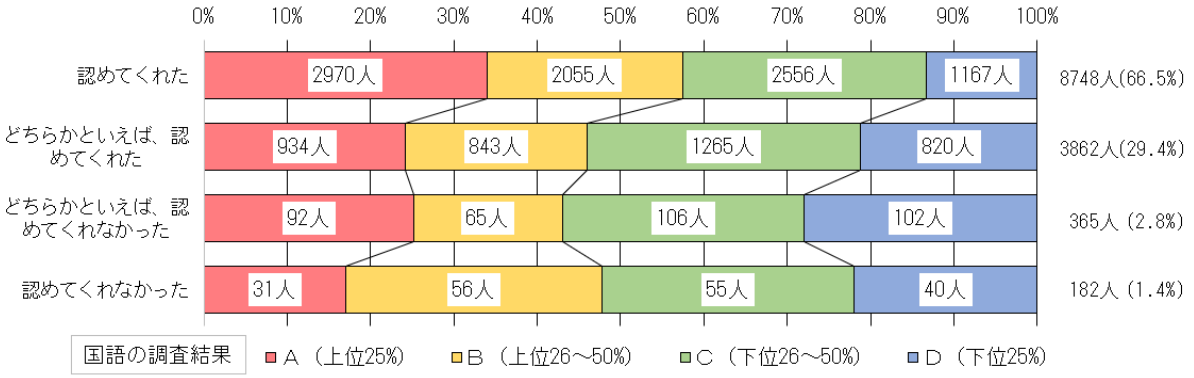
小学校５年生　国語



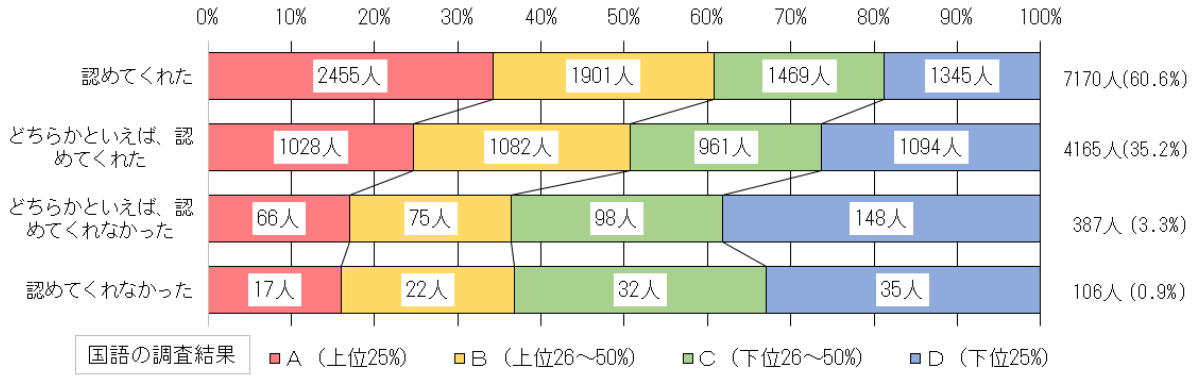
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



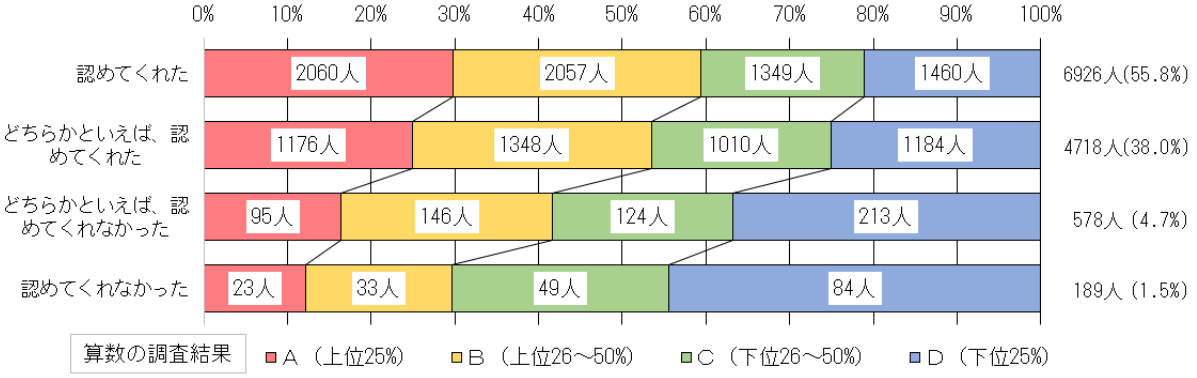
中学校２年生　国語



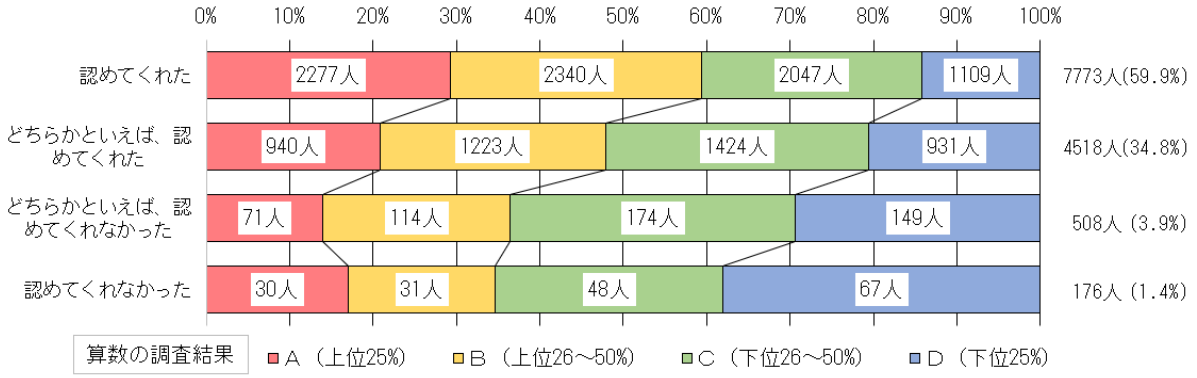
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

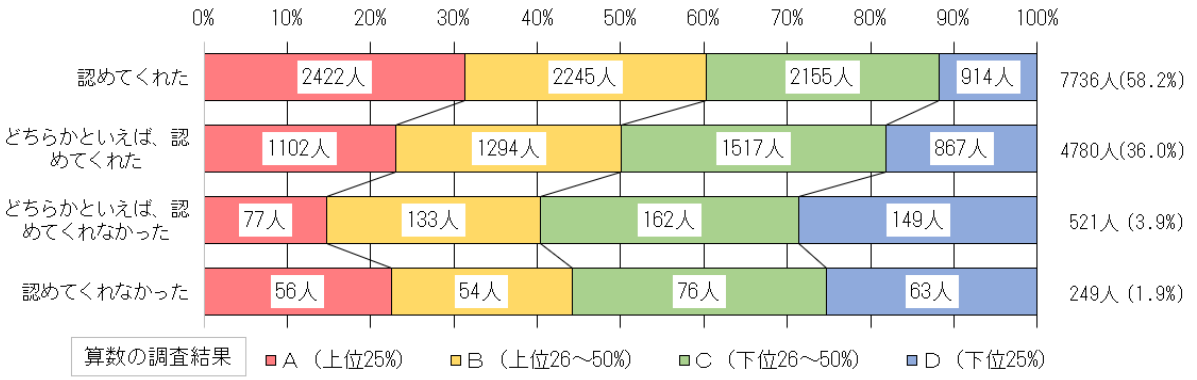
小学校４年生　算数



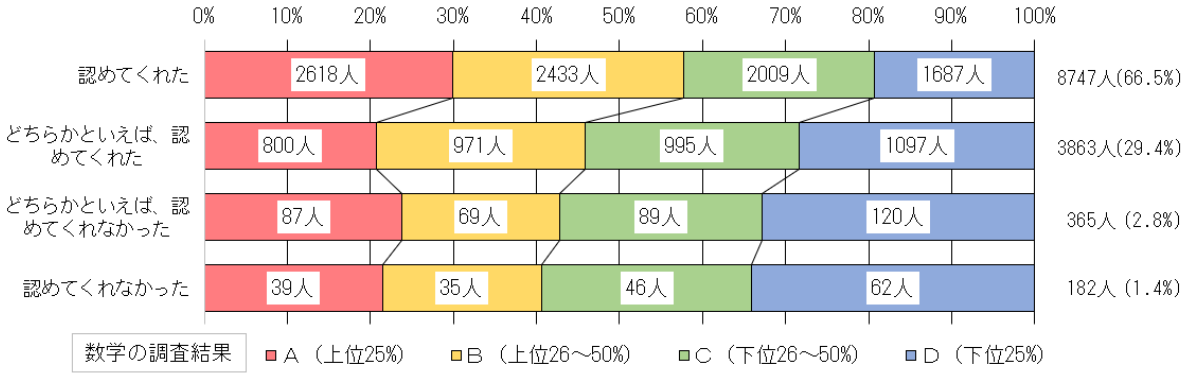
小学校５年生　算数



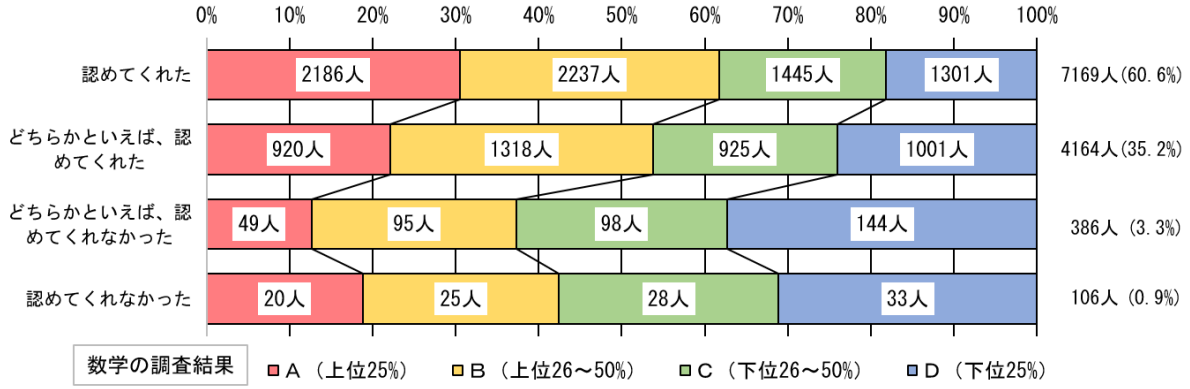
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



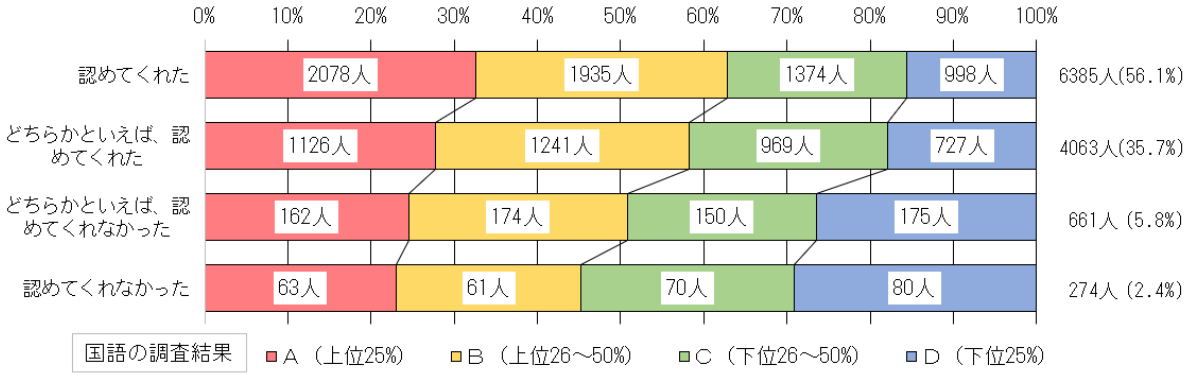
中学校２年生　数学



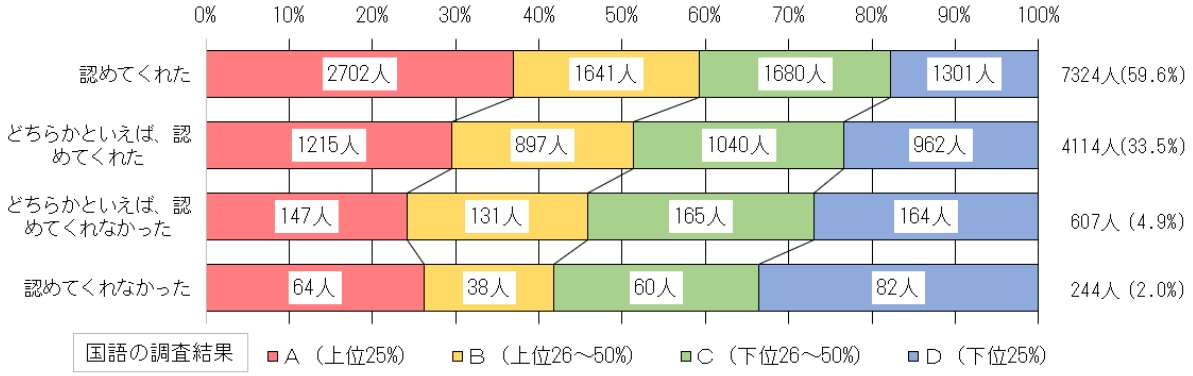
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

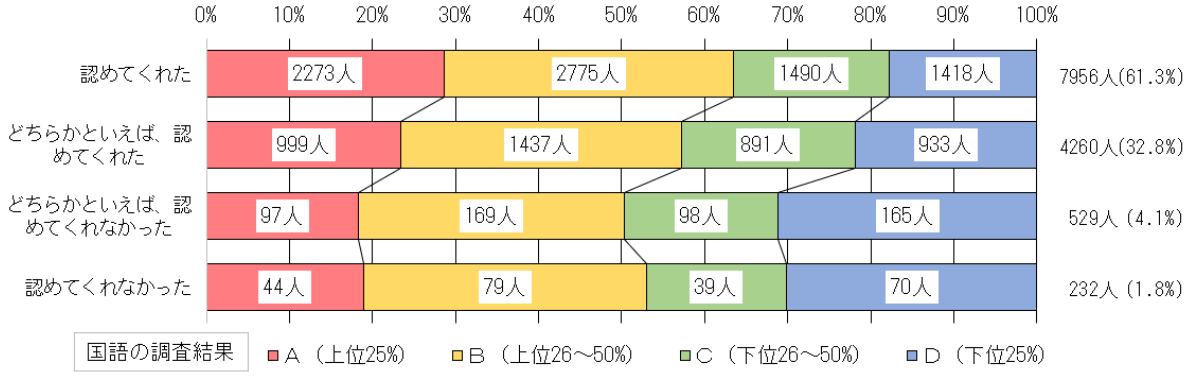
小学校４年生　国語



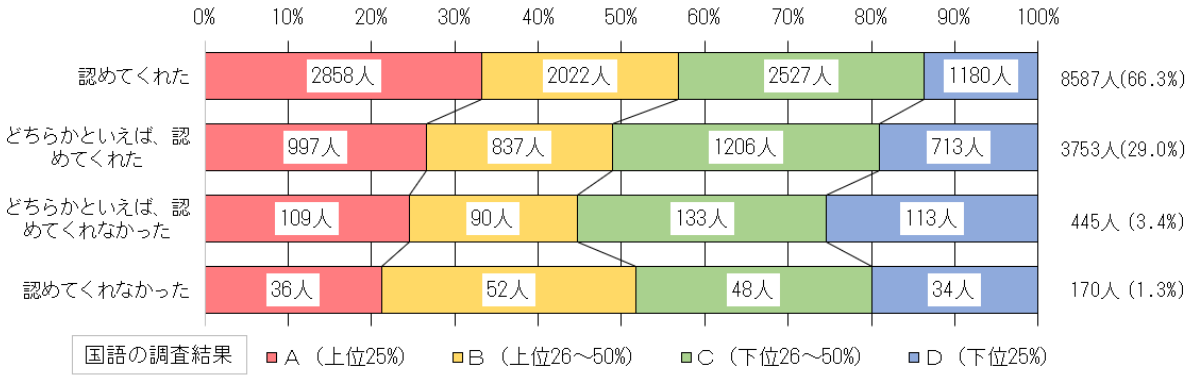
小学校５年生　国語



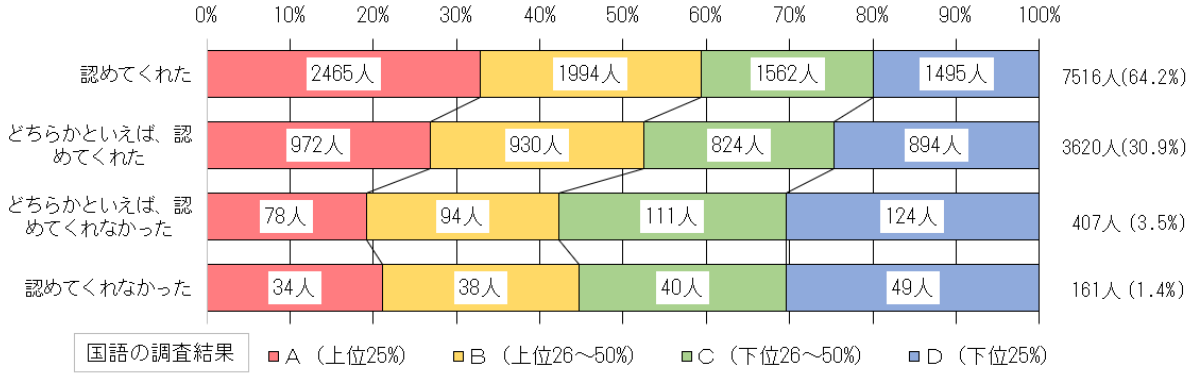
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



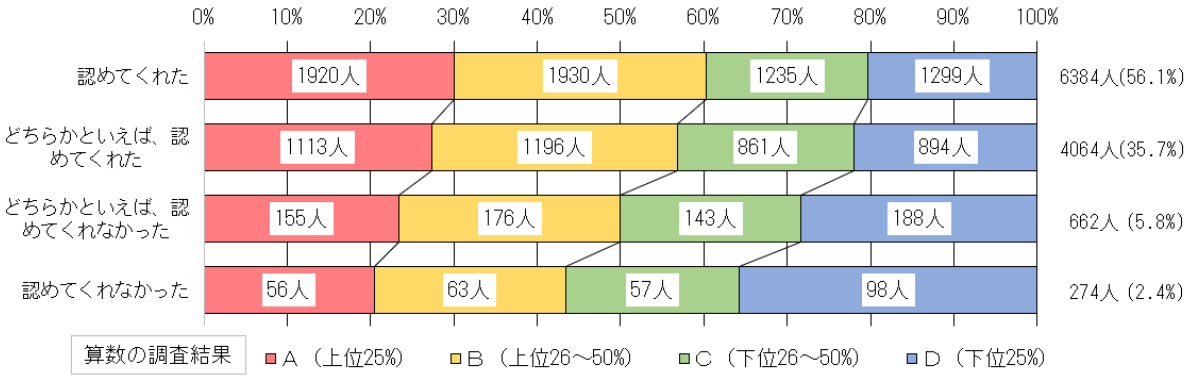
中学校２年生　国語



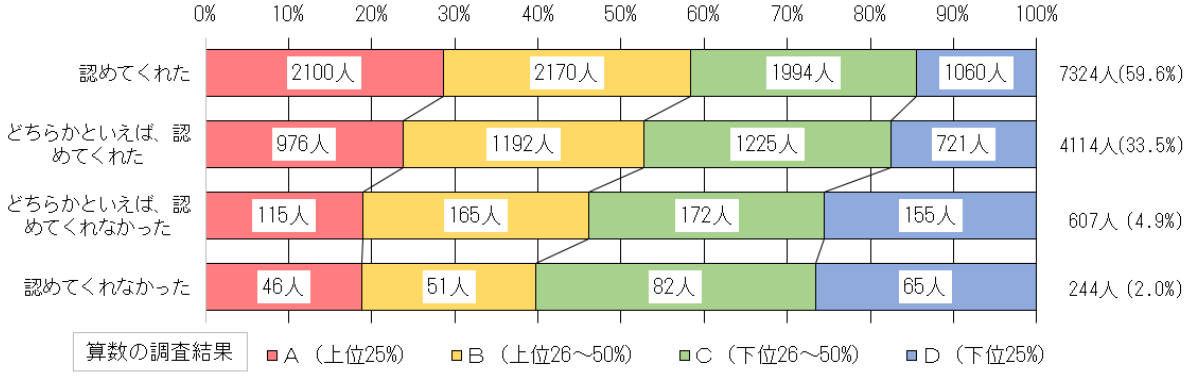
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

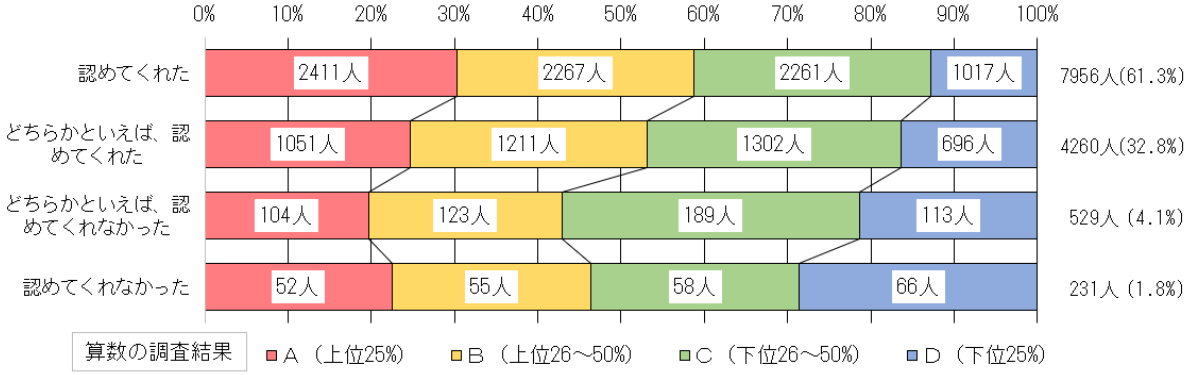
小学校４年生　算数



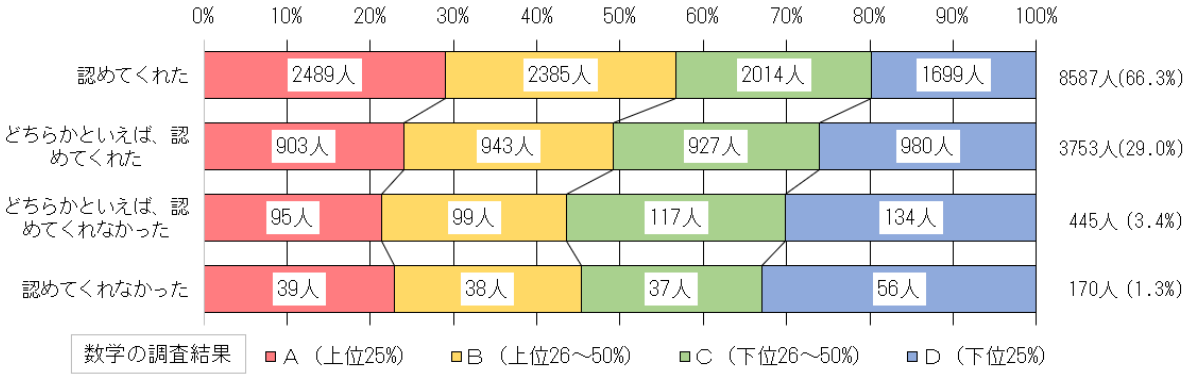
小学校５年生　算数



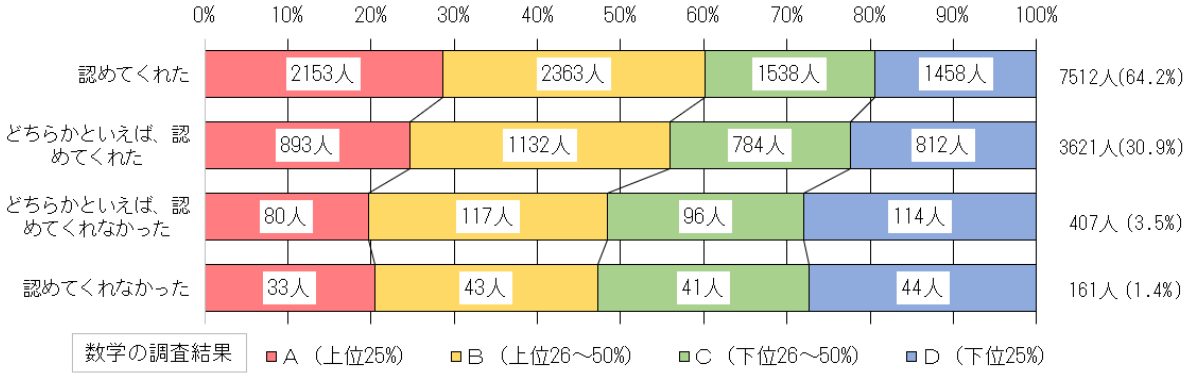
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



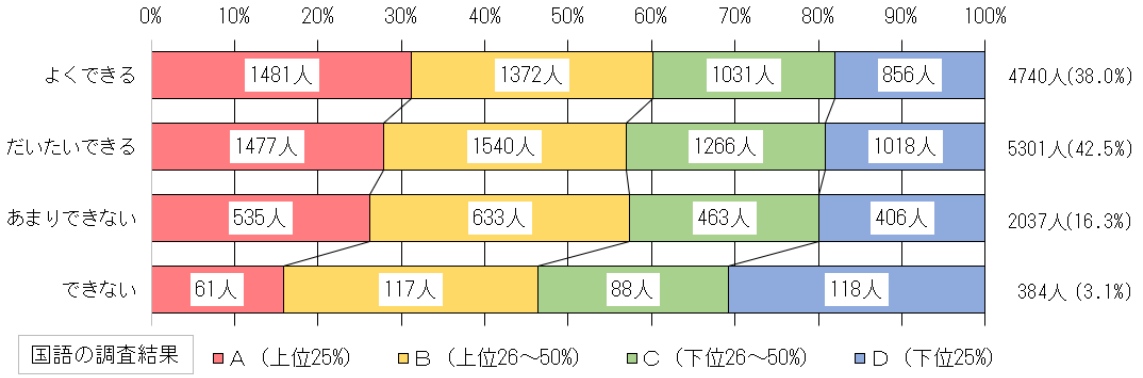
中学校２年生　数学



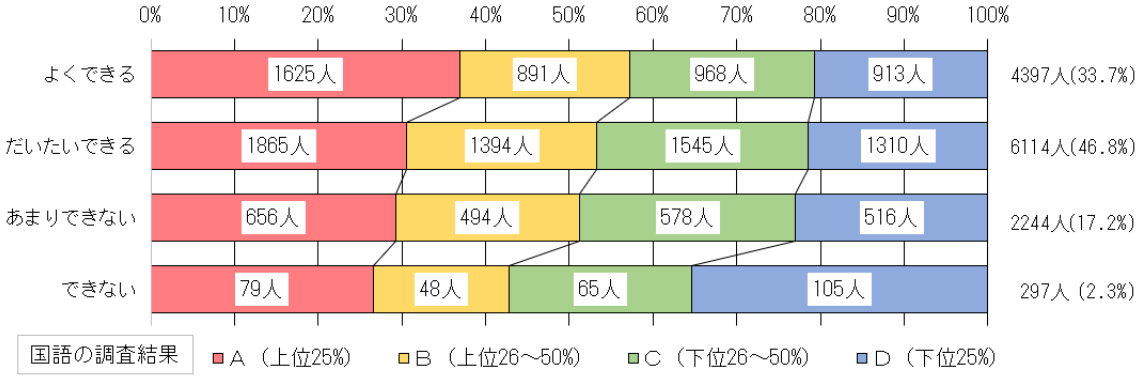
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『先生の話や友達の発表を聞き、発表することができますか
（先生の話や友達の発表を聞き、自分の考えを伝えることができますか）』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

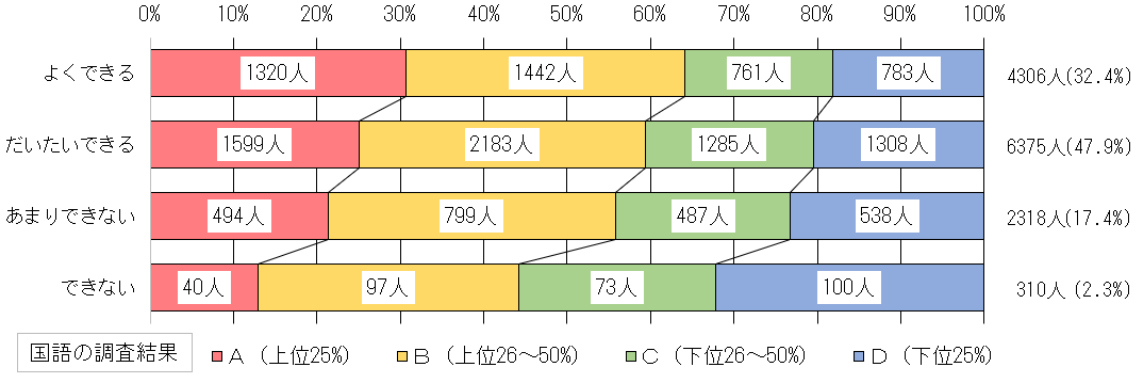
小学校４年生　国語



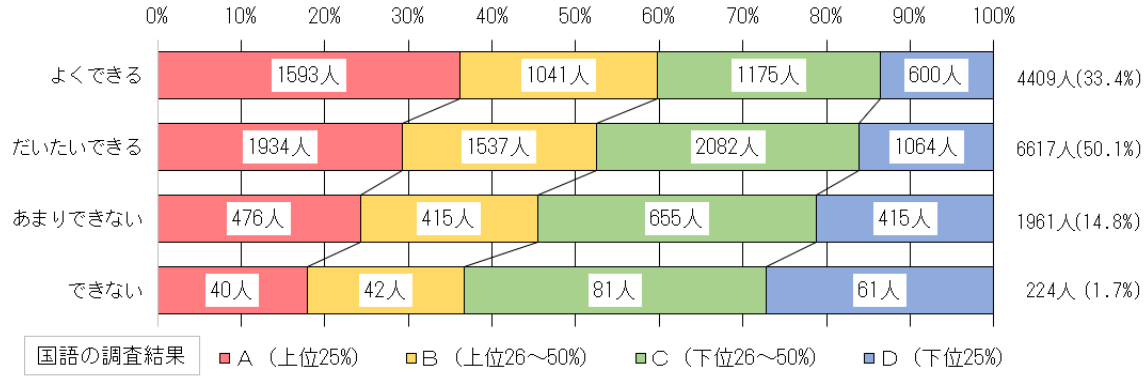
小学校５年生　国語



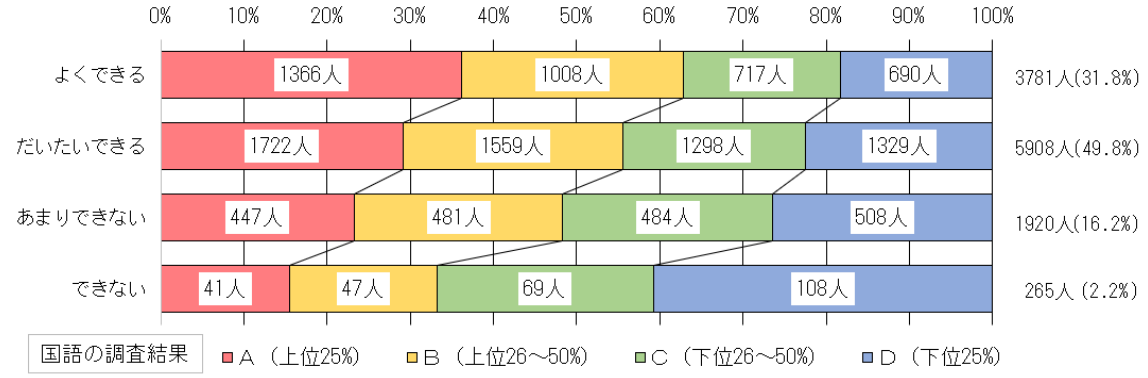
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



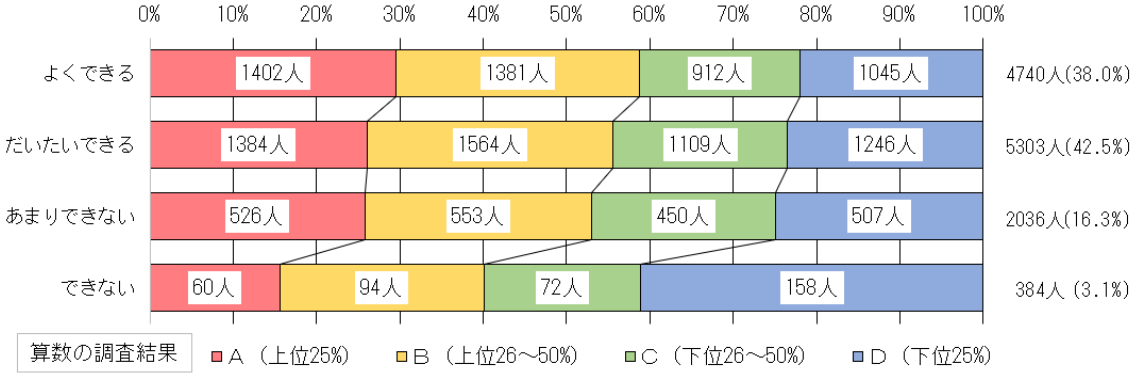
中学校２年生　国語



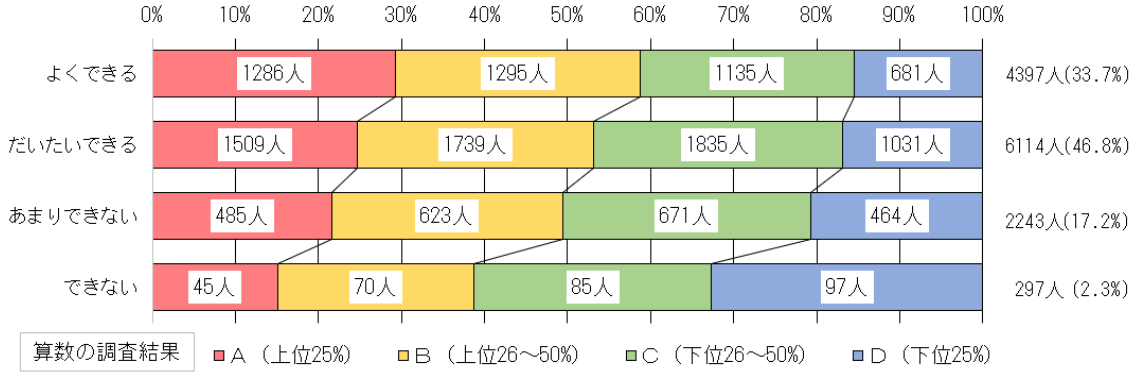
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『先生の話や友達の発表を聞き、発表することができますか
（先生の話や友達の発表を聞き、自分の考えを伝えることができますか）』
横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

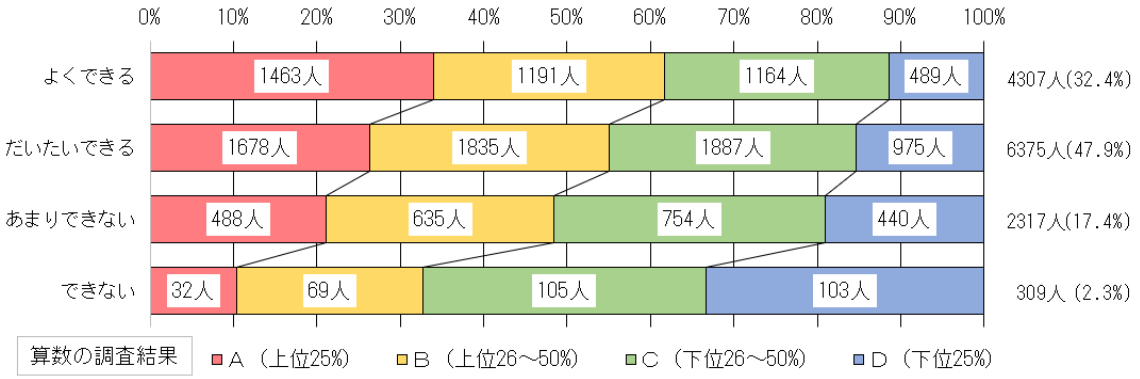
小学校４年生　算数



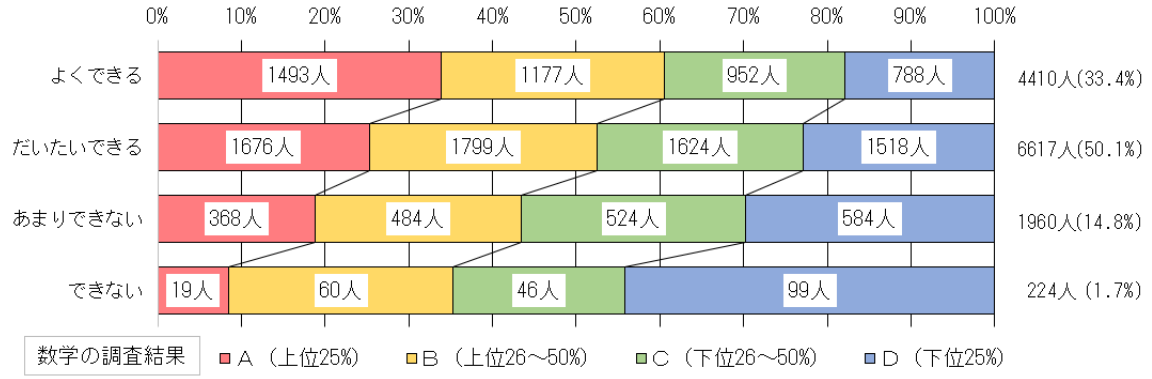
小学校５年生　算数



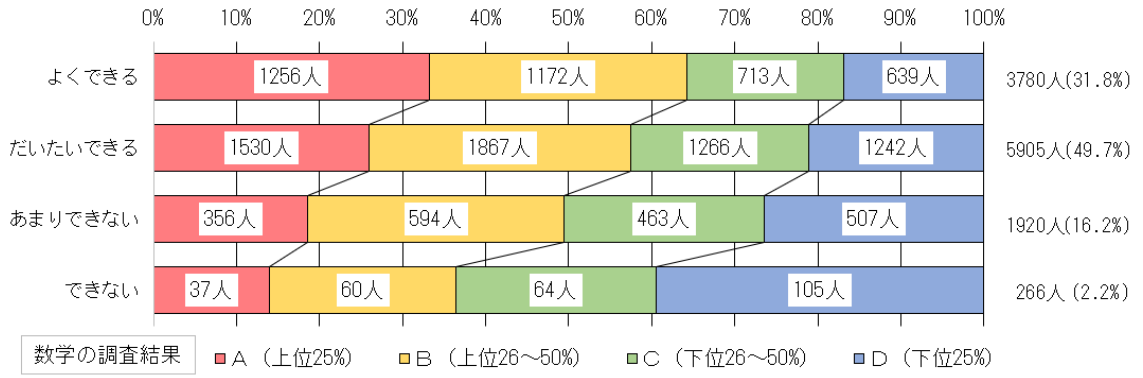
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



中学校２年生　数学



※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

(3)家庭での生活に関すること

①調査結果から

○　土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強する時間の長さと「学力のレベル」の高さに強い関係が見られた。ただし、小学校４・５年生では、１～２時間程度が関係のピークだった。
○　読書の冊数と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。
○　テレビゲーム（コンピュータゲーム）をしたり、携帯電話（スマートフォン）を使ったりすることについて、家の人と約束を決めていることと「学力レベル」の高さに関係が見られた。

②指導に当たって

◎　土曜日や日曜日など休日における家庭学習の時間の確保に加えて、その内容や方法を工夫し、その取組を振り返り見直す機会を設ける等、学校と家庭・地域の連携を図りながら児童生徒の自己マネジメント力を育むことが大切である。

◎　読書に親しむ機会を増やすことや読書環境を整えることなど、引き続き読書量を増やす取組をすることは、学力の向上に寄与するものである。今後も学校や地域の図書館などを活用し、児童生徒に幅広い読書活動を促すことが大切である。

◎　情報モラルについては、学校のカリキュラムの中で計画的・具体的に指導するとともに、学校と家庭が連携して子どもとテレビゲームやスマートフォンの利用時間等について対話したり、考えたりしてルールを決めるなどの、自己決定・自己調整力育成の視点も大切である。

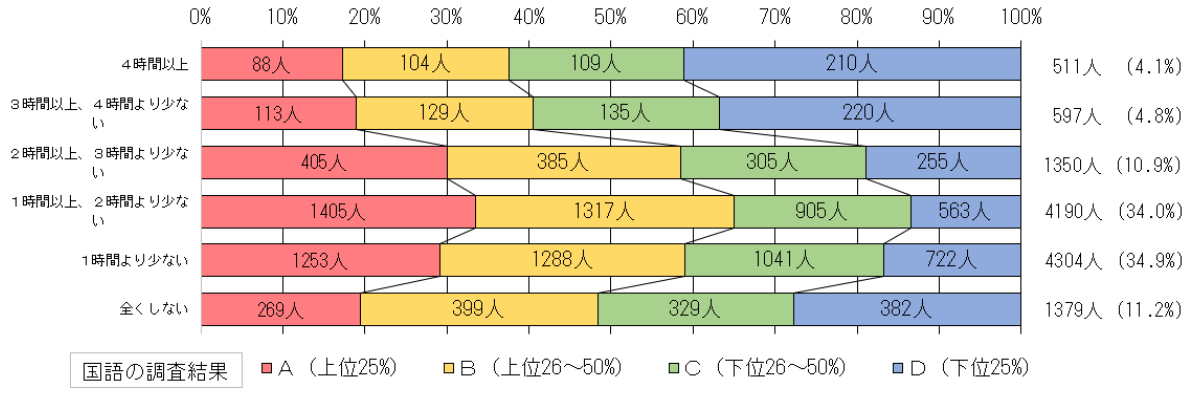
【「『学びの変革』授業デザイン」より】
- 家庭学習の内容及び方法等を見つめ直すことにより、すべての子どもに「自己マネジメント力」を育みます。
- 家庭学習は「個別最適な学び」を進める絶好の機会です。子どもの興味・関心や学習の進度、習熟度等は、一人一人異なります。多様な学習方法や教材等を提供することで、子どもが自分にあった方法や内容を選択し、「自分で選ぶ、自分で決める、自分で進める」学びを広げていきましょう。
- 学習方法の１つとして、１人１台端末を活用することで、子ども一人一人の実態に応じて、取り組む内容や量、時間等を調整することができます。
- 授業とつながる家庭学習に取り組むことで、学びが連続します。子どもが事前に資料や教科書を読んでおくことで、授業に時間的なゆとりが生まれます。
- 家庭や地域と連携しながら、子どもが集中して学習に取り組める環境や習慣をつくることも大切です。
- 子ども一人一人の頑張っている過程を認め、称賛することで、自信につなげられるようにしていきましょう。

【「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」より】
（家庭への働きかけとして）
- 「心の支え」の視点から、家庭でのコミュニケーションを大切にしていきましょう。
- 「習慣づくり」の視点から、テレビやゲーム、スマホなどをするときのルールを決めましょう。また、「起床時刻」や「就寝時刻」、「学習を始める時刻」等の約束ごとも、保護者と児童生徒が話し合い、家族みんなで規則正しい生活を心がけましょう。

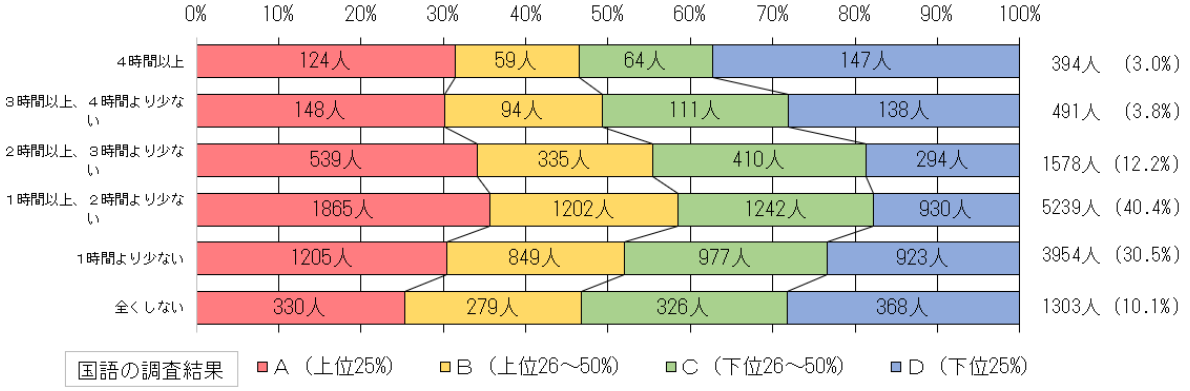
縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含みます）』

横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

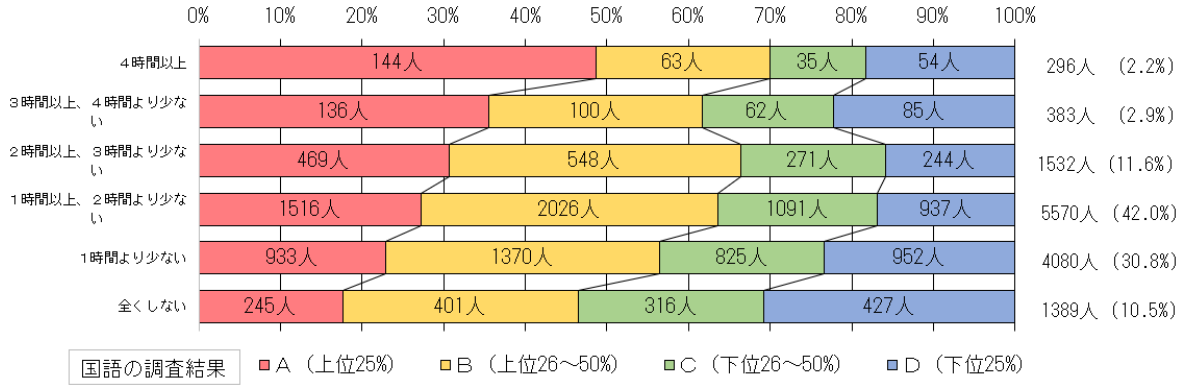
小学校４年生　国語



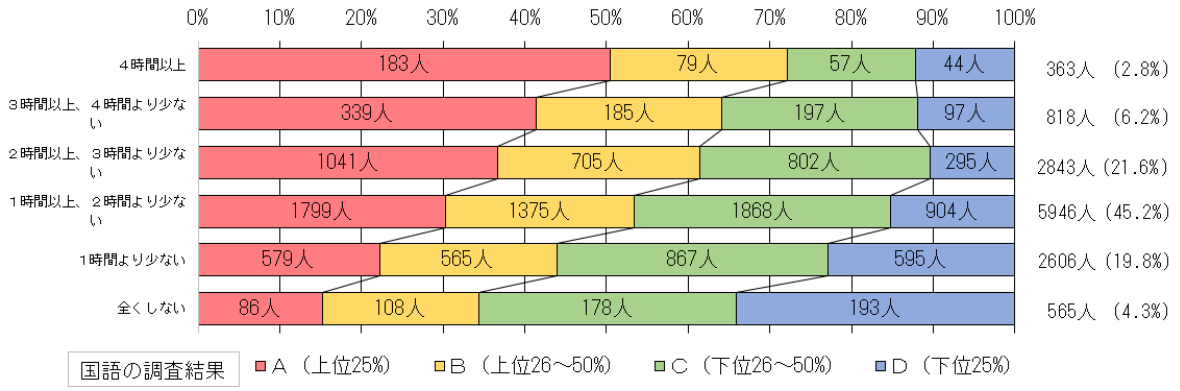
小学校５年生　国語



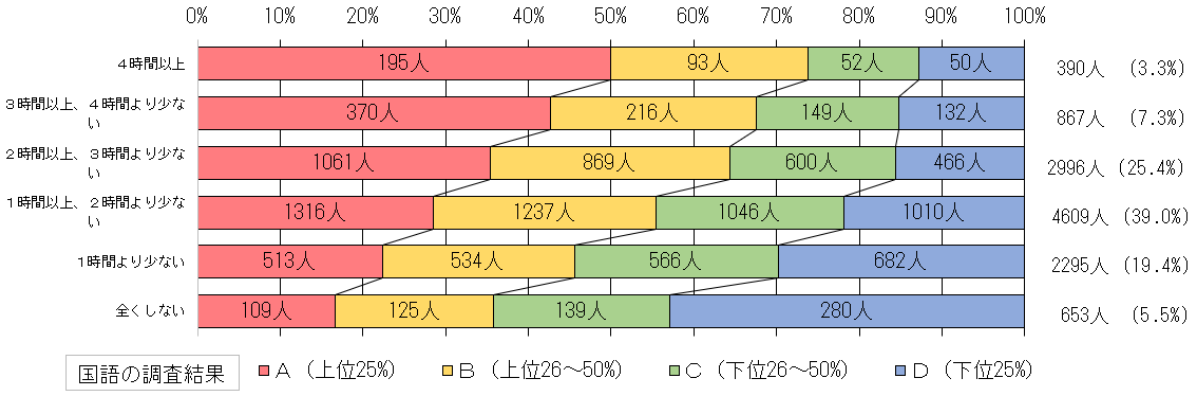
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



中学校２年生　国語

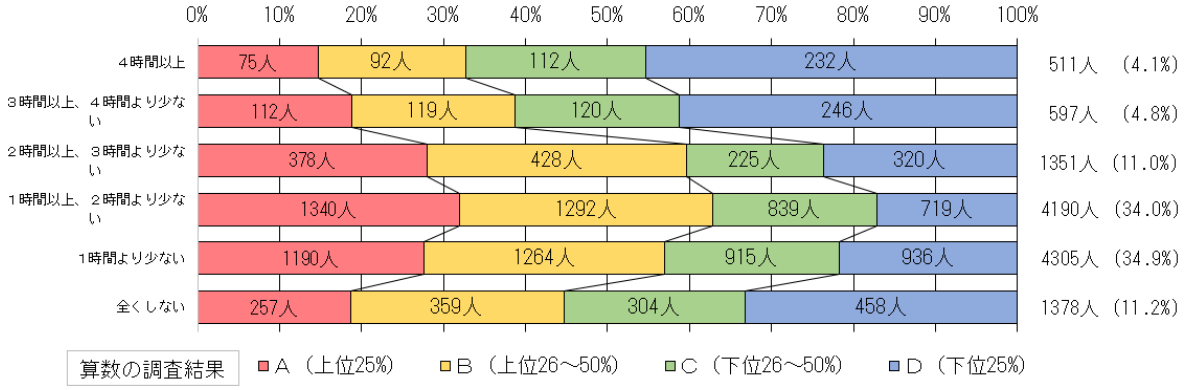


※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

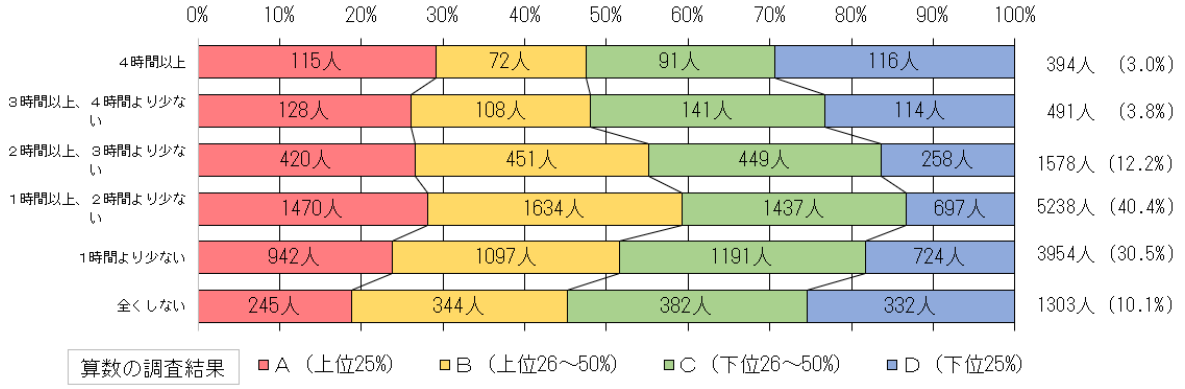
縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含みます）』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

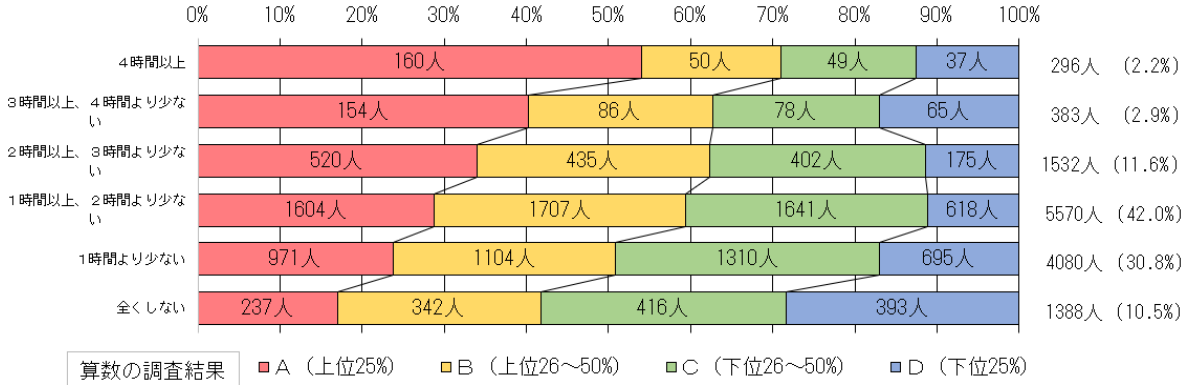
小学校４年生　算数



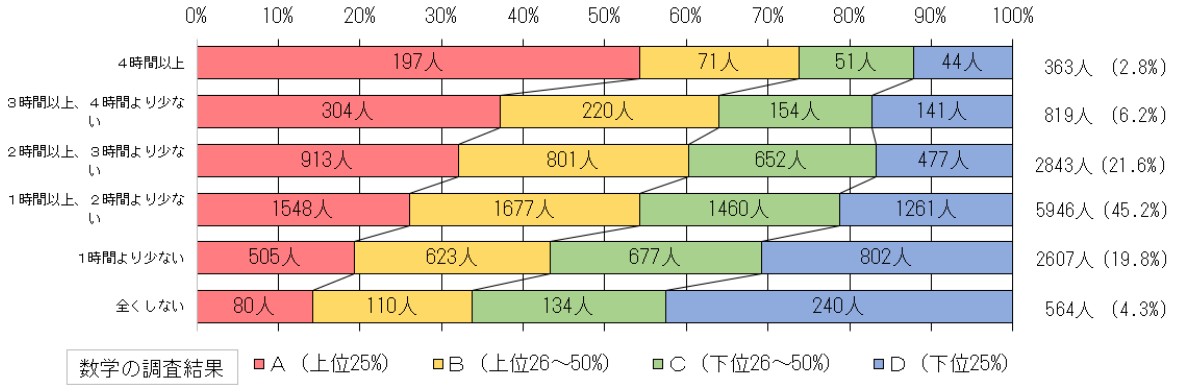
小学校５年生　算数



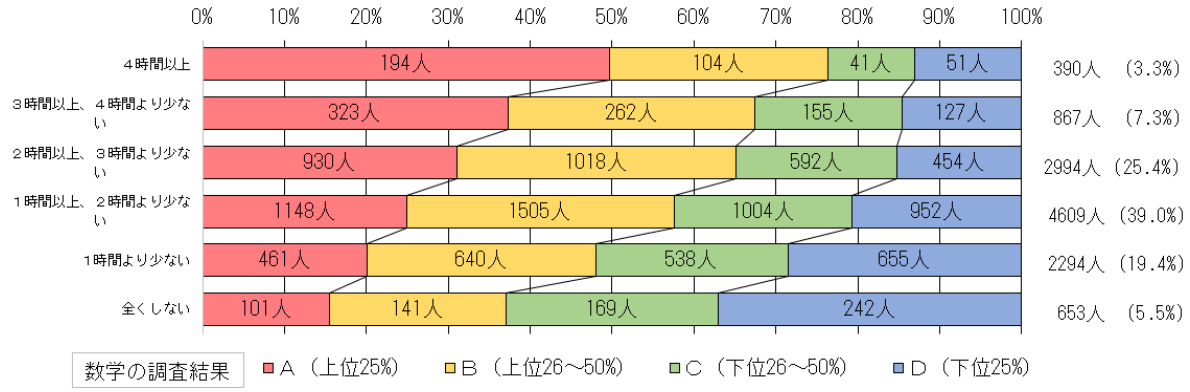
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



中学校２年生　数学

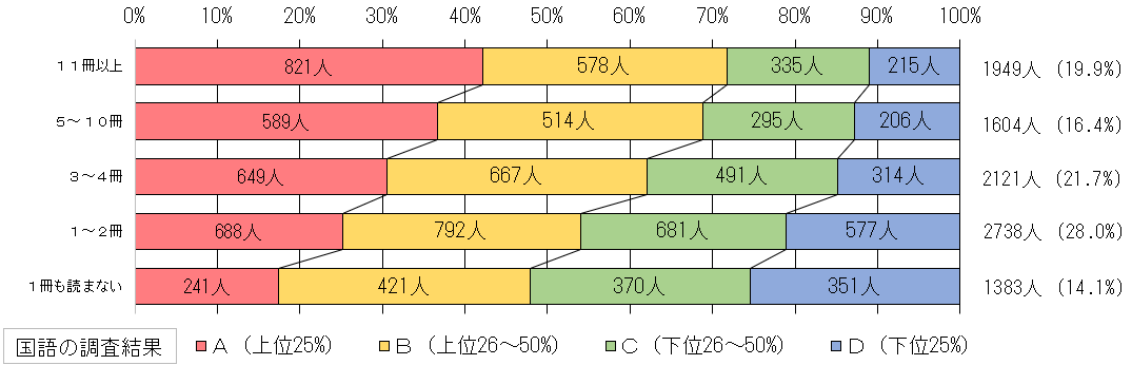


※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

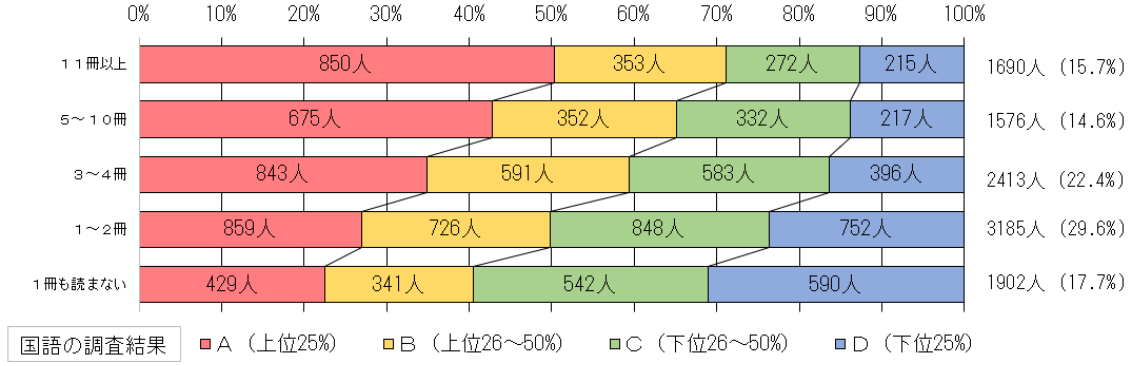
縦軸：質問『１か月に、何冊くらいの本を読みますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）』

横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

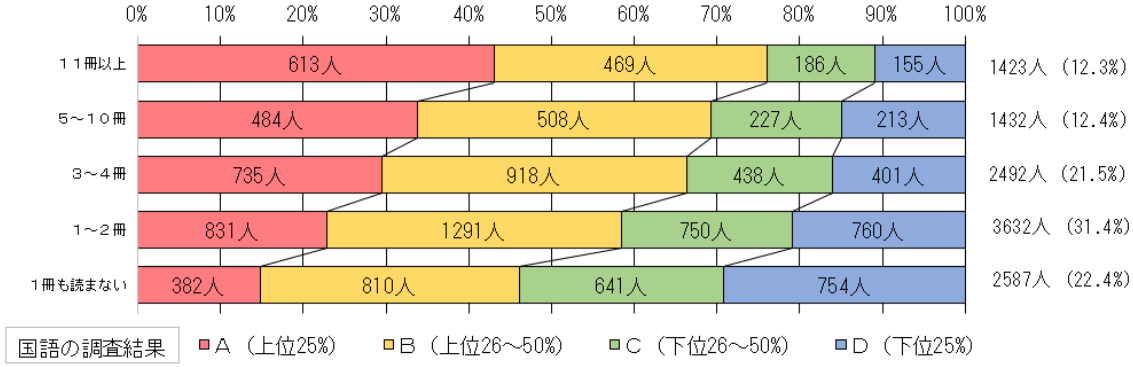
小学校４年生　国語



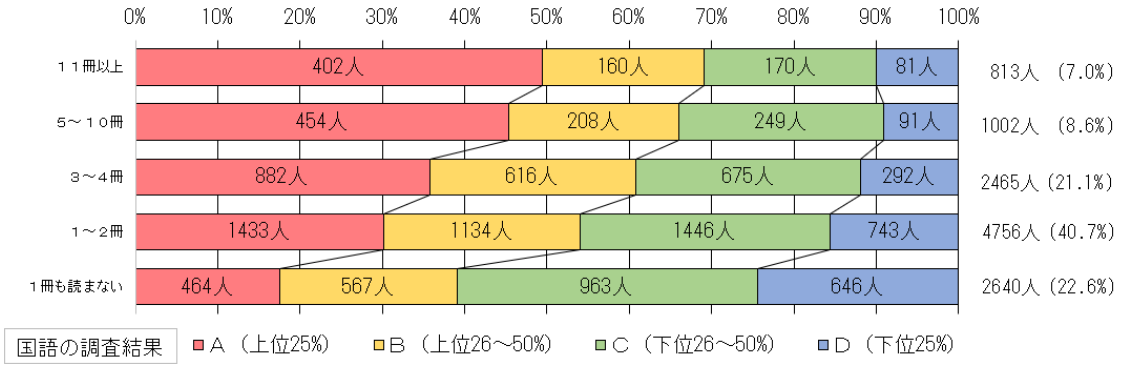
小学校５年生　国語



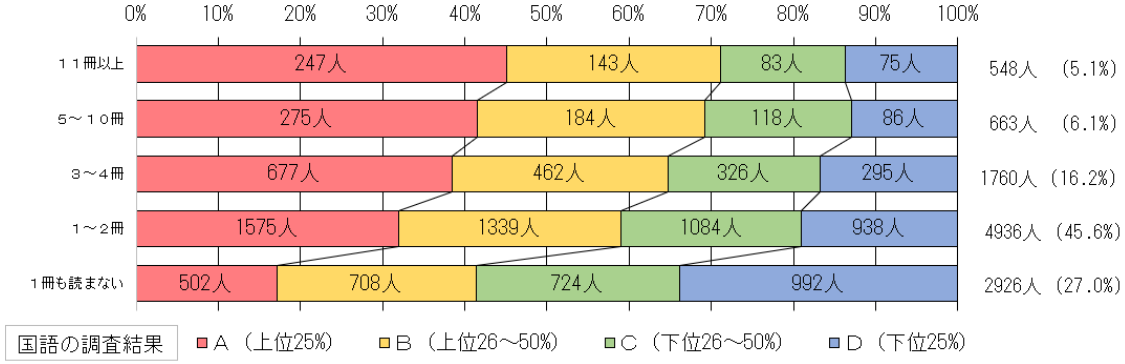
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



中学校２年生　国語

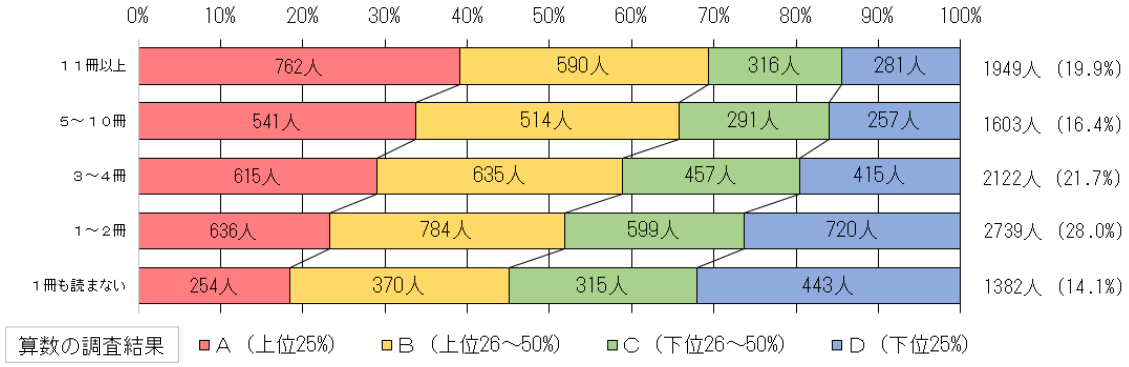


※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

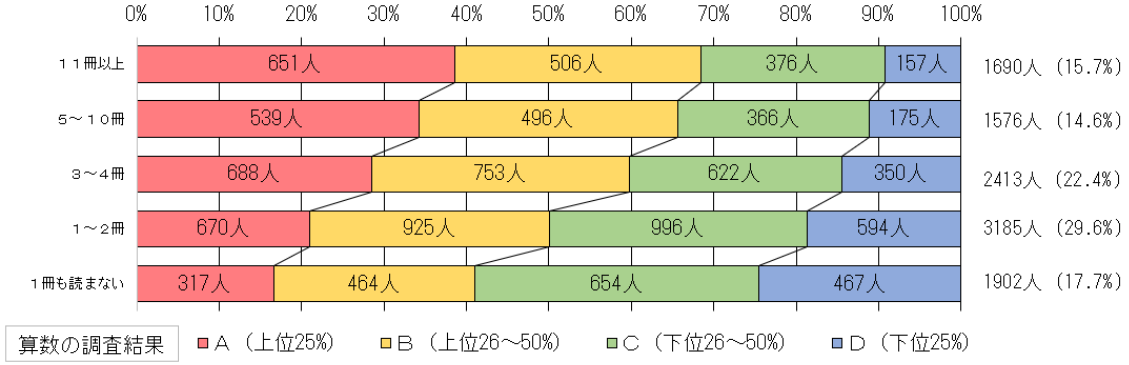
縦軸：質問『１か月に、何冊くらいの本を読みますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小４～中２）

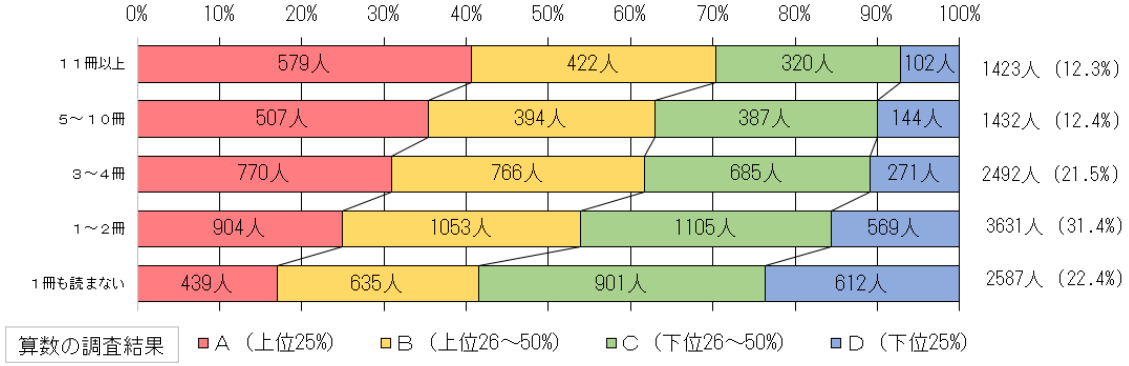
小学校４年生　算数



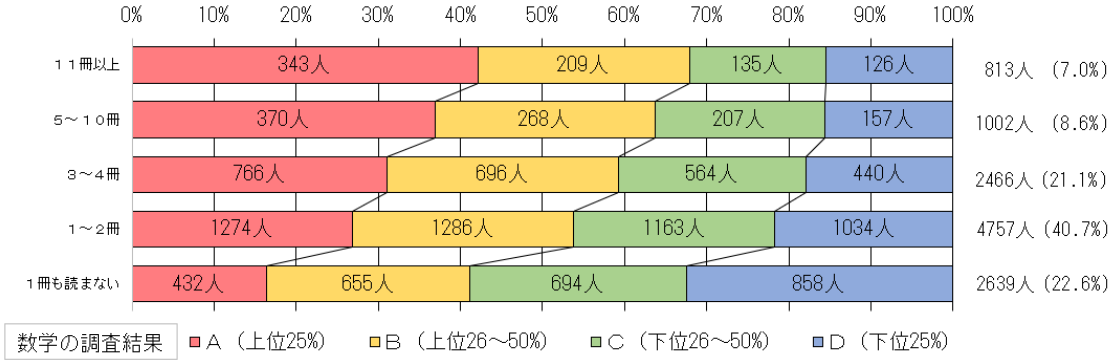
小学校５年生　算数



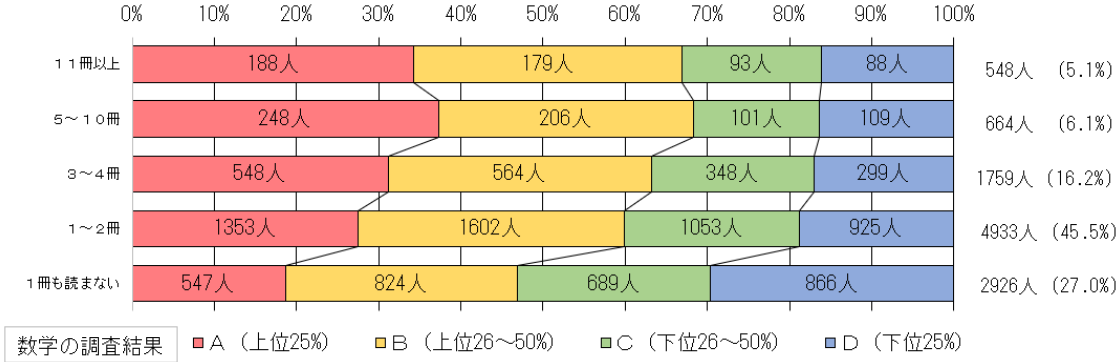
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



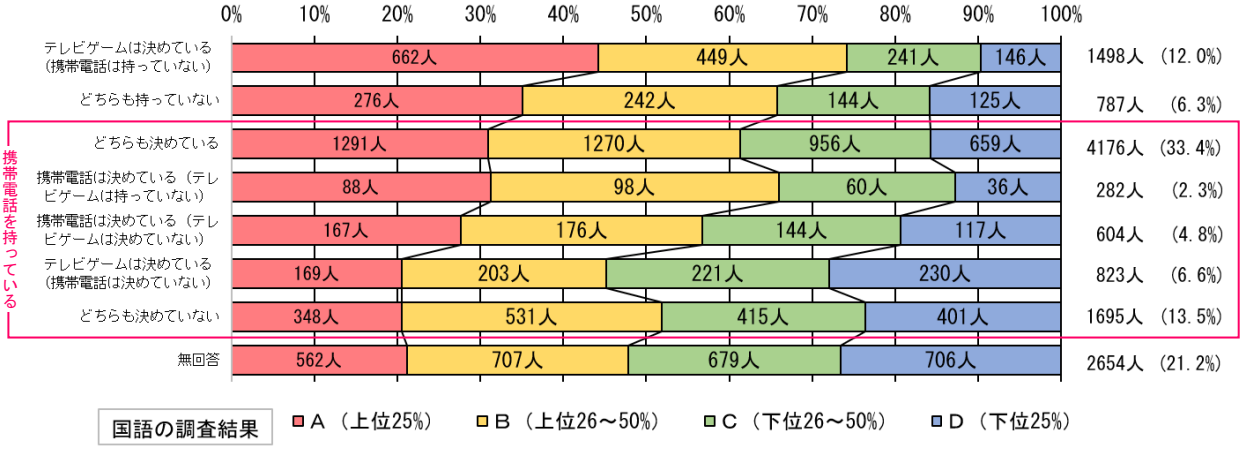
中学校２年生　数学



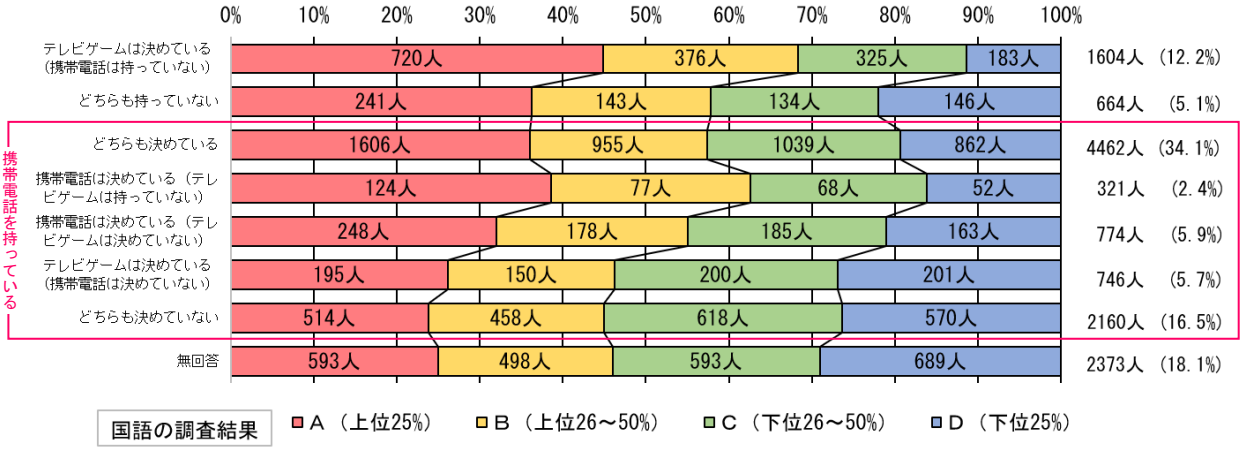
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『テレビゲーム（コンピュータゲーム）をしたり、携帯電話（スマートフォン）を使ったりすることについて、家の人と約束を決めていますか』
横軸：『国語の調査結果』（小４～中２）

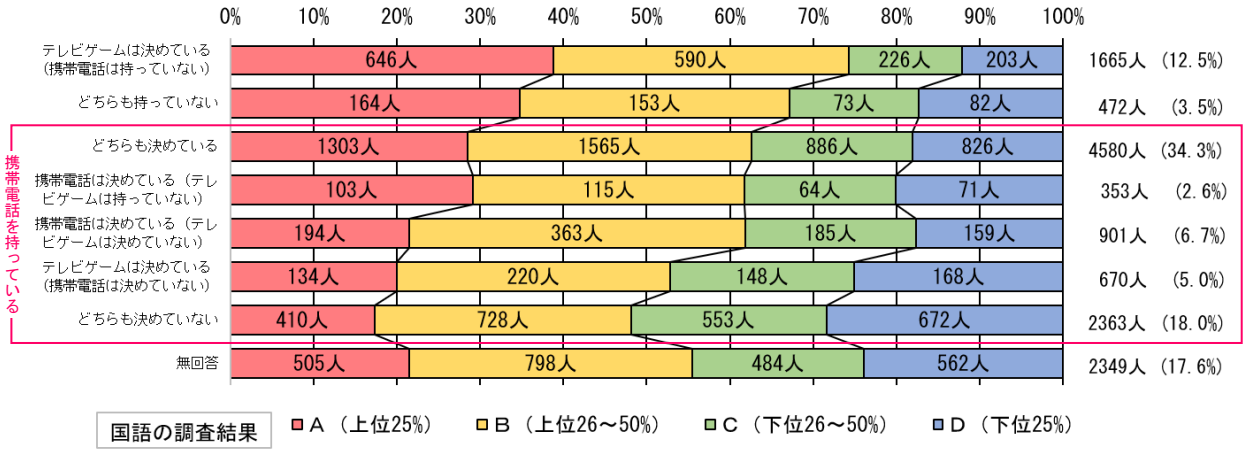
小学校４年生　国語



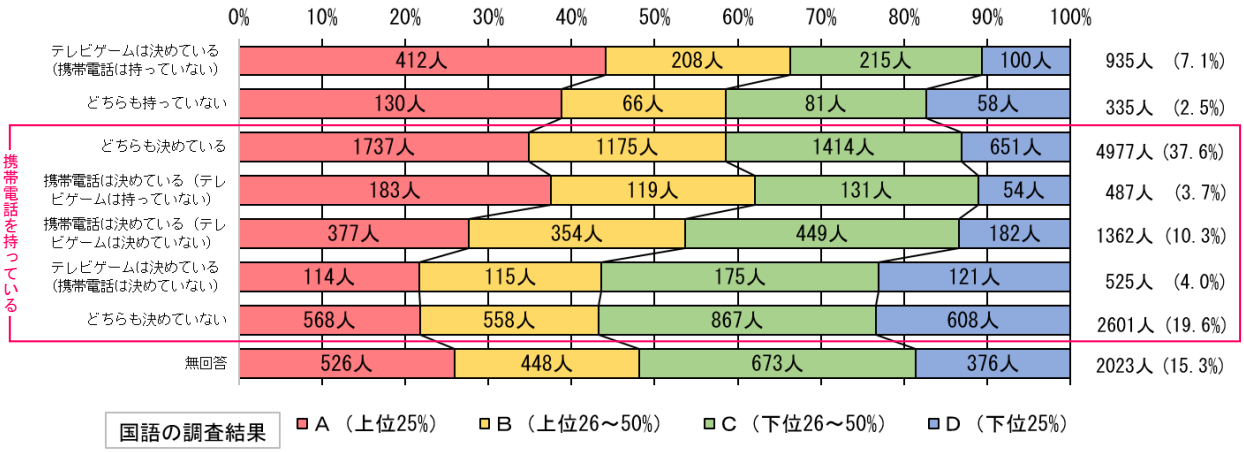
小学校５年生　国語



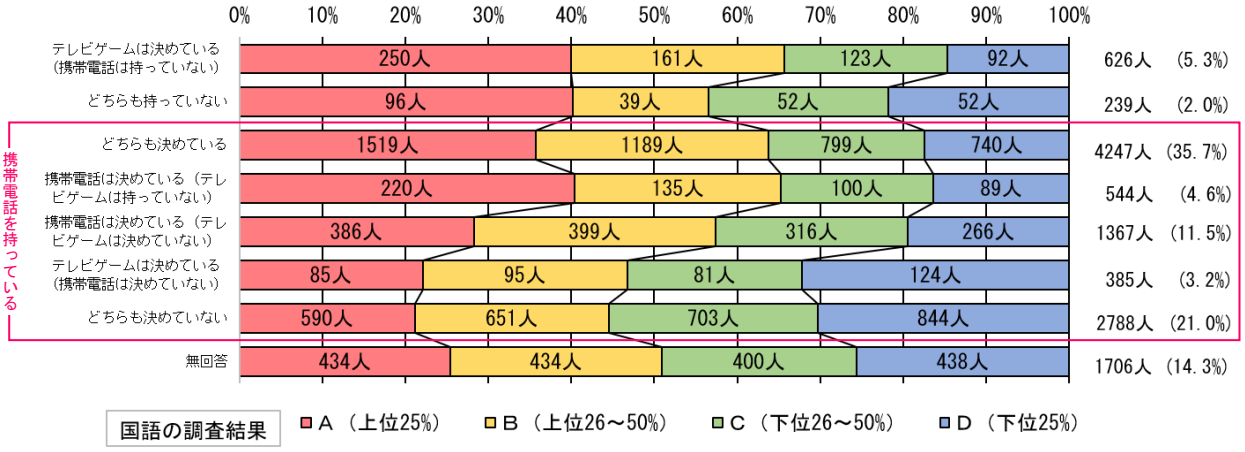
小学校６年生　国語



中学校１年生　国語



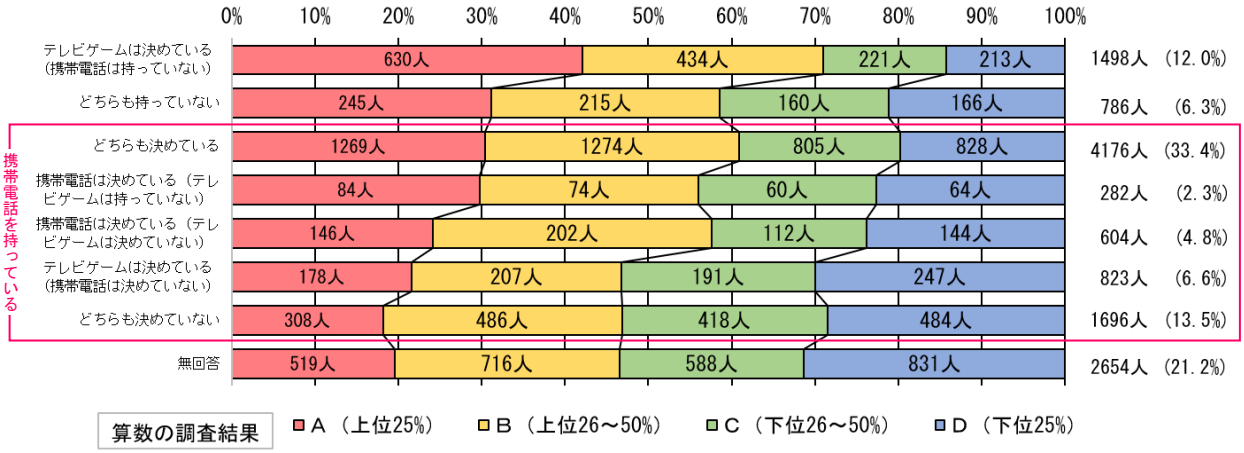
中学校２年生　国語



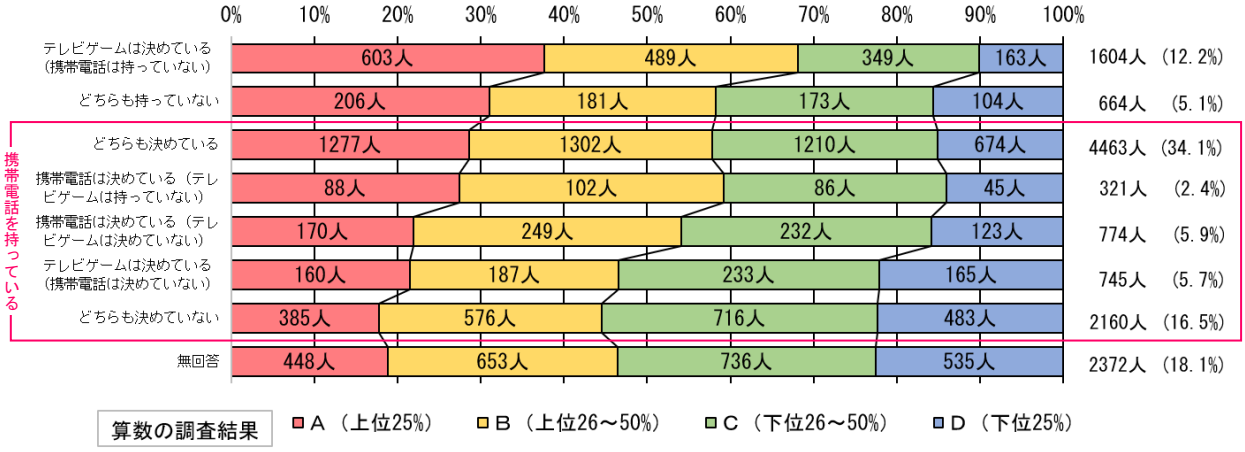
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『テレビゲーム（コンピュータゲーム）をしたり、携帯電話（スマートフォン）を使ったりすることについて、家の人と約束を決めていますか』
横軸：『算数の調査結果』（小４～中２）

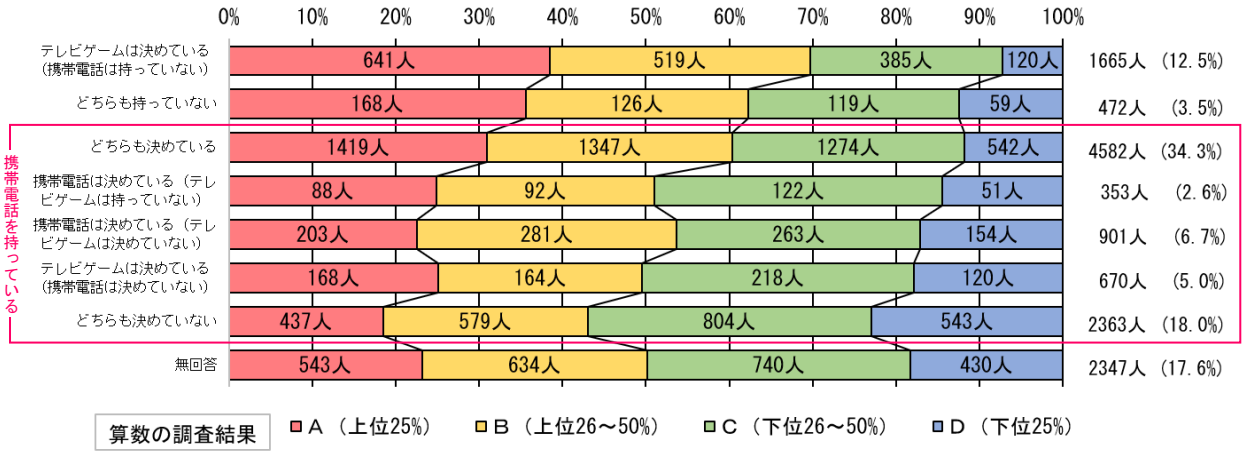
小学校４年生　算数



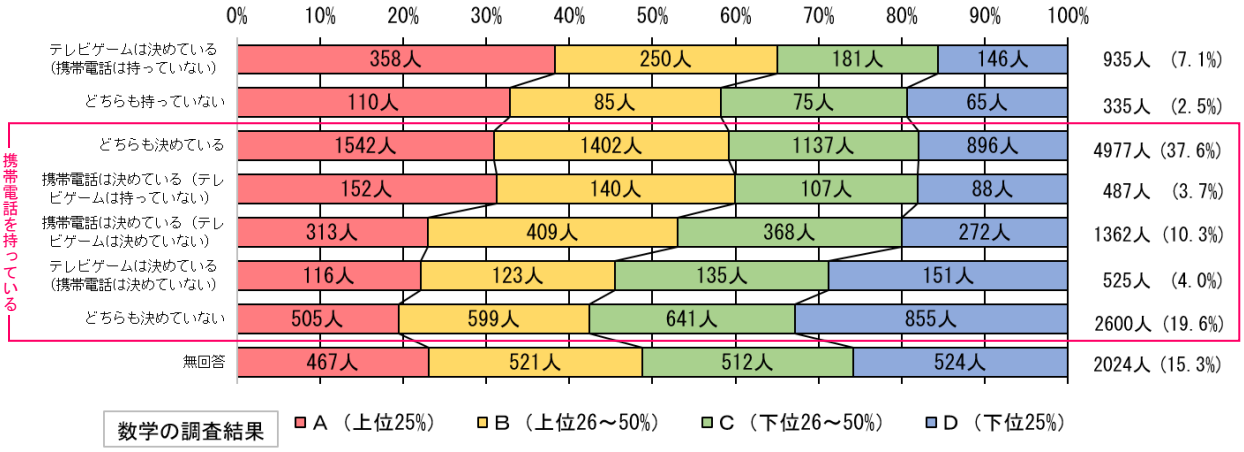
小学校５年生　算数



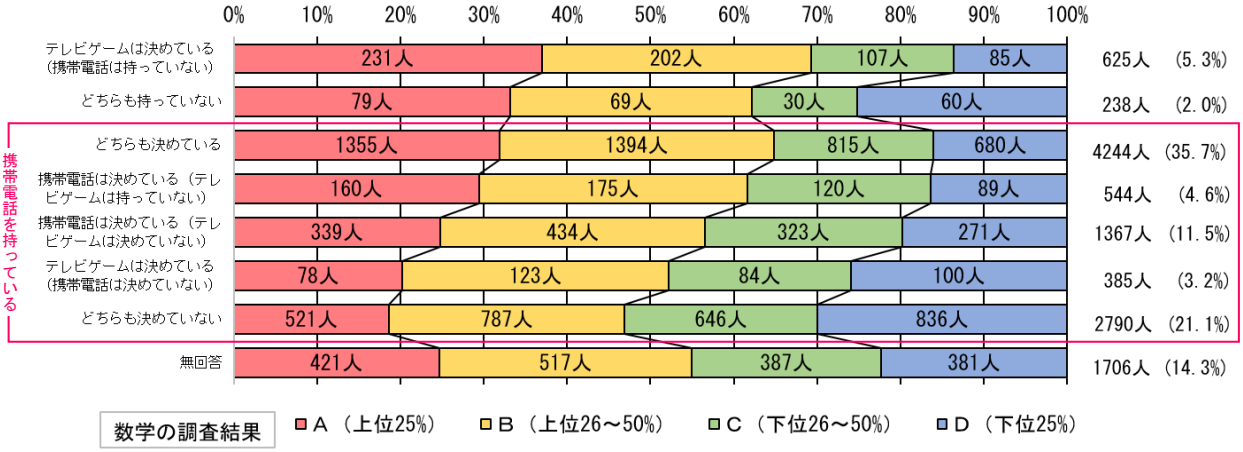
小学校６年生　算数



中学校１年生　数学



中学校２年生　数学



※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

6　学校質問調査結果から見える学校の取組状況

ふくしま学力調査では、児童生徒質問調査に加え、学校質問調査も行っています。ここでは、令和６年度調査から令和８年度調査までの３年分の回答状況を基に、児童生徒の学力向上、教員の授業改善に向けた学校の取組状況について整理しています。県全体の結果と自校の状況を比較し、今後力を入れたい取組や改善を図りたい取組などを考える参考にしてください。

なお、学校質問調査は、昨年度の状況について回答していますので、グラフは令和５年度から令和７年度までの取組の経年推移となっています。また、無回答については含めていないため、グラフの数値が 100%にならないものもあります。

(1)学校・教職員の学力向上に向けた取組状況

○　小学校において校長が「ほぼ毎日」授業を見て回る割合が継続して伸びている（82.1%から 85.1%）ほか、小・中学校共に校長による教職員間での話合いへの働きかけや研修の奨励のもと、学級・学年運営の課題などを全教職員で共有して組織的に対応する取組が定着・進展している。

●　児童生徒の学力の現状把握と分析を行い、課題把握を「よく行った」と回答した割合が両校種ともに３年連続で下降傾向にある。データに基づく分析や課題明確化の取組のさらなる充実が求められる。

◎　データに基づく学力の現状把握と課題分析を再度強化することが重要である。(①②③④⑤⑦⑨など)

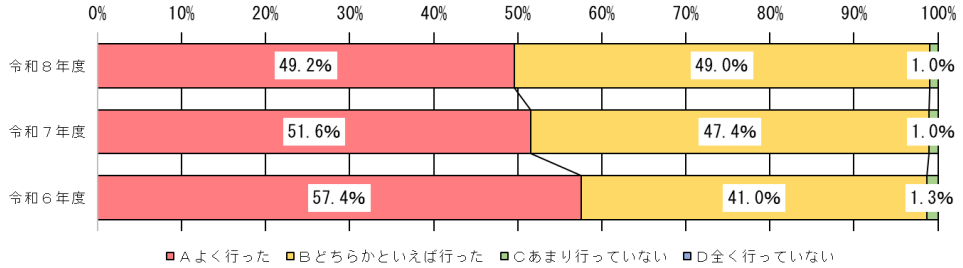
◎　教員同士の対話を増やし、相互研究や研修成果を共有・活用することが授業改善につながる。(⑥⑦⑧⑨⑭⑮など)

◎　児童生徒の自己肯定感とキャリア意識を高める取組が学習の目的意識を高め、主体的な学びにつながると考えられる。(⑪⑫など)

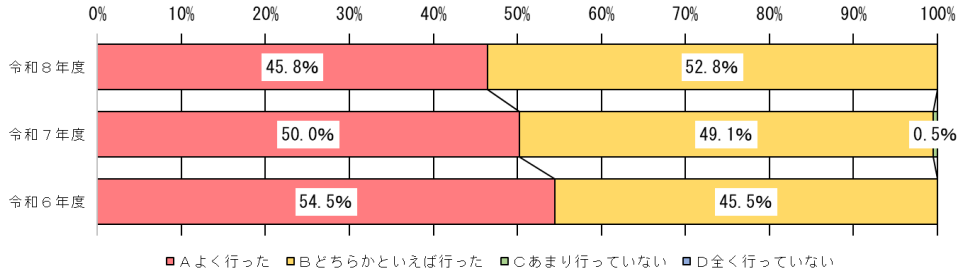
◎　重点化した目標に対する具体的行動や組織的取組を明確にし、学校全体で共通理解の基に取り組むことが重要である。(②③④など)

①『児童生徒の学力について、現状把握と分析を行い、課題を把握しましたか』

小学校

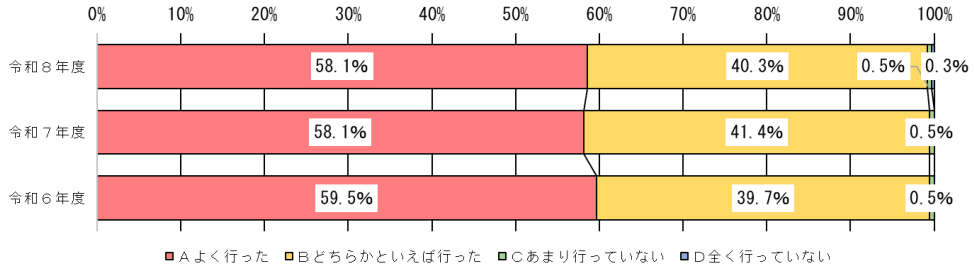


中学校

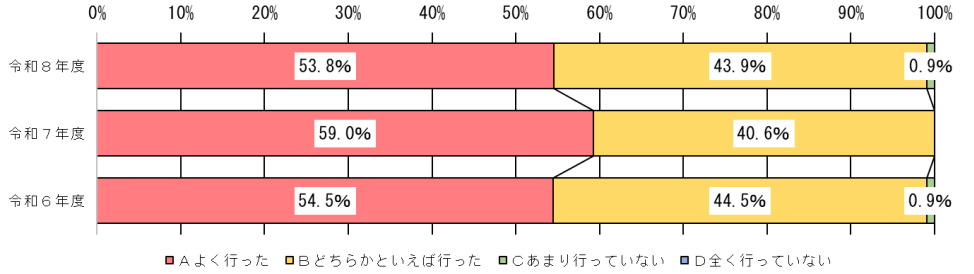


②『授業改善の必要性について、共通理解を図りましたか』

小学校

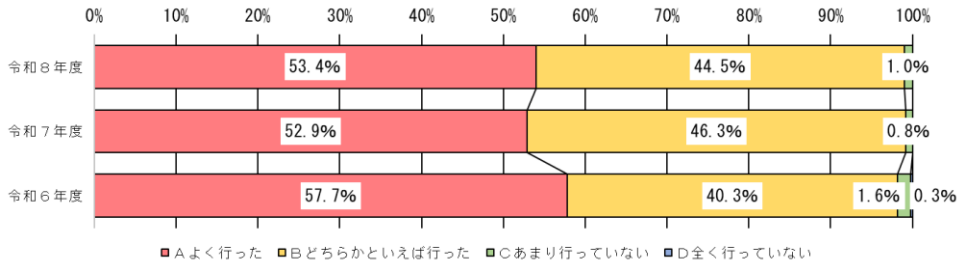


中学校

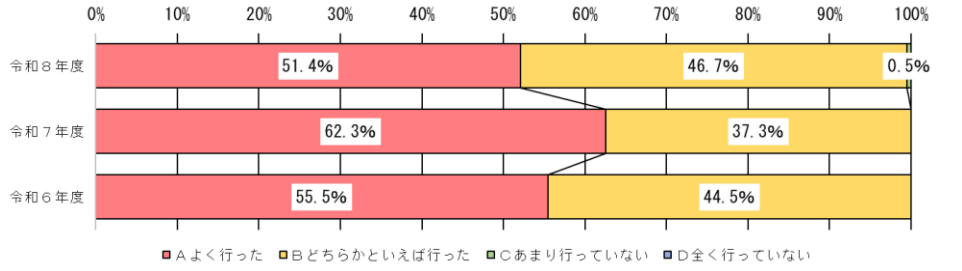


③『学校の課題を明確化した上で、目標を重点化しましたか』

小学校

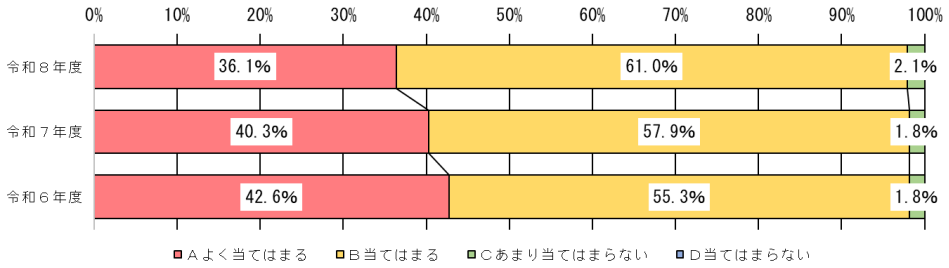


中学校

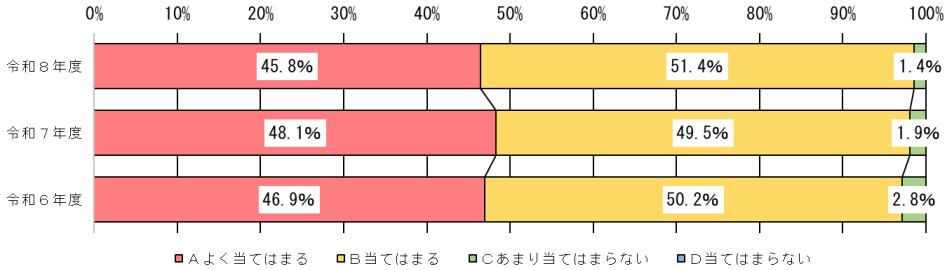


④『目標達成に向けて、学校の組織的な取組や教職員の具体的な行動が示されていましたか』

小学校

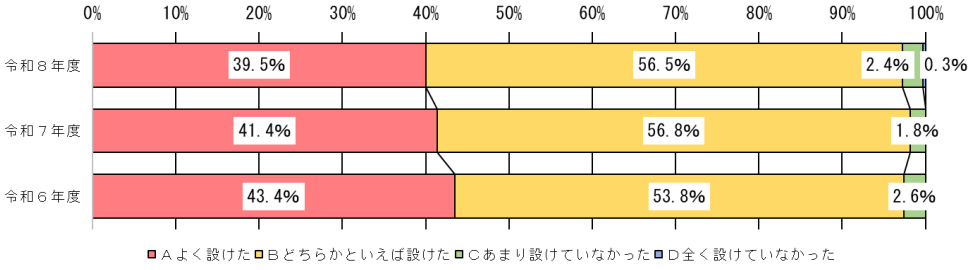


中学校

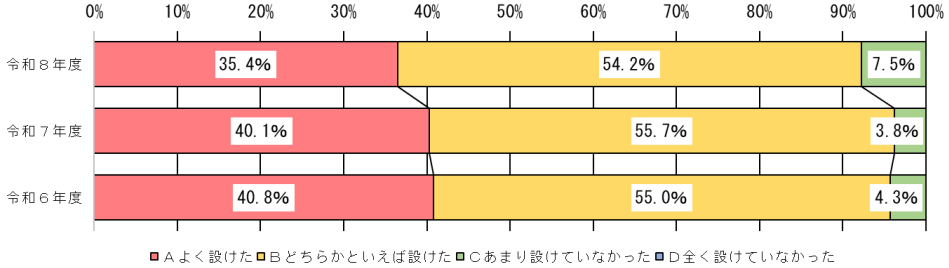


⑤『学校の現状・分析・課題等について、教職員の間で話し合う機会を設けましたか』

小学校

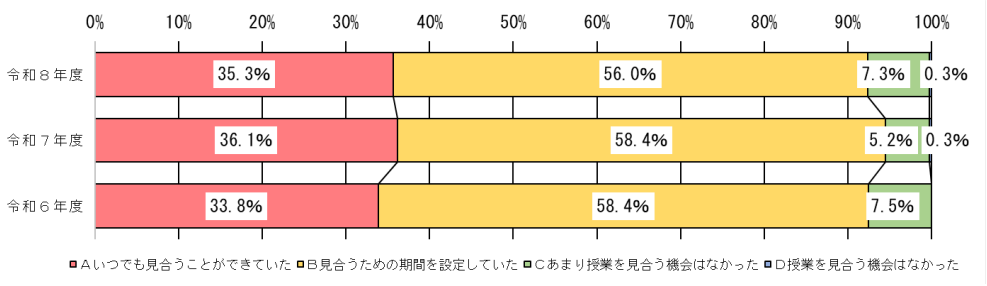


中学校

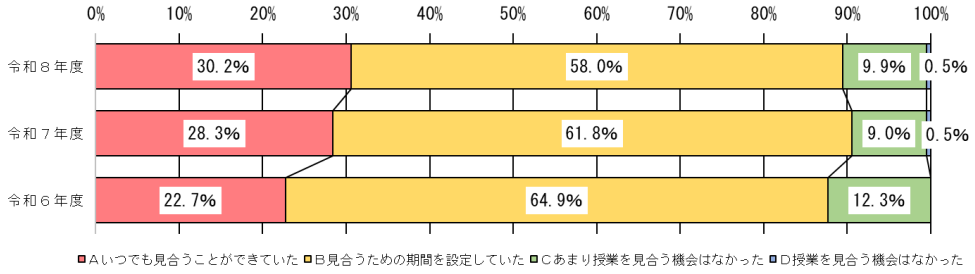


⑥『校内で教員同士が授業を見合う機会はありましたか』

小学校

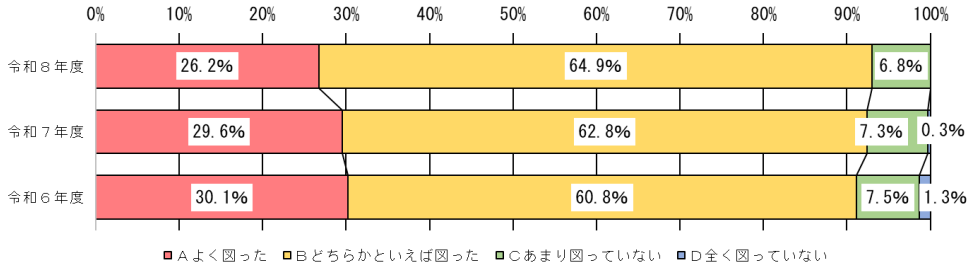


中学校

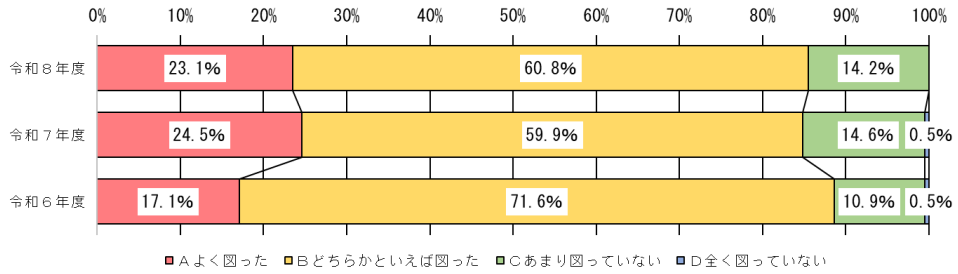


⑦『教科等を相互に関連付けて思考力、判断力、表現力等を育む指導について、教職員で共通理解を図りましたか』

小学校

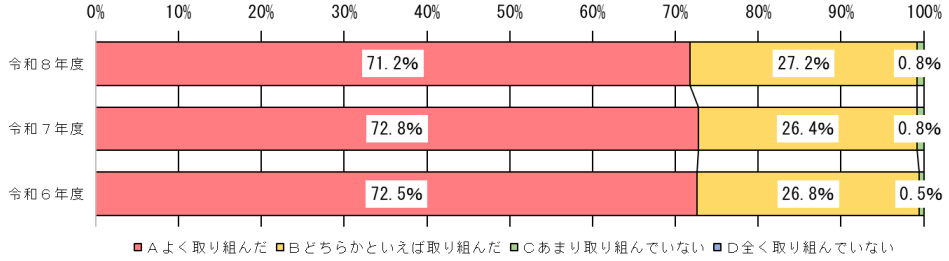


中学校

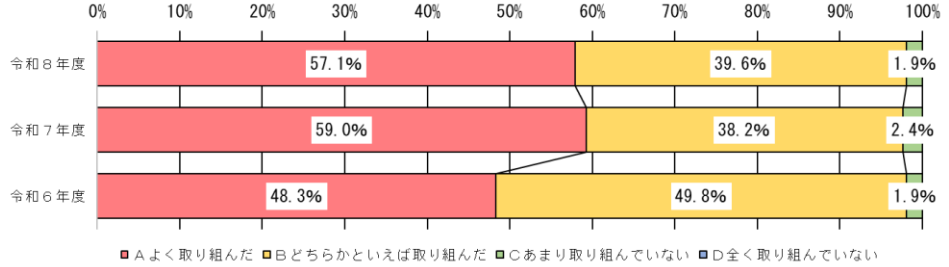


⑧『教職員は、授業研究に意欲を持って取り組んでいましたか』

小学校

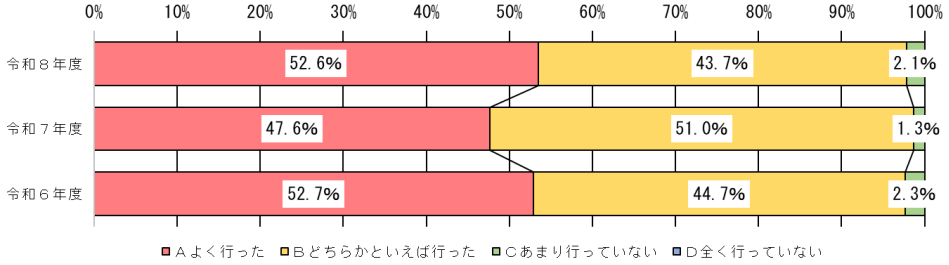


中学校

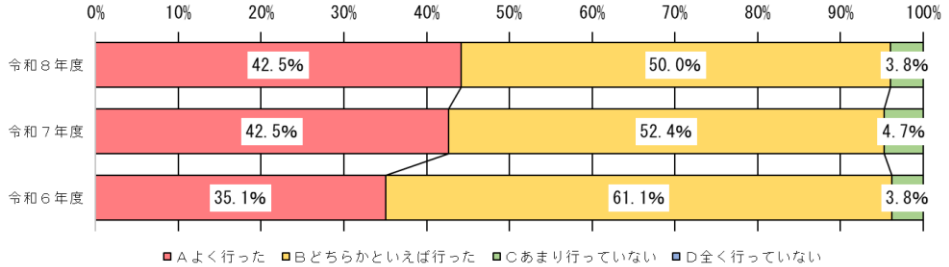


⑨『教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていましたか』

小学校

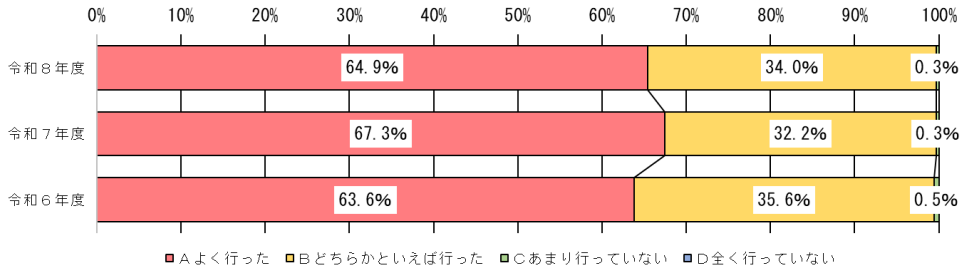


中学校

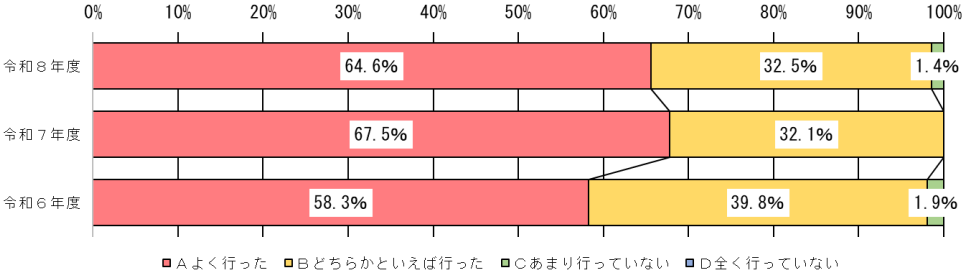


⑩『学級・学年運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組みましたか』

小学校

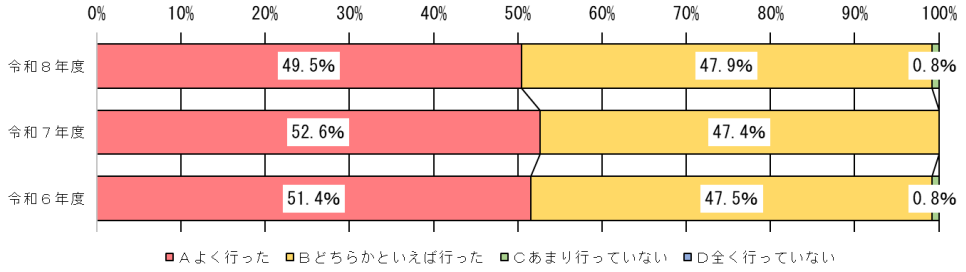


中学校

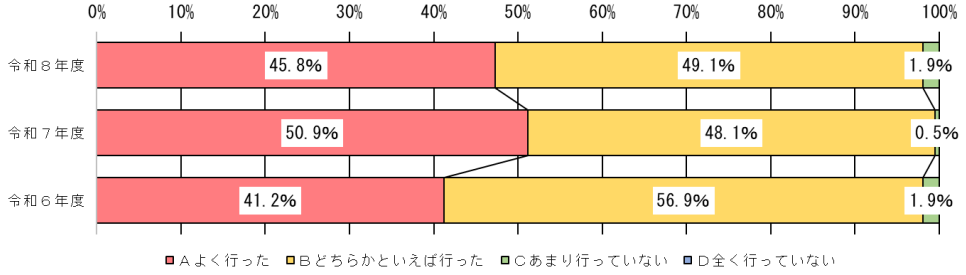


⑪『児童生徒に対して、自分のよさや成長を実感させるような具体的な活動を行いましたか』

小学校

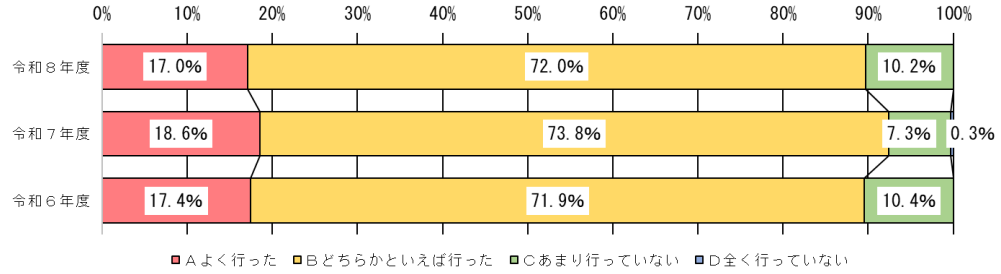


中学校

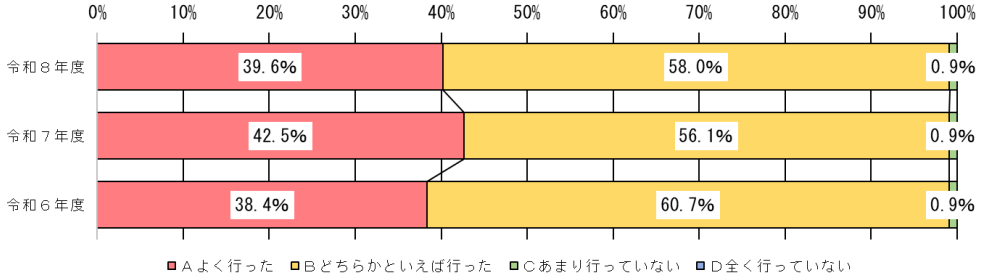


⑫『児童生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせるような具体的な活動を行いましたか』

小学校

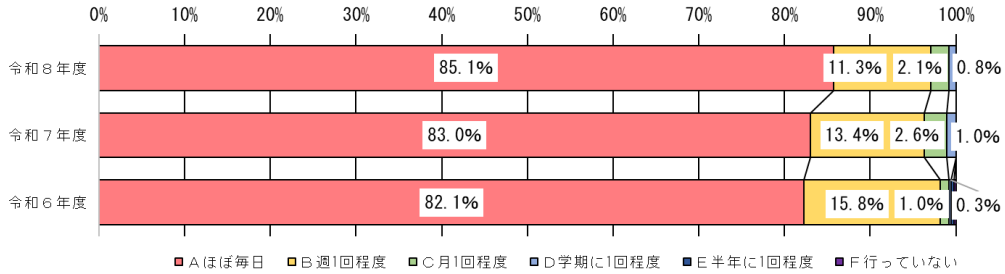


中学校

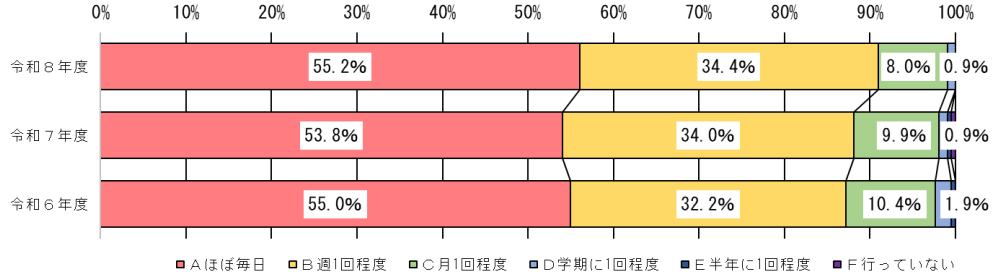


⑬『（校長として）教員の授業の様子をどの程度見てまわりましたか』

小学校

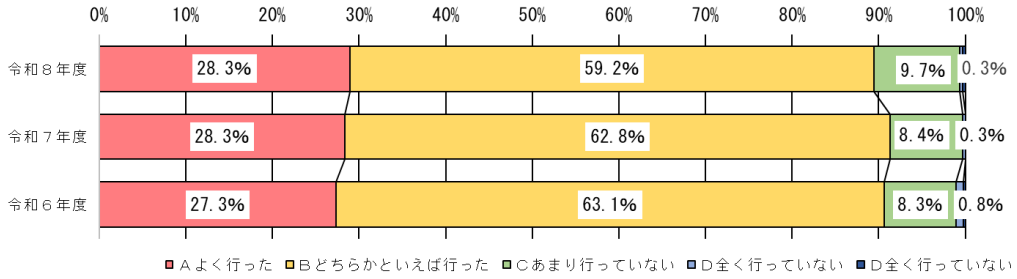


中学校

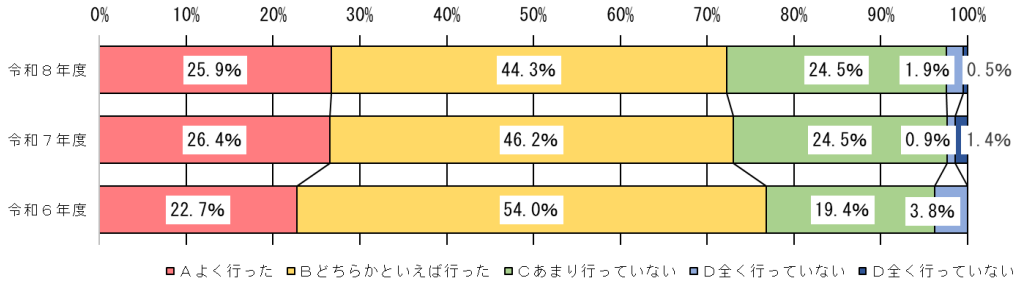


⑭『（校長として）授業改善をするために、教員間で話し合うような働きかけをどの程度行いましたか』

小学校

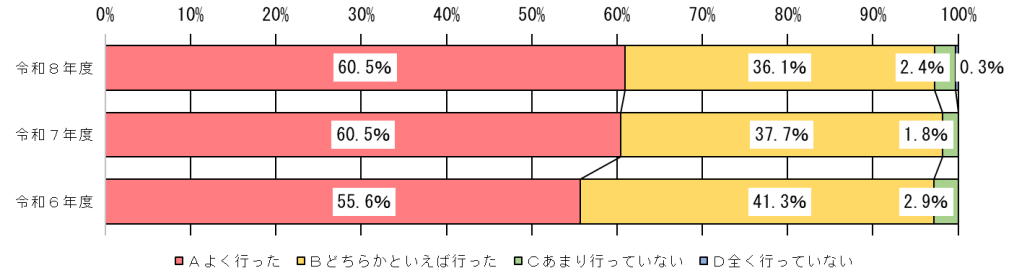


中学校

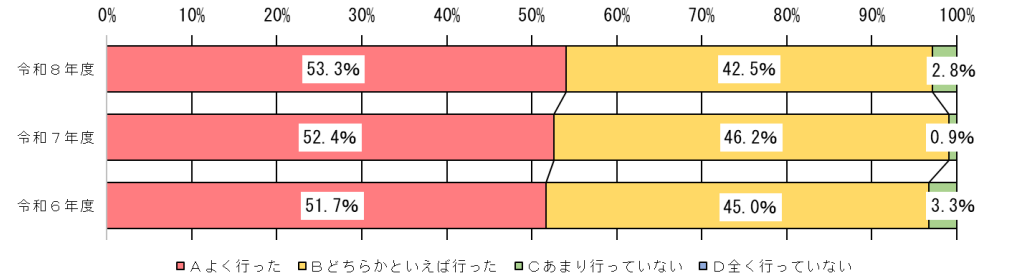


⑮『（校長として）校外での研修の参加を奨励しましたか』

小学校

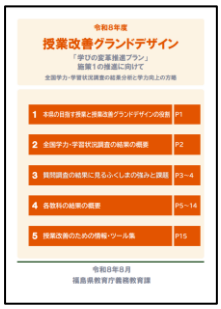


中学校



(2)令和8年度の小学校6年生、中学校3年生に対する取組状況

県では、８月に令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を「授業改善グランドデザイン」として公表しました。今回の調査対象であった小学校６年生と中学校３年生の取組をピックアップし、ふくしま学力調査の学校質問調査回答結果から見ていきます。小中学校の取組状況の違いにも着目して御覧ください。



※授業改善グランドデザインは県教育委員会 HP に掲載されています。
URL：https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/759134.pdf）

○　ほとんどの学校で、家庭学習の課題を計画的に与える取組が継続的に行われている。
○　家庭学習の課題についての評価・指導が計画的かつ継続的に行われている。
●　児童生徒の勉強に対する熱意がやや低下してきている傾向にある。

◎　児童生徒が熱意をもって主体的に学習できるように、小中連携を重視した授業研究を行っていくことが重要である。家庭学習で取り組む内容については、画一的な課題を与えるだけでなく、児童生徒が自らの学びを調整する機会を設け、教師が適切に評価しながら意欲を引き出していくなどの工夫が求められる。（①③④⑤⑥）
◎　学習規律の確保については、生徒指導の機能を生かした一貫した指導方針のもと、組織をいかした確実な指導の実施と、研修を含めて早期対応が大切である。（②）

【国語の状況について】
○　発達段階に応じて、児童生徒に理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導をしている。
○　中学校３年生について、理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導の割合が年々増加している。
●　現中学校３年生に対する補充的・発展的な学習を行う時間がやや減っている。

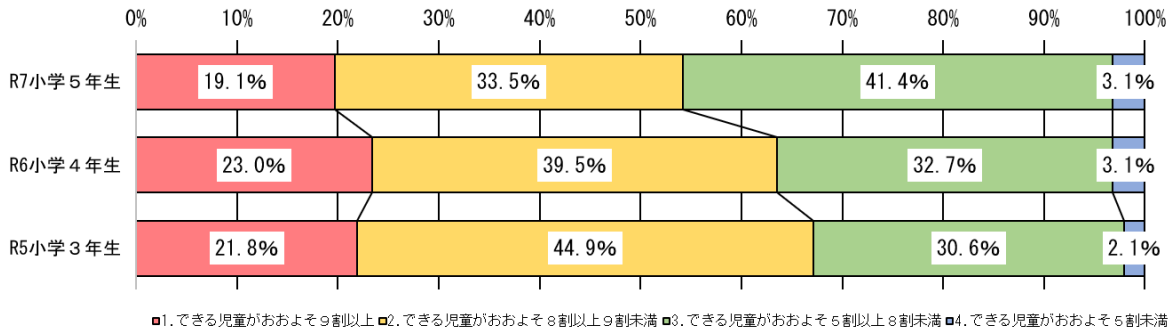
◎　どの学年においても、ふくしま学力調査を基に一人一人の実態を分析した上で、今後も補充的・発展的な学習を計画的に取り入れる必要がある。（⑦⑧）
◎　授業において根拠や理由を基に、自分の考えを書かせたり、話したりする力を育成するための指導が日常的になされている。（⑩）

【算数・数学の状況について】
○　国語に比べ、補充的・発展的な学習を行う時間を確保する学校の割合、習熟の早い児童生徒に対する発展的な内容を扱った指導の割合がやや大きい。
○　どちらの学年においても、理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導の割合が年々増加している。

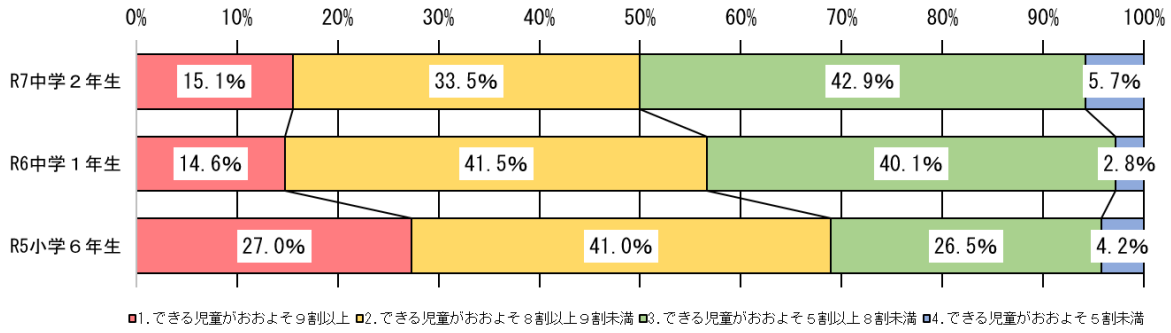
◎　習熟の早い児童生徒への発展的な学習、習熟が遅い児童生徒への補充的な学習について、今後も教科の特性を生かして、計画的に取り入れていくことが求められる。（⑦⑧⑪）
◎　根拠や理由を基に、自分の考えを書かせたり、説明したりする表現力を育成するための指導がなされている。（⑩）

①『児童生徒は熱意をもって勉強することができていましたか』

R8 小学校６年生

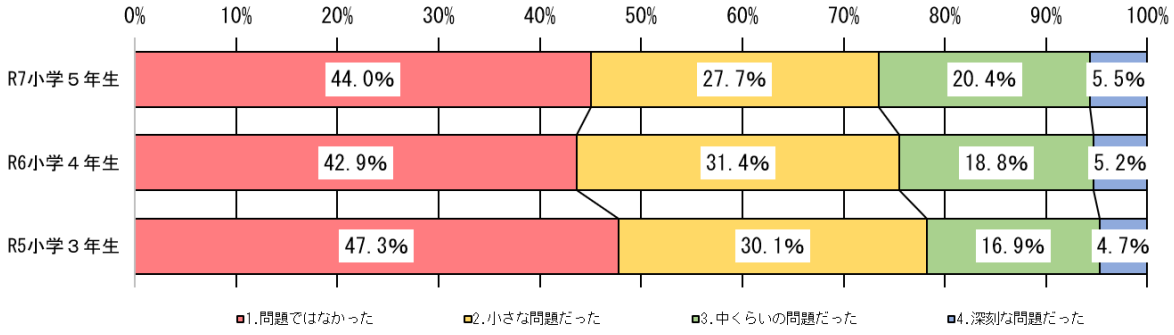


R8 中学校３年生

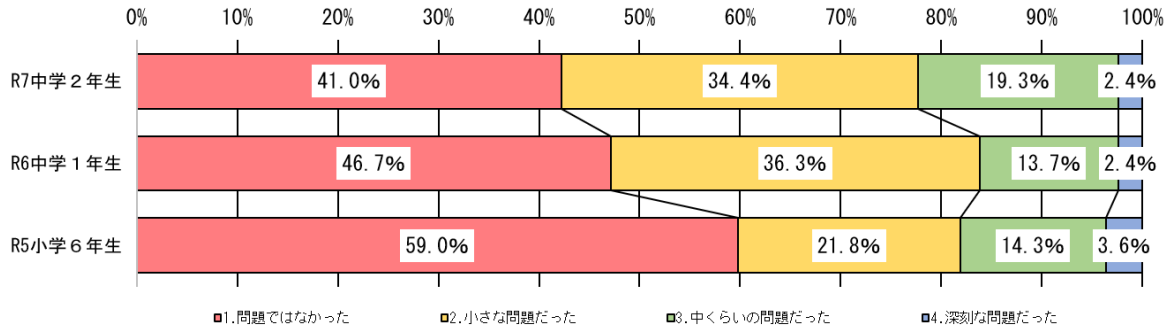


②『学習規律の確保がどのくらい問題になっていましたか』

R8 小学校６年生

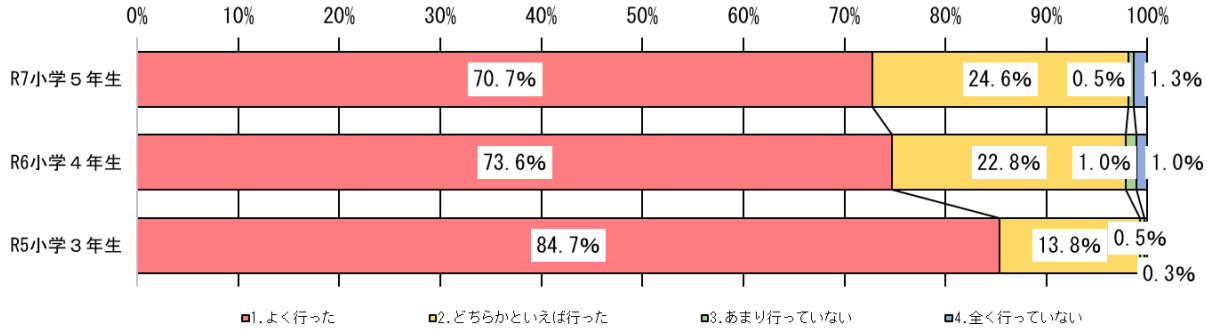


R8 中学校３年生

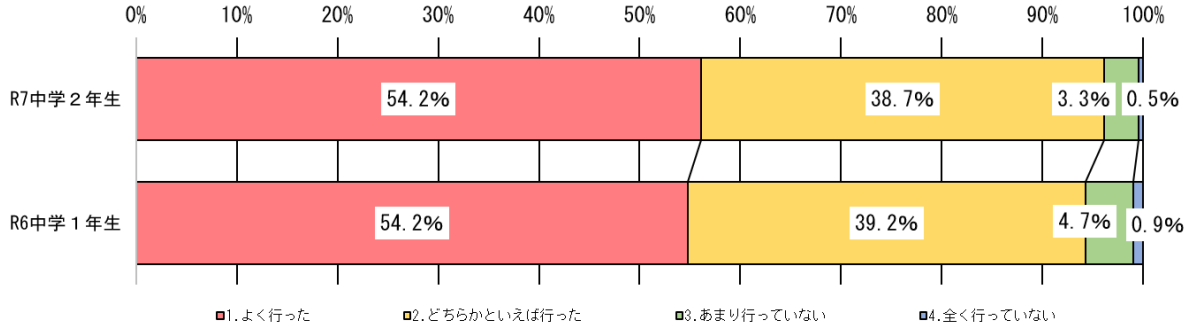


③『家庭学習の課題（宿題）を計画的に与えましたか』

R8 小学校６年生

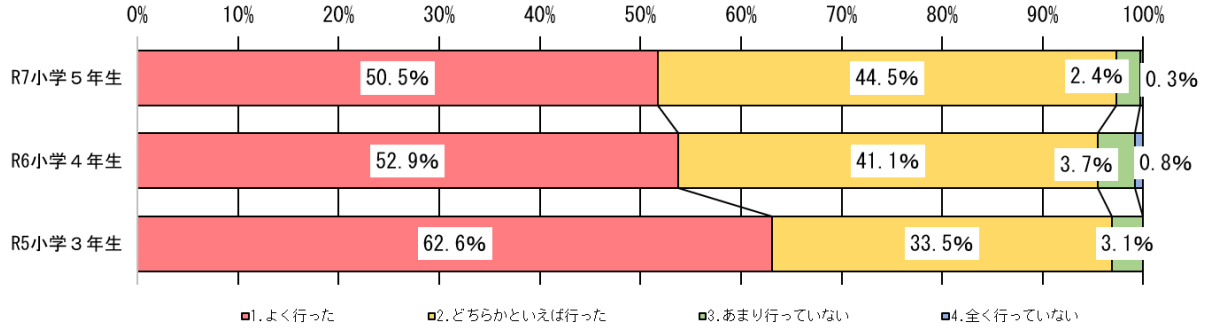


R8 中学校３年生

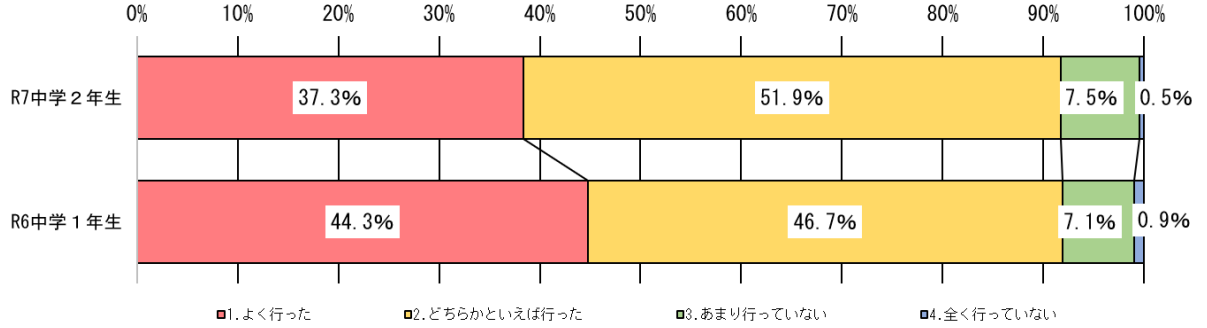


④『与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除きます）についての評価・指導を計画的に行いましたか』

R8 小学校６年生

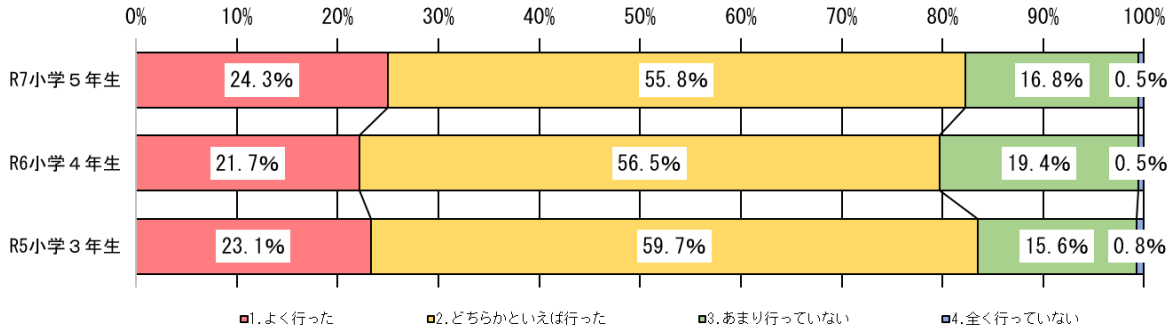


R8 中学校３年生

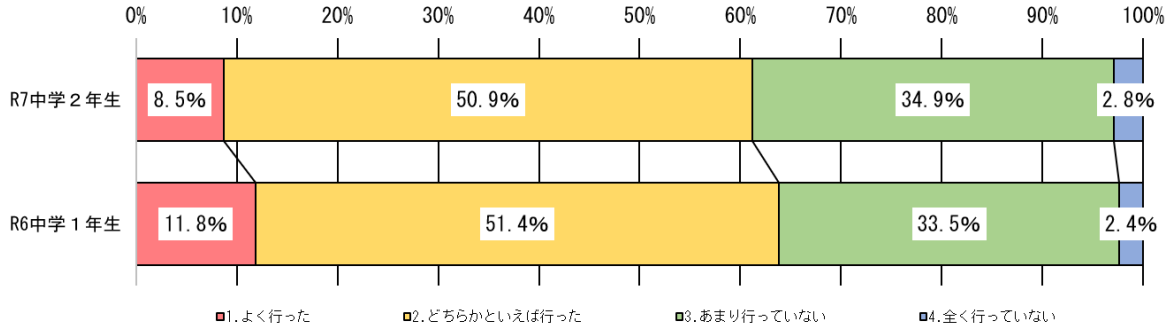


⑤『家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする課題（宿題）を与えましたか』

R8 小学校６年生

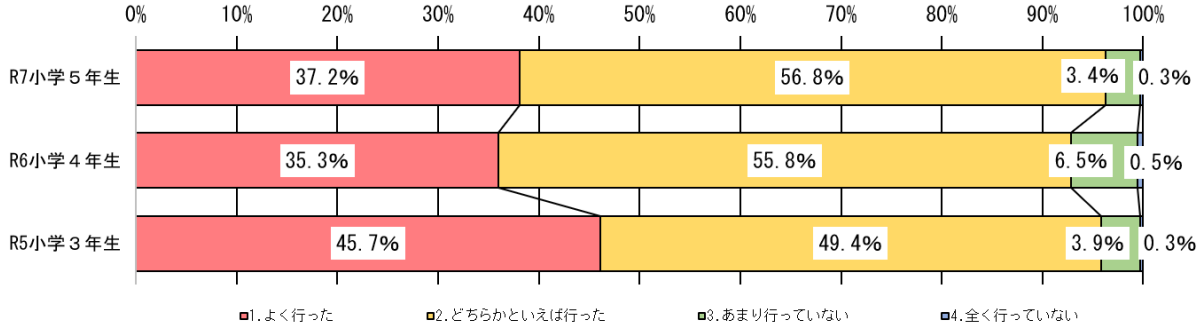


R8 中学校３年生

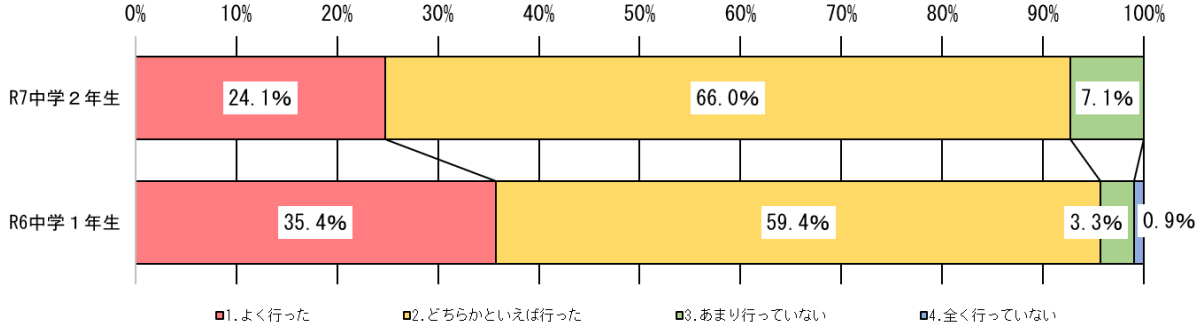


⑥『家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体的な例を挙げながら教えましたか』

R8 小学校６年生

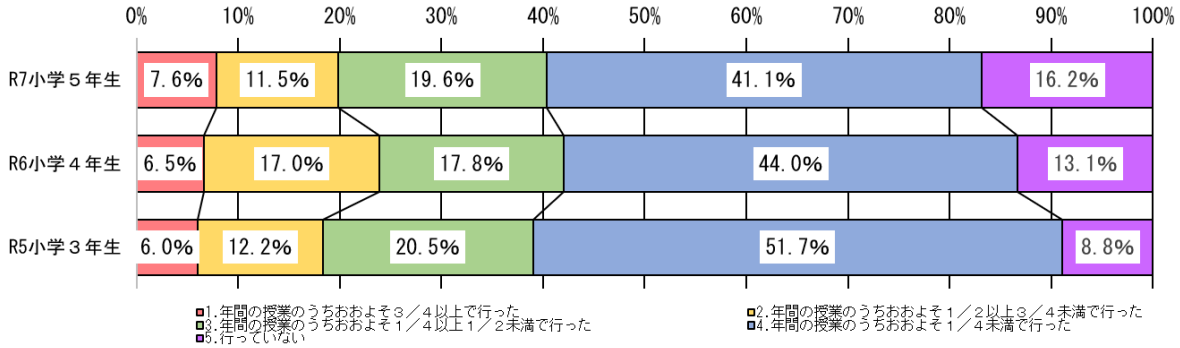


R8 中学校３年生

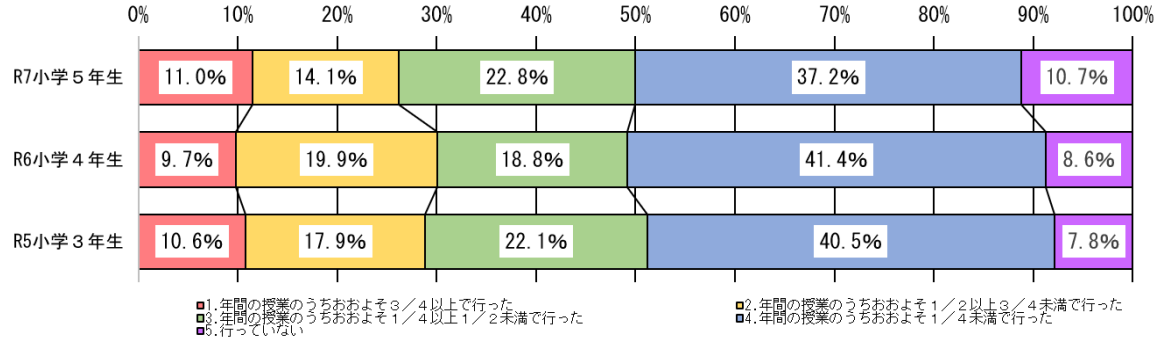


⑦『補充的な学習の指導を計画的に取り入れましたか』

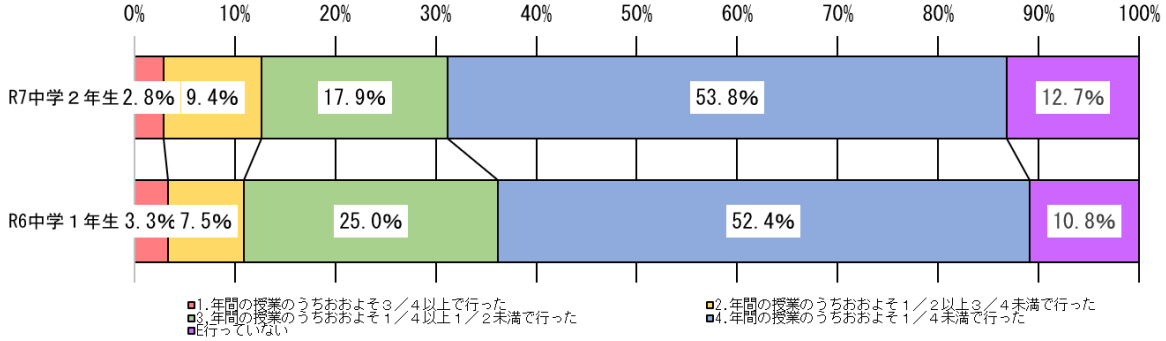
R8 小学校６年生 国語



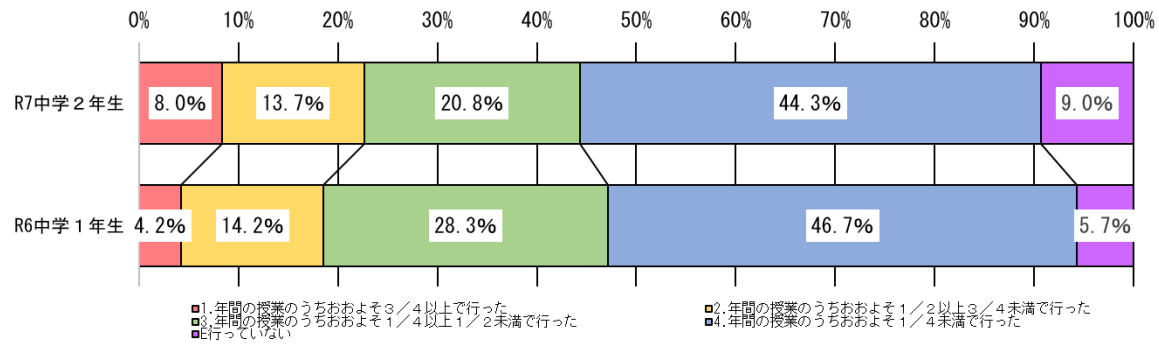
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

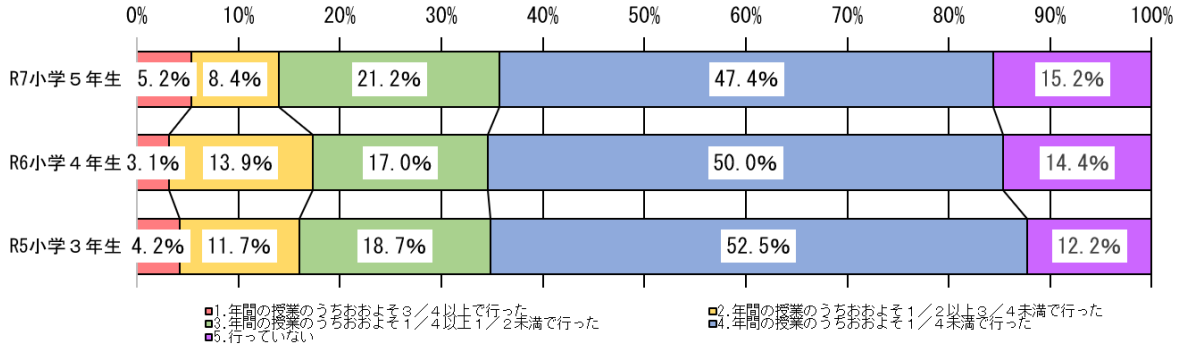


R8 中学校３年生 数学

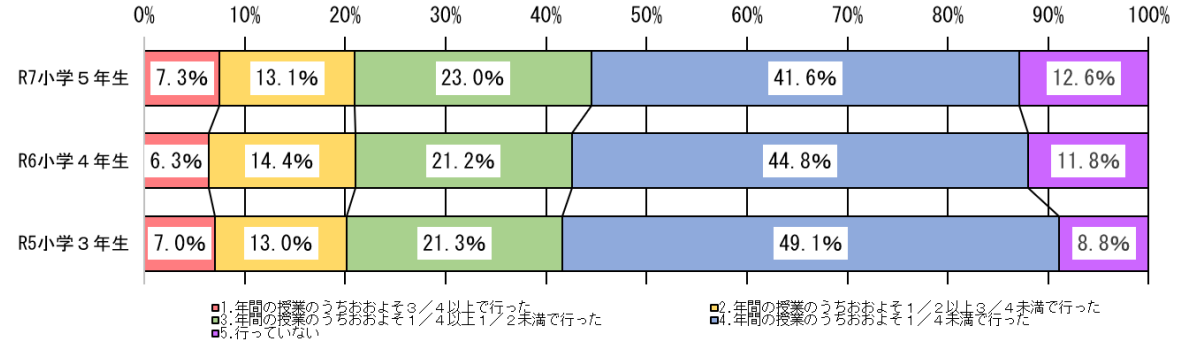


⑧『発展的な学習の指導を計画的に取り入れましたか』

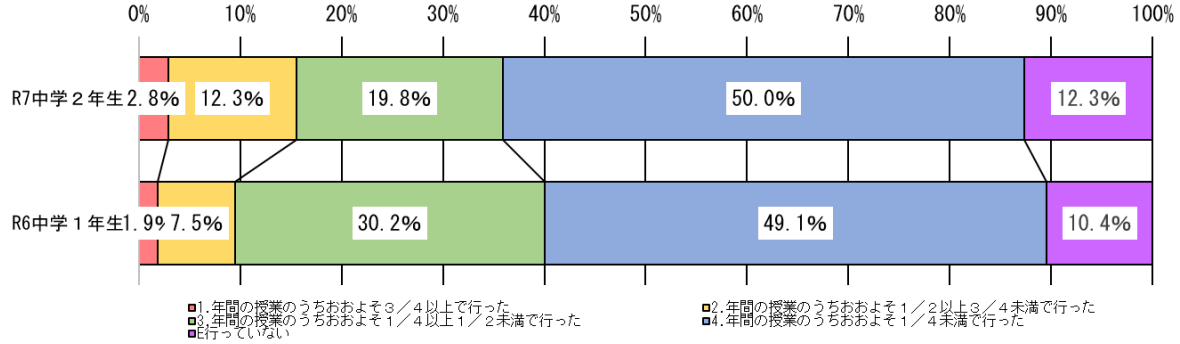
R8 小学校６年生　国語



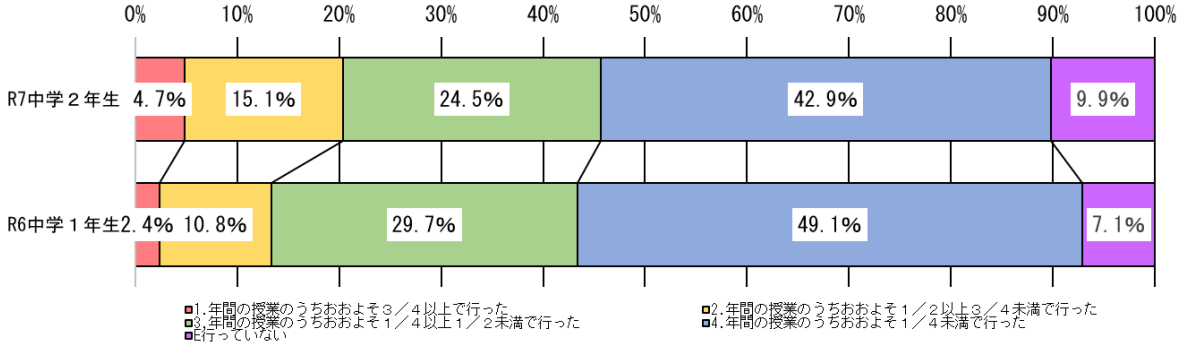
R8 小学校６年生　算数



R8 中学校３年生　国語

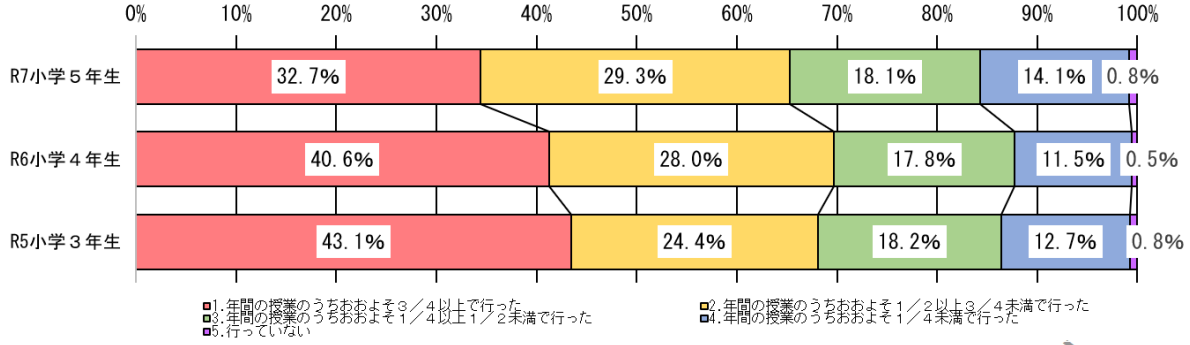


R8 中学校３年生　数学

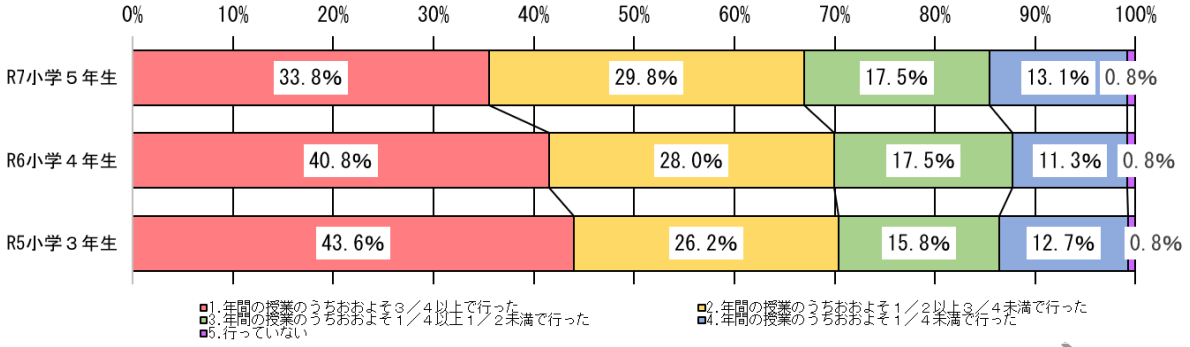


⑨『学習方法（ノートの取り方、間違ったところを振り返って学習すること、目標・計画の立て方、自分をやる気にする方法など）に関する指導を行っていましたか』

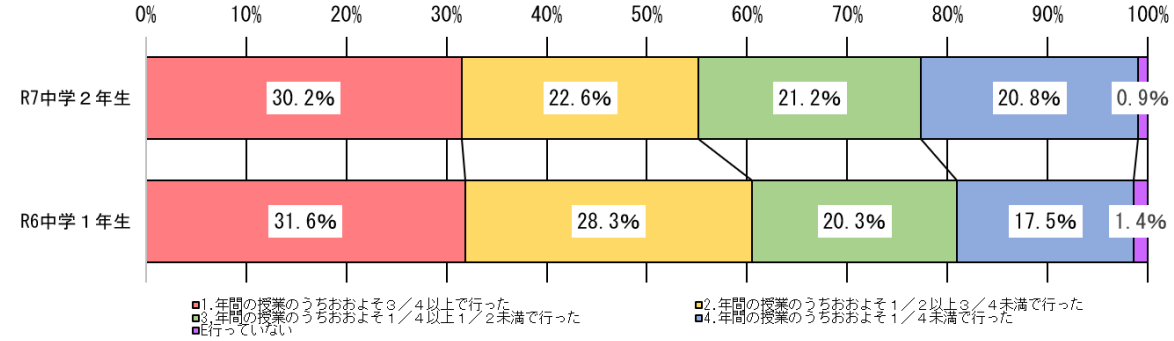
R8 小学校６年生 国語



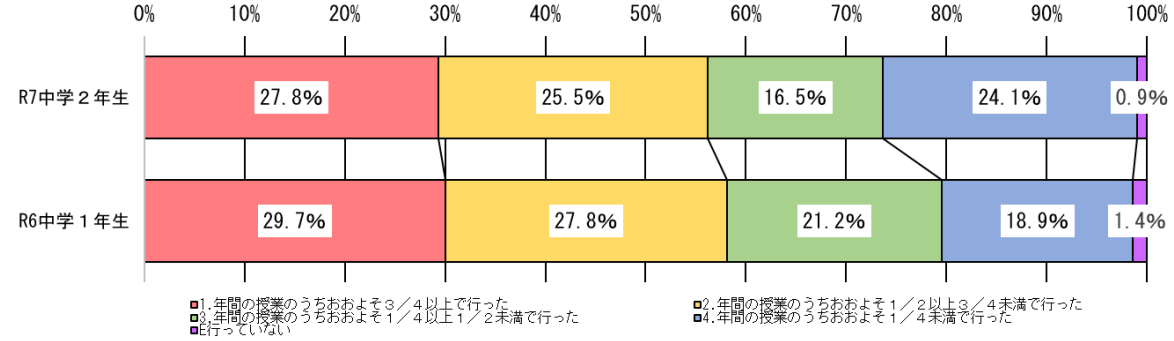
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

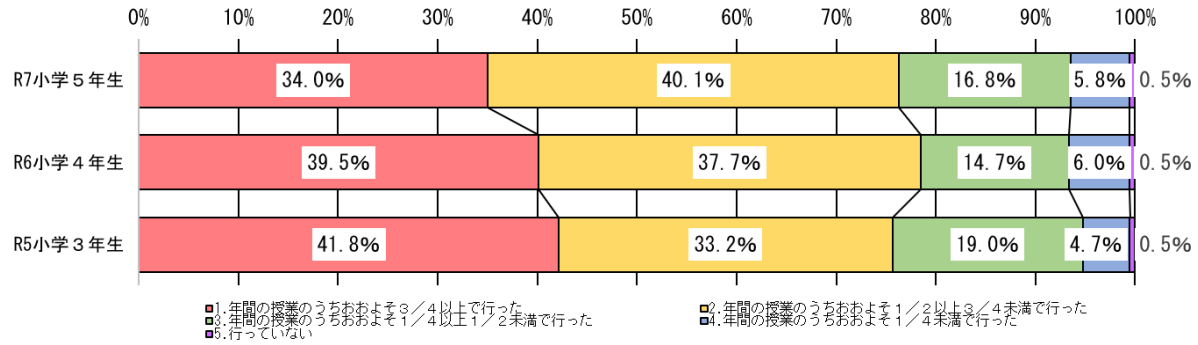


R8 中学校３年生 数学

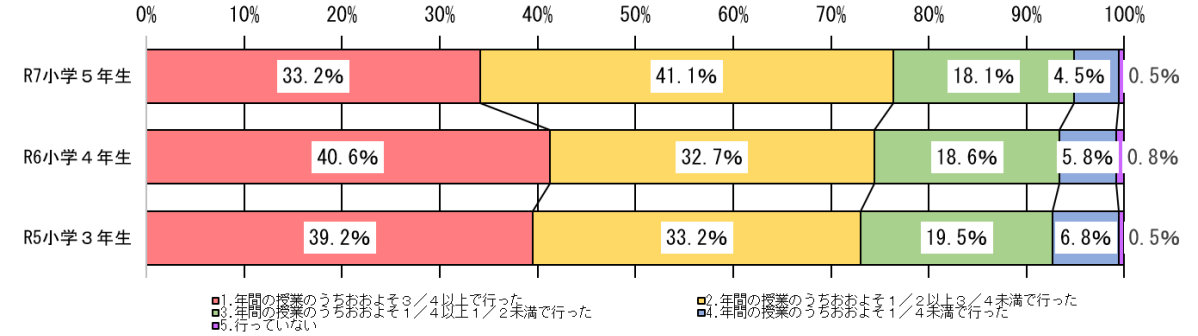


⑩『児童生徒に理由をつけて考えを発表させたり、書かせたりする指導を行っていましたか』

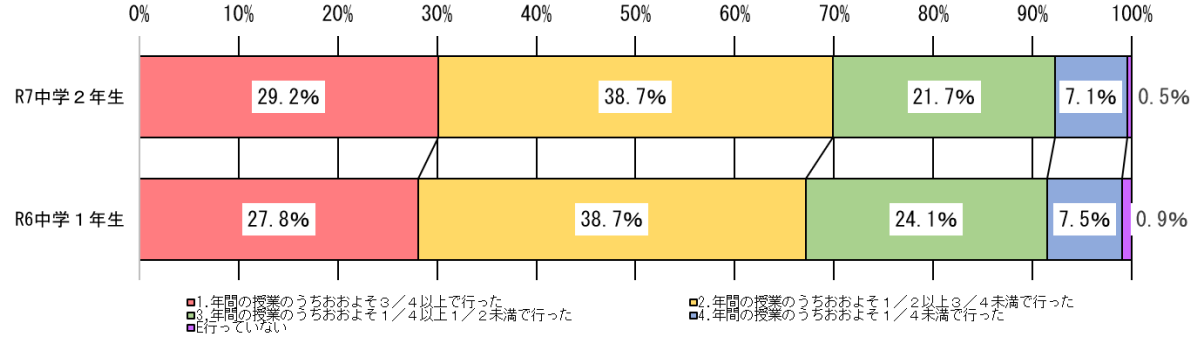
R8 小学校６年生 国語



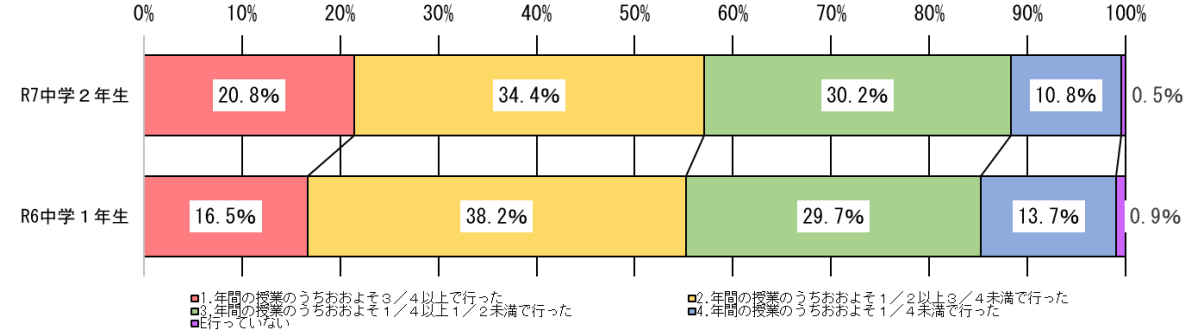
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

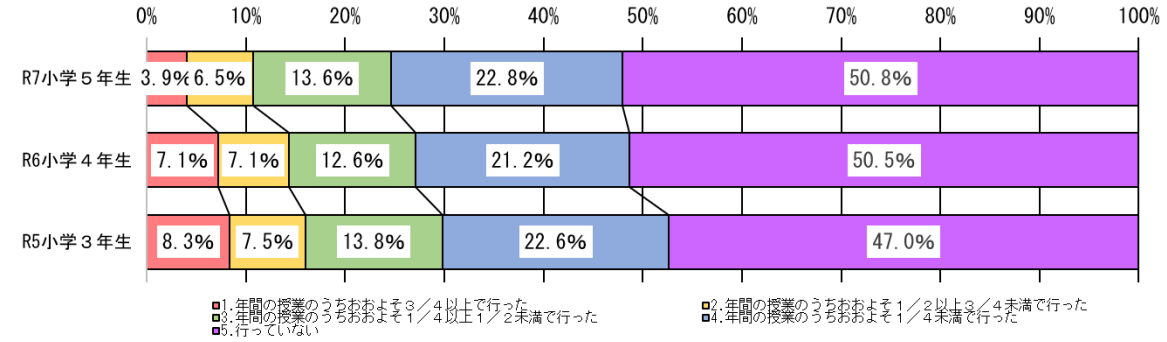


R8 中学校３年生 数学

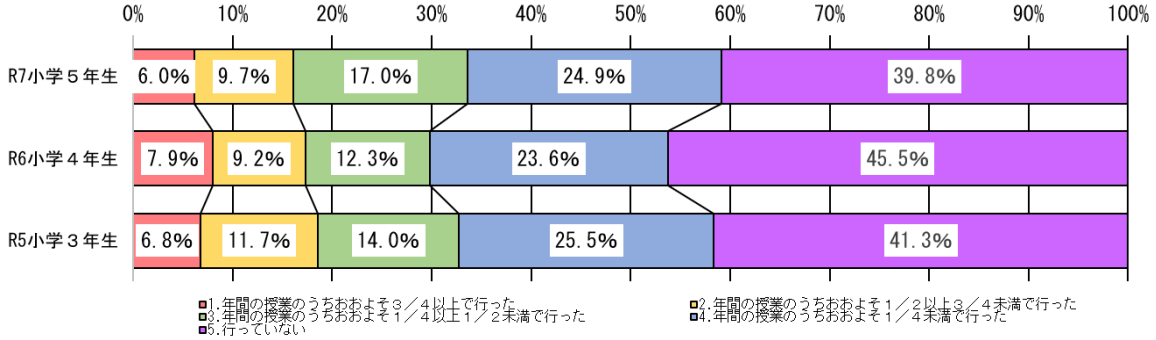


⑪『習熟の早い児童生徒に対して、少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った指導を計画的に取り入れましたか』

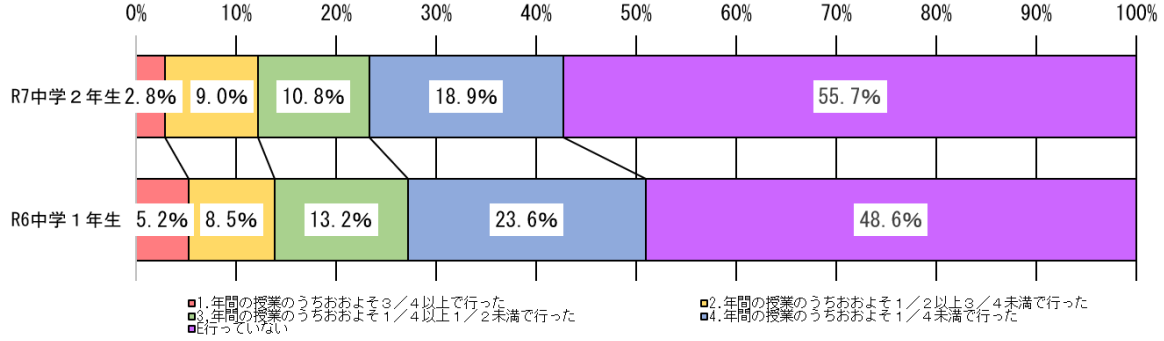
R8 小学校６年生 国語



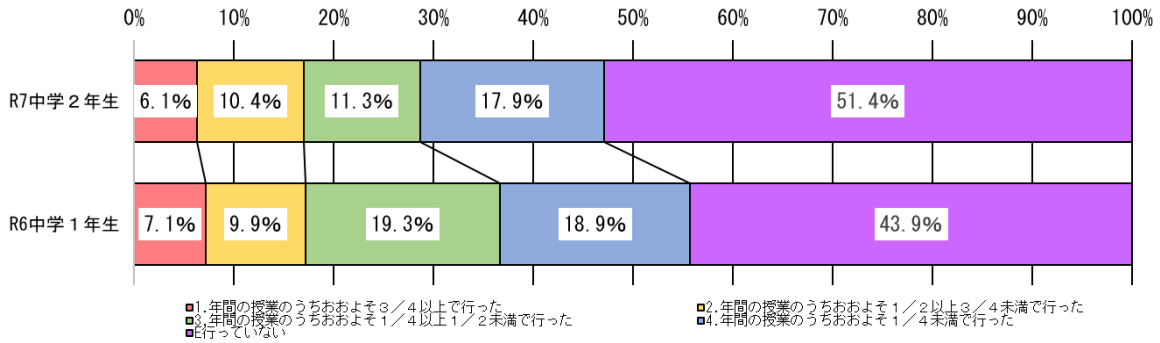
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語

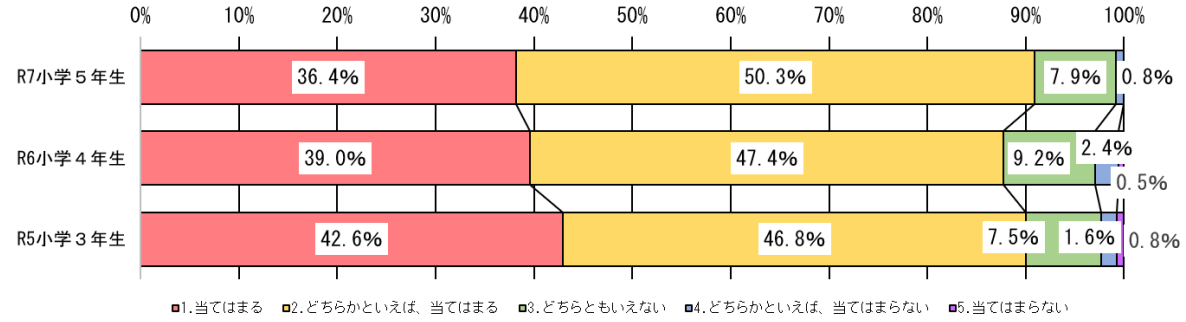


R8 中学校３年生 数学

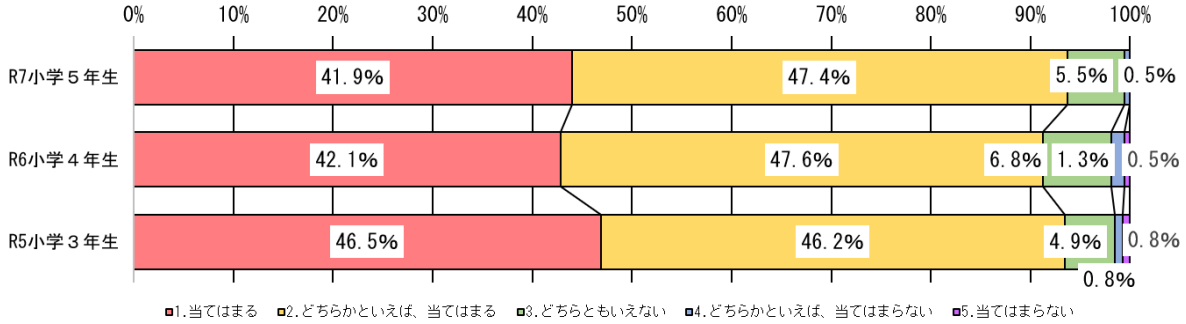


⑫『授業ごとに学習の目標（めあて）を示した後に、児童生徒自ら解決の方法を考えさせる発問をしていましたか』

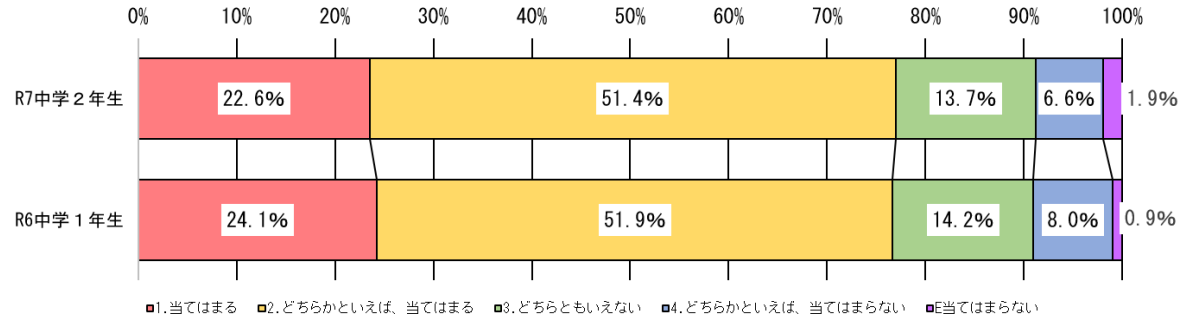
R8 小学校６年生 国語



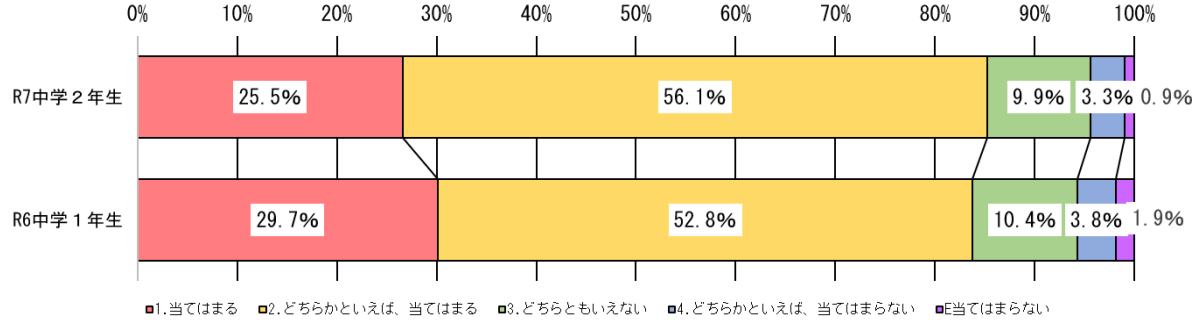
R8 小学校６年生 算数



R8 中学校３年生 国語



R8 中学校３年生 数学



(3)調査結果の活用状況

○　ほぼ全ての学校が、個人結果票を返却する機会を捉え、児童生徒をほめたり、具体的な助言を与えたりしている。
○　調査結果から把握した内容について全教員で共有し、具体的な授業改善にいかしている学校が年々増加している。

◎　ふくしま学力調査の「一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する」という目的について、ほぼ全ての学校が理解し、教育指導や指導計画の改善に活用できていると考えられる。(①②③④⑤⑥)

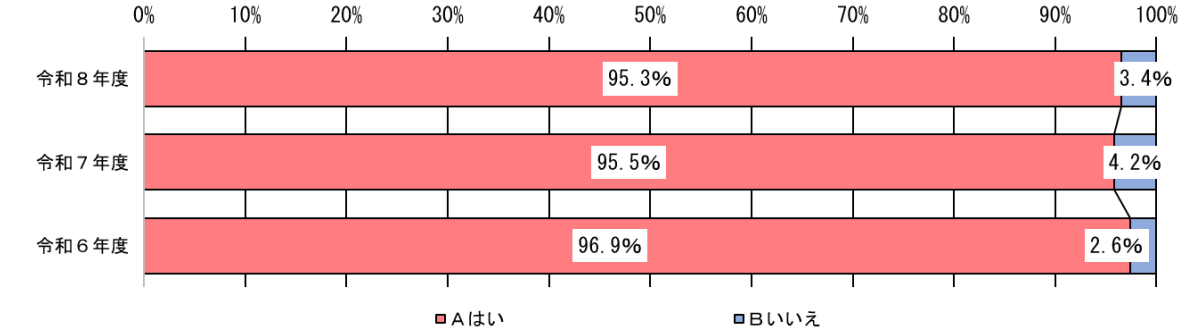
◎　個人結果票を返却する際は、ほぼ全ての学校が児童生徒をほめ、助言する機会とする学校が多いことから、児童生徒の学習意欲等の向上に役立てることができていると考えられる。(①)

◎　学力や非認知能力を大きく伸ばした教員の効果的と思われる取組を聞き取り、横展開することによって学校の強みを増やしていくことが期待される。(③④⑤)

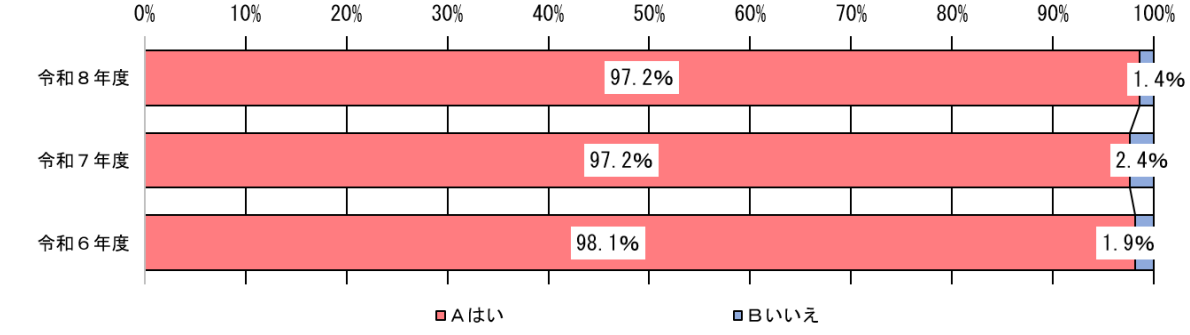
◎　データを分析し、エビデンスに基づいて指導改善が進められていると考えられる。管理職、教務主任、学級担任、教科担任、養護教諭など、それぞれの立場から多角的な分析がさらに進められることが期待される。(②⑥など)

①『個人結果票を返却する際に、ほめたり、具体的な助言を与えたりしている』

小学校

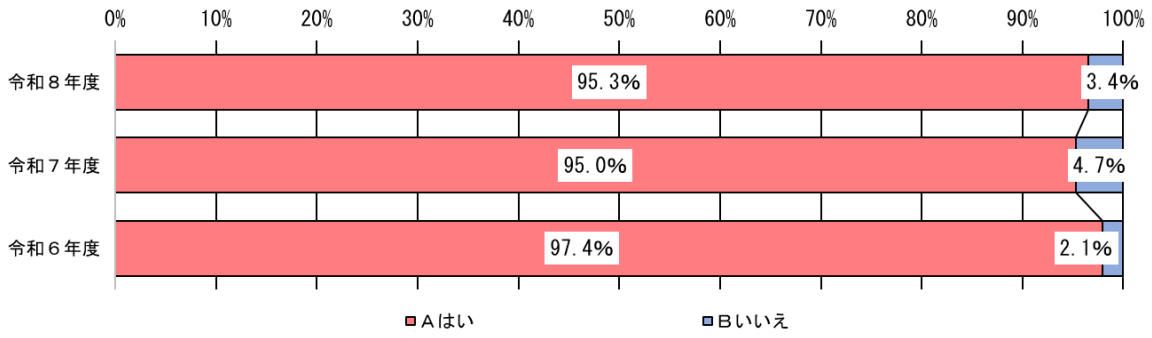


中学校

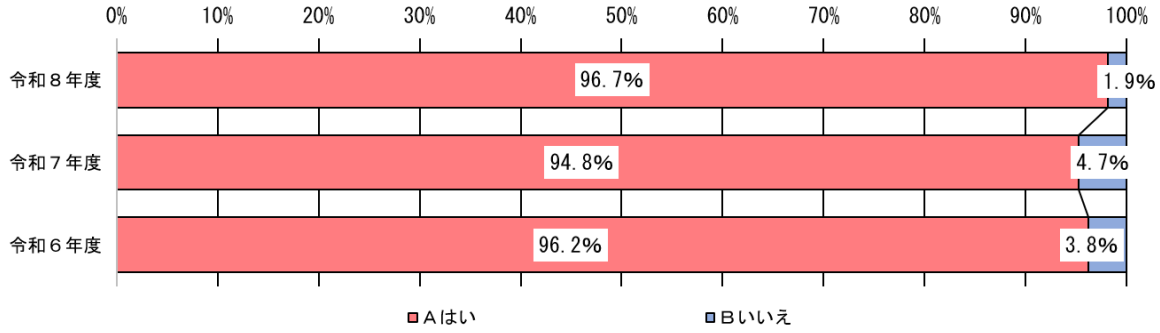


②『返却された結果帳票を用いてデータを分析、活用し、指導にいかしている』

小学校

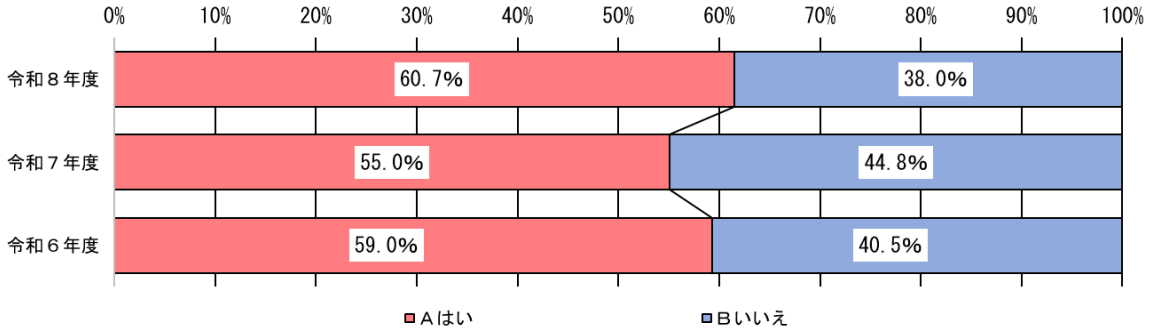


中学校

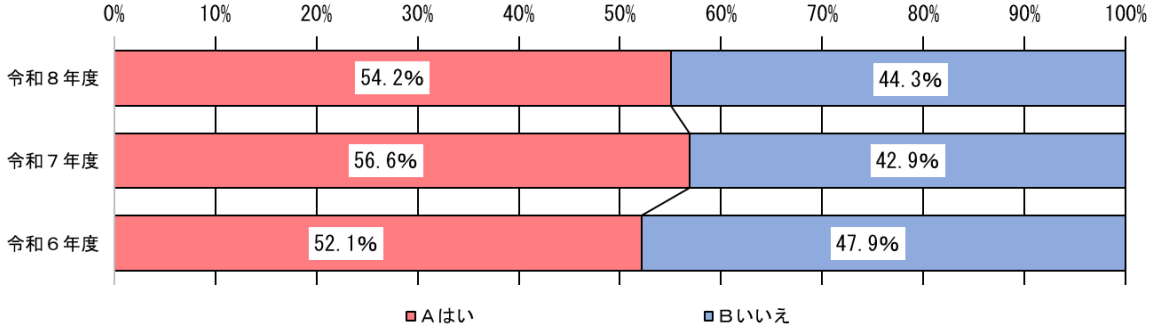


③『学力や非認知能力、学習方略を大きく伸ばした教員から、伸ばした要因等について把握するための聞き取りなどを行った』

小学校

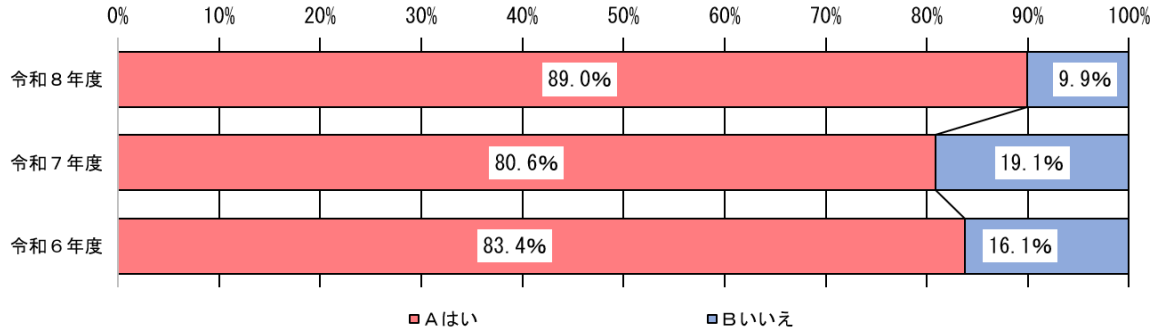


中学校

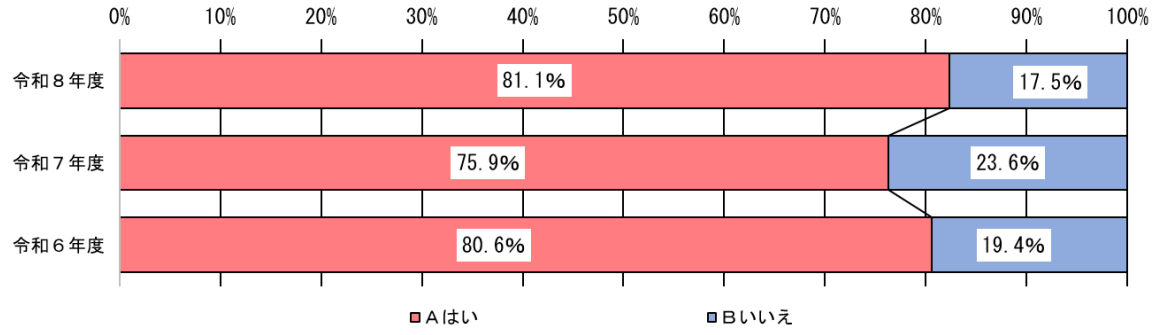


④『把握した内容について話し合うなどにより、全教員で共有した』

小学校

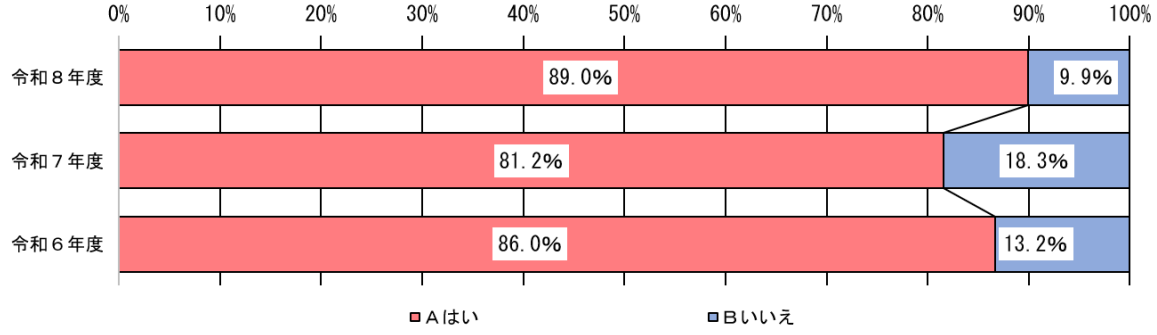


中学校

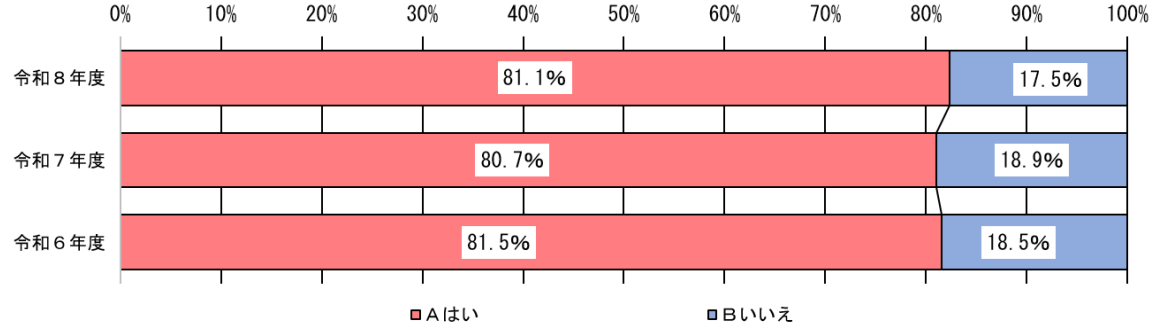


⑤『共有した内容を、具体的な授業改善にいかした』

小学校

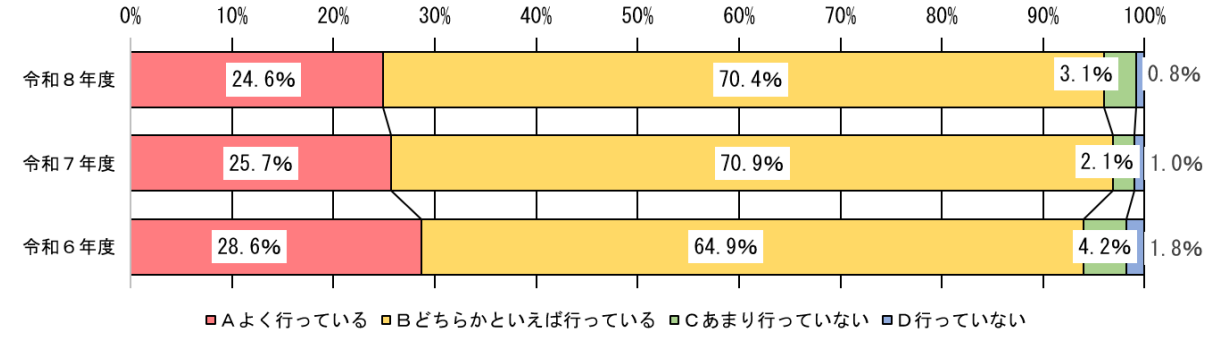


中学校

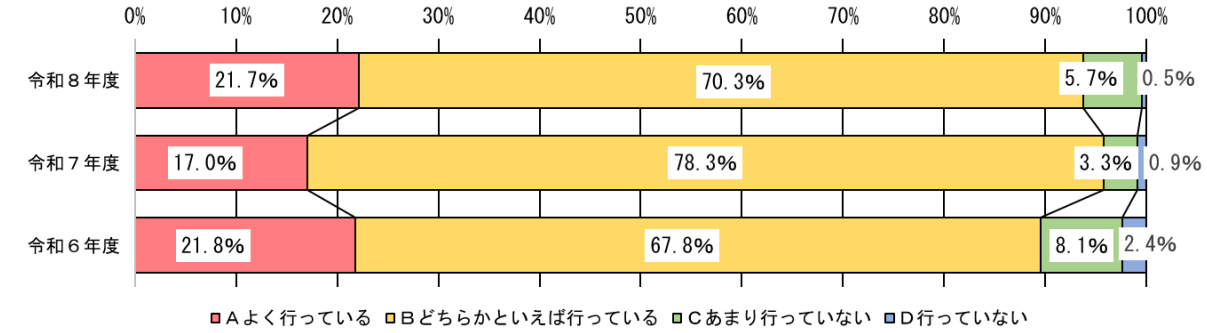


⑥『県や全国の学力・学習状況調査の結果（過去の調査結果を含む）を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている』

小学校



中学校



7 各学校における分析とその活用例について

1 児童生徒一人一人の「学力のレベルと学力の伸び」の可視化

各学校に配付されている「帳票４０」には、以下のとおり前年度調査の学力のレベルとの比較により、「昨年度からの学力の伸び」が数値として示されています。

40 学校用

令和6年度ふくしま学力調査（小学校6年生）

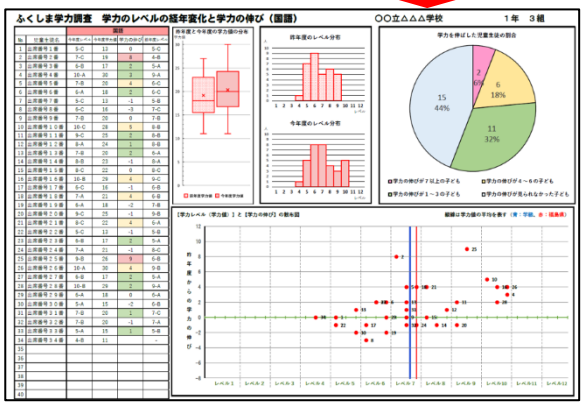
学力分析データ(学力のレベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

○○○立△△小学校

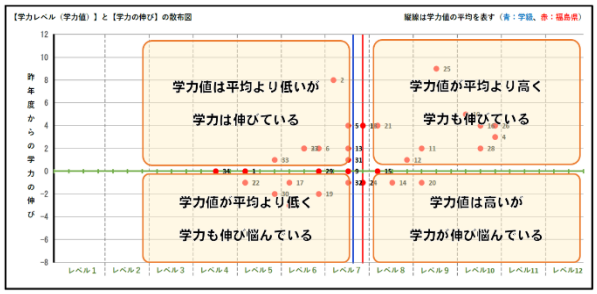
本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0となっています。
数値が**高い**ほど、よい値となっています。
「昨年度からの学力の伸び」がマイナスの場合は、赤字で表記しています。

					R5在籍情報					R6在籍情報					国語			算数・数学		
															R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル	R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル
															学級平均	8-B			8-A		
															学校平均	8-B	0	8-B	8-B	5	6-A
															市町村平均	7-B	0	7-B	6-A	1	6-B
年度		市町村教育委員会名	学校コード	学校名	個人番号	学年	組		性別	個人番号	学年	組		性別	福島県平均					
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****421	5	1	－	1	****421	6	1	－	1	9-C	8	6-B	6-A	9	3-A
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****422	5	1	－	1	****422	6	1	－	1	7-B	3	6-B	8-B	6	6-B
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****423	5	1	－	1	****423	6	1	－	1	8-B	5	6-A	3-B	-2	4-C
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****424	5	1	－	1	****424	6	1	－	1	7-B	6	5-B	7-B	5	5-A
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****425	5	1	－	1	****425	6	1	－	1	9-B	3	8-B	7-B	3	6-B
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****426	5	1	－	2	****426	6	1	－	2	7-A	7	5-B	6-A	1	6-B
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****427	5	1	－	1	****427	6	1	－	1	6-C	4	4-A	3-C	0	3-C
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****428	5	1	－	1	****428	6	1	－	1	9-A	7	7-B	7-C	-3	8-C
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****429	5	1	－	1	****429	6	1	－	1	4-C	0	4-C	3-C	-1	3-B
2024	01	○○○教育委員会	070700000	○○○立△△小学校	****430	5	1	－	2	****430	6	1	－	2	6-C	-1	6-B	5-C	2	4-B

本調査の特長の一つである「学力の伸び」から、児童生徒たちのどのような姿が見えてくるのか、数値だけでは見えにくいのではと考え、「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」を作成し、県内全ての小・中学校、義務教育学校、県立特別支援学校小学部・中学部及び、市町村教育委員会へ配付しました。また、「グラフ化ツール」の使い方及び活用事例についてオンライン説明会を実施しました。



右の散布図のグラフは、「グラフ化ツール」によって作成された小学校６学年のグラフの例で、児童生徒一人一人の「学力のレベル」を横軸に、「昨年度からの学力の伸び」を縦軸として表しており、４つのエリアに分けて児童生徒の状態を見ることが可能となります。



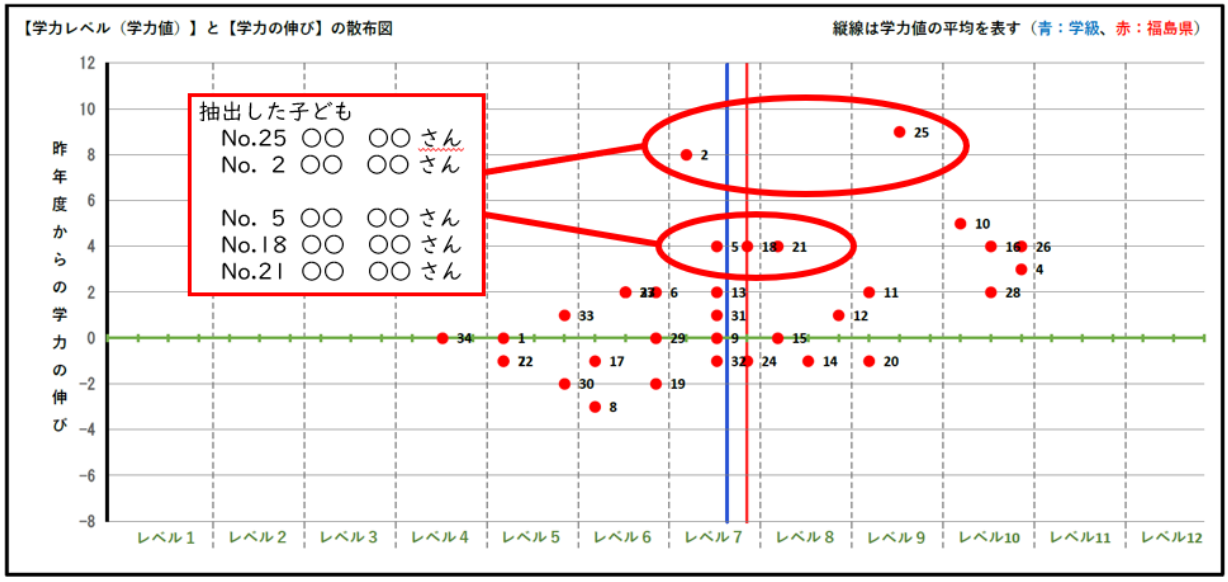
分析をする視点として、例えば、右下のエリアに位置する児童生徒は、一見すると学力値が高いので教師も安心して見てしまいがちですが、昨年と比べると学力が伸び悩んでいるため、支援が必要と考えられます。また、左上のエリアに位置する児童生徒は、学力値は平均に届いていないものの、昨年に比べると学力を伸ばしていることが分かるため、学力の伸びを称賛すべき対象と捉えることができます。このように、単に「学力が高い・低い」だけの分析にとどまらず、「昨年に比べて学力が伸びた・伸び悩んだ」という視点でも分析することができるのが、ふくしま学力調査の強みとなっています。

2　学校での分析について

グラフ化ツールを基に、児童生徒一人一人に寄り添い、称賛したり、励ましたりすることはもちろんですが、これらの結果を授業改善にいかすことが大切です。単に結果を見て、学力の状況を把握するだけでなく、学力が大きく伸びている児童生徒を、校内研究授業における抽出対象とし、事後研究会で学習への取組状況等を共有したり、伸び悩んでいる児童生徒に対する個別支援の方法を検討したりすることが考えられます。

また、国語、算数・数学の教科指導面からだけではなく、クラスや、部活動での人間関係、他教科の授業中の態度、宿題への取組、行事での活躍、家庭環境や兄弟姉妹の状態、前年度からの変化など、その児童生徒にまつわるさまざまな側面から、抽出した児童生徒の学力が伸びた諸要因について、実践感覚から推測していくことが大切です。

例えば、下の散布図からは、上位層や中位層に学力の伸びが見られた児童生徒がいることが分かります。この学級を指導していた先生の取組を互見授業等により共有することで、学校全体の授業改善につなげていくことが重要です。また、児童生徒の心と体の健康に寄り添う養護教諭の先生の意見などは、とても貴重な情報ソースであるため、認知能力のみならず、非認知能力についての視点でも話し合うことも大切です。





また、どのような指導が学力の伸びによい影響を与えているかを協議してその特徴（よさ）を明らかにし、それぞれの学級の実態に応じて、工夫しながらそれぞれの授業に取り入れていくことで、具体的な指導方法等の改善につなげられると考えられます。

活用例２：学級の学力の伸びの傾向から、指導の特徴（よさ）について協議する



さらに、自校において、教科のどの領域、どの観点において強みや課題が見られるかについては、「帳票０９」や「帳票２８」から、学年全体や学級ごとの状況を把握することができます。さらには、必要に応じて「帳票０１」から、児童生徒一人一人の採点結果を確認し、個別最適な学びにつなげることも大切です。

教員用リーフレット

参考資料：教員用リーフレット（再掲）



令和８年度 ふくしま学力調査
結果の返却・活用について

令和８年度調査から、パソコンやタブレットを使用した CBT で実施しています。

ひとり、ひとり、実現する ふくしま

福島県教育委員会

1　個人結果票の返却・活用の流れ

個人結果票は、児童生徒一人一人の「学力の伸び」や学習に関するアドバイスを、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。児童生徒一人一人の意欲を高め、学力を伸ばしていくことができるように、個人結果票の返却・活用の仕方についてポイントをまとめましたので御確認ください。

返却前

○ 各学校で保管している個人番号票をもとに、個人結果票に組、出席番号、名前を記入します。

※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることになります。間違いがないように十分に確認してください。

返却時

児童生徒には

令和８年度より解答ログ（解答にかけた時間）の結果が追加されました。

○ 本調査の特長を伝えます。

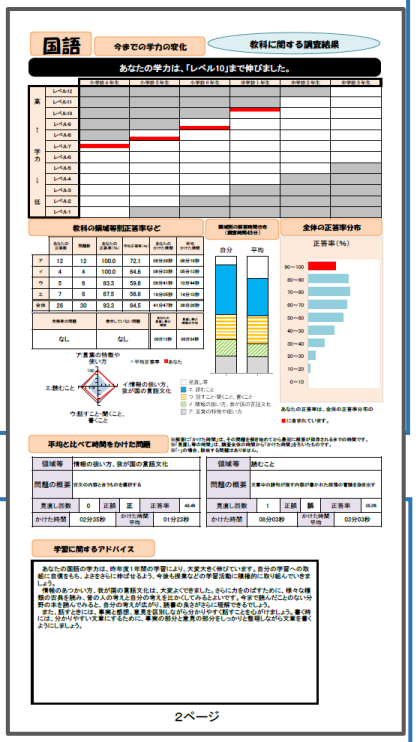
・ 一人一人の「現在の学力のレベル」や、「学力の伸び」が分かる調査です。

※ 小学校4年生は、次年度に「学力の伸び」が分かります。

・ 学力以外の力（根気がある、やるべきことをきちんとやる、自分に自信がある等）と、「学力の伸び」との関係が見え、学力を伸ばすための手がかりが分かる調査です。

○ 県の正答率や、他の児童生徒と比較することよりも、自分の学力がどれだけ伸びているのかを知ることが重要であることを伝えます。

○ 個人結果票の「学習に関するアドバイス」や「教科の領域別正答率」、「平均と比べて時間をかけた問題」などを活用し、正答率の高い領域をさらに伸ばしたり正答率の低い領域を克服したりするためのアドバイスをします。令和８年度からは、県平均と比べて時間のかかった領域や、時間のかかった問題の概要も記載されていますので、アドバイスの参考にしてください。



保護者には

○ 別紙「保護者用リーフレット」を配布し、本調査の特長や個人結果票の活用について保護者に伝えます。

○ 保護者会や三者面談、通知表の所見欄等を活用して、個人結果票から見える児童生徒のよさや課題を伝えます。

○ 「家庭学習スタンダード」を参考にし、「心の支え」、「環境づくり」、「習慣づくり」の視点から家庭学習の充実について保護者に伝えます。

2　個人結果票の見方と活用について

(1) ふくしま学力調査における学力の捉え方について

本調査ではすべての問題に難易度が設定されており、「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉えています。そのため、年度の異なる調査であっても同じ尺度で学力を測定し、児童生徒の学力の伸びを経年で捉えることができます。

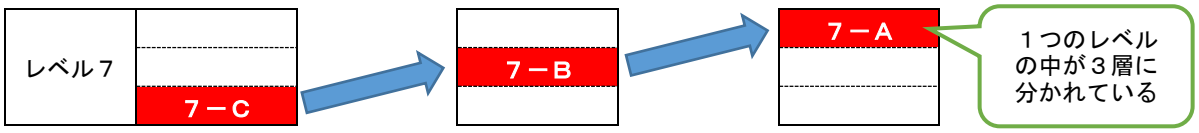
(2) 学力のレベルについて

学力のレベル表記はレベル１からレベル１１の１１段階ありますが、測定は各学年７段階で行います。

学年	学力のレベル
小学校４年生	レベル１～レベル７
小学校５年生	レベル２～レベル８
小学校６年生	レベル３～レベル９

学年	学力のレベル
中学校１年生	レベル４～レベル１０
中学校２年生	レベル５～レベル１１

１つのレベルは、それぞれ３層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで「学力の伸び」が分かります。例えば、同じレベル７の中でも、学力のレベルが高くなると赤いバーの位置が上方に変わります。前学年でのバーの位置と、今回のバーの位置を比べると、学力の変化が分かります。



※「A」「B」「C」の表記は個人結果票では用いられません（バーの位置のみです）が、学校用の結果帳票で用いられるため、説明の便宜上記載しました。

(3) 学習に関するアドバイスについて

学力調査の結果や学習習慣、領域別の今後の学習アドバイス等が記載されています。返却時や教育相談等の機会を捉え、児童生徒とつまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、児童生徒が学力を伸ばしていけるように働きかけてください。

3　調査結果の帳票の活用について

学校には、個人結果票とともに調査結果の帳票データが提供されます。これらの帳票により、児童生徒の学力のレベルや学力の伸び、学力以外の力等について把握したり、分析したりすることができます。特に御覧いただきたい帳票について紹介します。

帳票０９「教科に関する調査　問題ごとの正答率等一覧表」

各教科の領域ごとの正答率、設問ごとの正答率・無解答率や難易度について知ることができます。

帳票２８「各実施主体の調査結果票」

学年全体の学力レベルの変化や学力の伸びの状況等が教科ごとに、グラフの形でまとめられています。

帳票４０「学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別」

一人一人の児童生徒の学力のレベル、学力の伸び、学習方略や非認知能力の変化等がわかります。

NEW **帳票４８「正答率・解答時間の県平均との比較」**　令和８年度より追加されました。

解答ログ（解答にかけた時間）のデータを領域・設問ごとに県平均と比較することができます。

帳票０９「教科に関する調査　問題ごとの正答率等一覧表」

○ 「教科の領域等」、「評価の観点」及び「問題形式」に分けて、学年毎、教科毎の正答率が確認できます。

○ 設問別の正答率を「問題の概要」や「出題の趣旨」と合わせて確認することにより、今後の教科指導における課題を明らかにできます。

令和6年度ふくしま学力調査（中学校2年生）

教科に関する調査　問題ごとの正答率等一覧表　［国語］

〇〇市立〇〇中学校

※ 数値は全てイメージです。

前年度調査からの学力の伸びが記載されています。一人一人の学力の伸びについては、帳票40をご覧ください。

集計結果

	学校数	児童生徒数	平均正答率	R7 中1 レベル（平均）	R8 中2 レベル（平均）	令和7年度からの同集団における学力の伸び（平均）
福島県	211	12,980	61.8	8−C	8−B	1
市町村教育委員会	12	1,234	61.9	8−C	8−B	1
貴校	1	87	62.2	7−A	8−B	2

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率		
			福島県	市町村教育委員会	貴校
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	12	60.7	61.2	61.4
	情報の扱い方、我が国の言語文化	5	77.2	79.9	76.2
	話すこと・聞くこと、書くこと	4	59.0	60.4	60.3
	読むこと	9	55.9	56.3	57.2
評価の観点	知識・技能	17	65.5	65.1	64.9
	思考・判断・表現	13	56.9	58.0	58.7
	主体的に学習に取り組む態度	−	−	−	−
問題形式	選択式	19	65.0	63.1	65.1
	短答式	10	56.6	55.3	56.8
	記述式	1	53.3	52.2	52.3

教科の領域等、評価の観点及び問題形式別の平均正答率をもとに、自校の教科指導における課題を明らかにし、授業改善に生かすことができます。

問題別集計結果

困難度レベルは、およそ70%の確率で正答する学力レベル（三分割）に対応しています。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			福島県		市町村教育委員会		貴校		困難度レベル
			言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率（%）	無解答率（%）	正答率（%）	無解答率（%）	正答率（%）	無解答率（%）	
1-1	漢字を読む（訓）	文脈に即して漢字を正しく読む	○				○				○		87.8	0.3	86.3	0.1	92.5	0.0	5−A
1-2	漢字を書く（音＋音）	文脈に即して漢字を正しく書く	○				○				○		52.9	10.6	56.1	9.8	64.8	4.1	9−C
																			6−B
																			9−C
																			11−A

※ 数値は全てイメージです。

問題は非公開（経年変化を調査するため）なので、正答率の低かった問題をやり直すことはできませんが、問題の概要や出題の趣旨を参考に、類似の問題に取り組ませたり、出題の趣旨に近い学習活動を充実させたりすることができます。

正答率を分析する際には、設問毎に設定された「困難度レベル」を参考にすることもできます。Ⅰ−C が最も易しく、Ⅱ−A が最も困難なレベルになります。

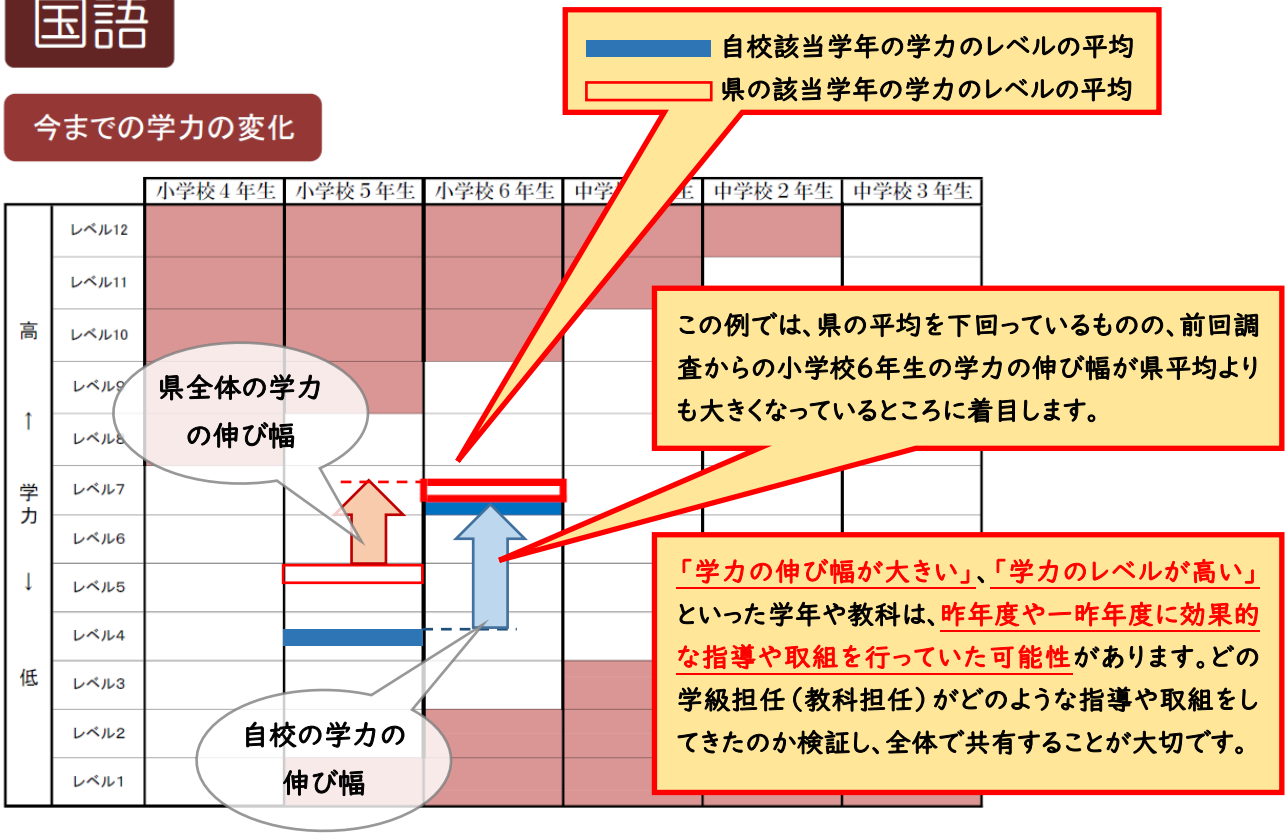
※ 設問ごとに難易度が異なるので、単純に「正答率が低い＝課題」とは言えないことに注意が必要です。

帳票２８「各実施主体の調査結果票」

○ 学年毎、教科毎の「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況が確認できます。
○ 学力のレベルや学力の伸び幅をエビデンス（根拠）とし、昨年度の学級担任（教科担任）の効果的な指導や取組を検証して全体で共有することができます。
○ 「設問別正答率」、「教科の領域等別正答率」及び「県全体の正答率分布」から、県全体における相対的な位置を把握できます。

国語

今までの学力の変化



【昨年度の学級担任・教科担任】



自分の指導は、どのくらい子どもたちの学力を伸ばすことができたのだろう・・・。

【今年度の学級担任・教科担任】

昨年度とても頑張って学力を伸ばした子どもたちだと改めて分かった。もっと伸ばしてあげるために、どんなことができるだろう・・・。

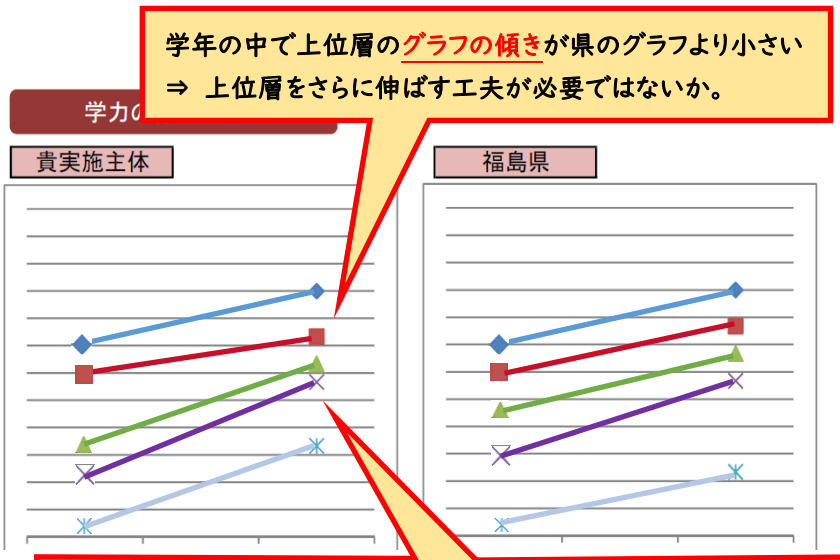


【管理職】



6年生の学力の伸びが大きいな。5年生のときに担任だった〇〇先生の取組を聞き取って、好事例を共有し、先生方全員のスキルアップにつなげよう。

様々な立場から、ふくしま学力調査の結果データを分析することで、児童生徒の様々な姿が見えてきます。特に「成果（強み）」を見つけることを大切にし、その要因を組織の「強み」として大切にしましょう。



学年の中で上位層のグラフの傾きが県のグラフより小さい
⇒ 上位層をさらに伸ばす工夫が必要ではないか。

学年の中で中位層から下位層のグラフの傾きが県のグラフより大きい
⇒ 中位層・下位層への効果的な指導や取組があったのではないか。

下位層に対して丁寧に支援した成果があったみたい。上位層の幅が広くなってしまったようだけど、一人一人の状況はどうなっているだろう。帳票40で確認してみよう。



【昨年度の学級担任・教科担任】

教科部会や校内研修などでの活用例

○ 「学力の伸び」という共通の視点があるので、学級担任や教科担任だけでなく、様々な立場から話すことができます。
○ 学力を大きく伸ばした先生、上位層を伸ばすのが得意な先生、下位層を伸ばすのが得意な先生などの取組事例を共有し、効果的な指導や取組を検証し、共通実践につなげることができます。
※ 若手教員もベテラン教員も互いの意見を尊重し、学び合うことが大切です。
※ 気になる児童生徒の実態把握には、学習方略や非認知能力のスコアも参考にすることが大切です。



児童生徒の学力向上のために、授業改善が大切なことはもちろんですが、生徒指導や学級経営など、様々なことが関わっています。教員それぞれが持つ知見や児童生徒の見立て等を共有することで、学力向上につながる直接的、間接的方策が見えてきます。学級担任、教科担任が一人で抱え込むのではなく、管理職のリーダーシップの下、学校の組織力を最大化し、チームとして対応することが大切です。

帳票４０「学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別」

○ 学級内の児童生徒別に、「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況が確認できます。
○ 「学習方略」や「非認知能力」に関する質問紙調査の結果及び経年変化について確認できます。

一人一人の児童生徒の学力について、前年度と今年度の比較による経年変化（学力の伸び）がわかります。

国語			算数・数学		
R8レベル	昨年度からの学力の伸び	R7レベル	R8レベル	昨年度からの学力の伸び	R7レベル
9-A	5	8-C	8-A	1	8-B
9-B	6	7-B	9-A	5	8-C
8-C	3	7-C	8-B	4	7-C
9-C	1	8-A	9-B	3	8-B
8-A	4	7-B	7-A	5	6-C
9-C	1	8-A	8-A	3	7-A

本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0 で、変化量はR7調査とR8調査の差になっています。

※ 数値は全てイメージです。

R8→R7（変化量）

主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力	
	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略		自己効力感	自社会性
0.0	1.8	1.5	2.3	1.3	1.0		0.5	0.2
0.2	0.3	1.7	0.5	0.5	1.0		0.5	0.4
1.1	1.0	0.8	0.3	1.3	0.5		0.1	0.9
0.3	0.3	0.5	0.5	0.0	1.0		0.9	0.3
0.7	0.3	0.5	0.3	0.3	1.3		0.2	0.5

一人一人の児童生徒の学習方略や非認知能力について、前年度調査と今年度調査の経年変化（どの項目がどのように変化したか）がわかります。

※ 学習方略や非認知能力のスコアは、個人内比較に用います。単年度のスコアで、気になる児童生徒の特性や状態を把握することもできます。
※ 成長に伴い、自分に対して厳しく評価するようになる児童生徒もいます。スコアの上下だけで判断せず、複数の教員による日常の見取りと合わせて成長を見ることが大切です。

学習方略 ～ 児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動

柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動
プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
作業方略：ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動
認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
努力調整方略：「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

個票の返却 ～ 帳票４０をエビデンス（根拠）にした指導

特に以下のような傾向がある児童生徒に対して…

○ 学力が平均には届かないが伸びが見られる
○ 学力が平均を超えているが伸びが見られない
○ 学力が下がっている

学級担任としてどのような声かけ（指導）をすればよいか、面談前に学年会等で相談しておきましょう。その際、帳票40の「学習方略」や「非認知能力」の数値が参考になります。具体的なエビデンス（根拠）に基づく指導で、一人一人の児童生徒の学力向上を実現させましょう。

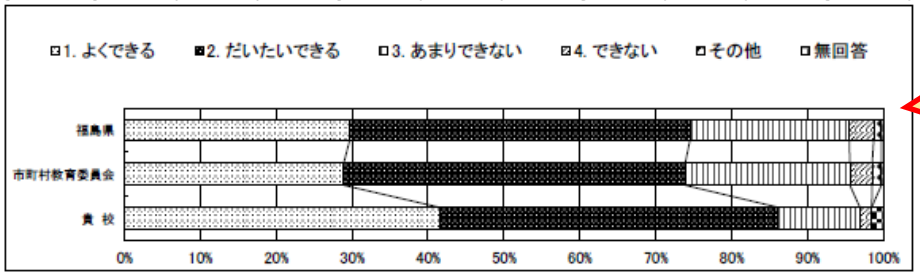


帳票 10 「児童生徒質問調査_集計データ（グラフあり）」

○ 児童生徒質問調査は、学校の「授業に関すること」「学習意欲や学習環境に関すること」「家庭での生活に関すること」などの状況を県の平均値と比較しながら確認できます。
○ 同じ質問の集計結果を経年で比較することで、経年変化を確認できます。
○ 学校の課題等に合わせた質問項目を指標として設定することで、学校の取組を客観的に評価することができます。

質問番号	質問事項									
（41）	先生の話や友達の発表をしっかり聞き，自分の考えを伝えることができていますか									
選択肢	1. よくできる　2. だいたいできる　3. あまりできない　4. できない									
	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
福島県	29.7	44.9	21.0	3.2						
市町村教育委員会	28.9	45.0	21.7	3.0						
貴 校	41.5	44.6	10.8	1.5						

※ 数値は全てイメージです。



児童生徒の学習状況や生活状況とともに、学校や学年の強みや課題を把握することができます。また、学校の取組を評価する指標として活用することもできます。

帳票 42 「学力分析データ（前年度在籍学年・クラスを基準にした伸び等）」

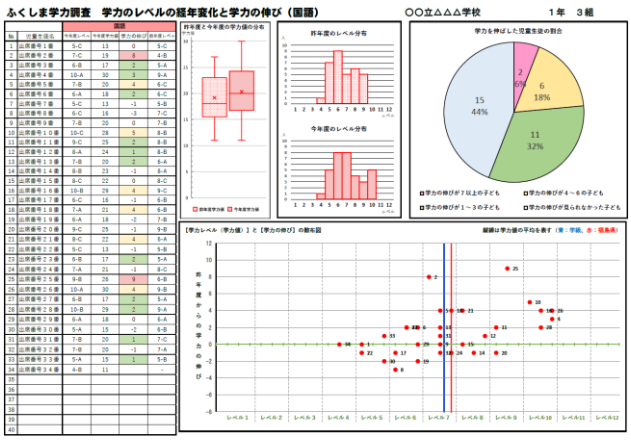
○ 前年度の在籍学年・クラスを基準に並べ替え、「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」を確認できます。
○ 学力を伸ばした学級の先生に聞き取りをすることで、効果的な取組を共有することができます。

前年度の在籍学年・クラスからの「学力の伸びの平均」と「学力を伸ばした児童生徒の割合」がわかります。

※ 数値は全てイメージです。

学校名	R8学年	R8組	R8児童生徒数		学力を伸ばした児童生徒の割合（%）		学力の伸び率（R8学力レベルとR7学力レベルの差の平均）		R8学力レベル平均		R7学力レベル平均	
					国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
				福島県平均	77.5	76.2	2.6	2.6	20.1	18.1	17.5	15.6
○○市立○○小学校	5	1	34		76.1	78.3	2.6	3.2	21.4	19.0	18.8	15.8
○○市立○○小学校	5	2	33		70.2	80.1	1.9	2.2	20.7	18.5	18.8	16.3

グラフ化ツール　～　学力レベルと学力の伸びを視覚化



○ グラフ化ツールは、帳票 40 の学力レベルと学力の伸びのデータを視覚化するツールです。
○ グラフ化することで、教科ごとの学力レベルと学力の伸びの状況を視覚的に捉えることができます。
○ 学級集団の学力の経年変化の状況を示した箱ひげ図も掲載しています。

※ グラフ化ツールは、県教育委員会より別途送付します。

NEW

帳票 48 「正答率・解答時間の県平均との比較（教科ごと）」

○ 解答ログ（設問ごとにかけた時間の記録）をもとに、問題ごとの正答率と解答時間を、県の平均と比較して確認することができます。
○ 解答時間を基にした分析をすることで既習内容の定着の状況等を確認することができます。

領域別の平均正答率（県、市町村、学校）
領域別の平均解答時間（県、学校）

問題ごとの自校の正答率と解答時間が、県と比較してどうかを、4象限で表示（縦軸；正答率の差、横軸：解答時間の差）



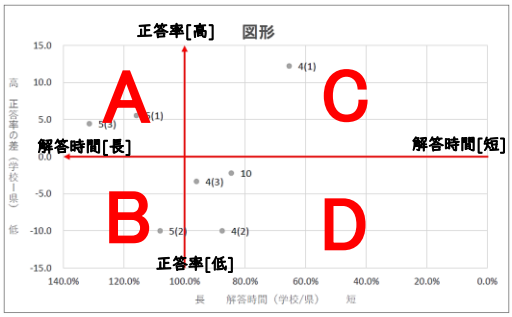
問題ごとに正答率と解答時間を、県、市町村、学校を比較した表及びグラフ

※問題が非公開となっているため、「出題の趣旨」を掲載（趣旨だけではイメージしづらい場合には、帳票 09 の「問題の概要」も参照）

帳票 48 の「4 象限」を活用した授業改善例

A：解答時間[長]×正答率[高]
既習事項を振り返る際に、児童生徒の思考を整理することを心がける。繰り返し振り返る機会を設けて、できたことを称賛しながら定着を図る。

B：解答時間[長]×正答率[低]
既習事項を丁寧に振り返る。どこでつまずいているかを明らかにし、できていることを称賛しながら、基礎・基本の定着を図る。



C：解答時間[短]×正答率[高]
既習事項の復習に当てる時間を精選し、新たな学習内容や発展的な学習課題に挑戦する時間を確保する。

D：解答時間[短]×正答率[低]
粘り強く取り組む重要性を実感させる。既習事項とのつながりを実感させながら学習を進めたり、繰り返し振り返る機会を設けたりすることで、できたことを称賛し、自己効力感を高め、定着を図る

※児童生徒の実態によって、授業改善の方法は異なります。検討する一つの材料としてください。

特別寄稿　分析協力者･宮城教育大学教職大学院 田端健人教授より

令和４年３月より、ふくしま学力調査等の結果分析を活用したエビデンスに基づく支援を行うため、宮城教育大学教職大学院の田端健人教授を分析協力者に招き、研究を進めています。前項で紹介した「グラフ化ツール」についても、田端教授の協力を得て作成したものです。今後も、田端教授と連携しながら、データ分析を活用したエビデンスに基づく支援を行っていきます。

【分析協力者プロフィール】

宮城教育大学　教職大学院　　教授　田端　健人　氏

＜研　究＞※科学研究助成事業（科研費）・基盤研究 B

○研究題目「グローバル世界を視野とする学力・非認知能力の効果的学校モデル」

（2020-22 年）

「学力/非認知能力を効果的に育成するスクールリーダーのデータサイエンス」

（2023-25 年）

※　本研究を進めるチームは、田端教授他７名

○研究の概要

・　児童生徒の学力と非認知能力を向上させる「効果的学校」の姿を明らかにすること。

・　校長のどのようなリーダーシップが、教職員のどのようなコラボレーションが、教師のどのような学級づくりや授業や支援が、児童生徒の学力と非認知能力を効果的に向上させるかを明らかにすること。

※　全国学力・学習状況調査等を用いて、上記の研究を行っている。

＜経歴等＞

2019 年４月～　宮城教育大学 大学院教育学研究科 専門職学位課程 高度教職実践専攻（教職大学院）　教授（現職）

2021 年４月～　文部科学省　学力調査アドバイザー（現職）

＜主な著書＞

○『IRT 分析ソフト EasyEstimation による全国学力・学習状況調査の検証と経年比較』（パイデイア出版　2022 年 6 月 13 日発行）

○『子どもの言葉データサイエンス入門－jReadability の活用と検証－』（パイデイア出版　2021 年）

「学力」とは何か？

宮城教育大学教職大学院　　教授　田端　健人

そもそも「学力」とは何でしょうか？ さらに限定して、全国学力・学習状況調査（以下「全国学力調査」と略記）が測定している「学力」とは何か、ご存じでしょうか？

最も流布しているのは、「学力＝テストで点を取る力」という図式でしょう。「学力」といえば、高校や大学等の入学試験を連想し、試験のテスト問題を解く知識・技能と思うのではないでしょうか。教科書や参考書にある各教科の膨大な知識を記憶し、それを活用して難しいテスト問題を解く力、これも確かに「学力」です。しかし、全国学力調査で測定している「学力」は、このような「テストで点を取る力」ではありません。

文部科学省の通知「令和 8 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（令和 7 年 12 月 5 日）の、「4. 調査事項」（ウ）の出題内容の説明によれば、①として、「実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等」とありま

す。「実生活」で利活用する知力が「学力」です。「10%増量は、増量前の量の何倍か」という問題が、令和 7 年度全国学力調査で出題されましたが、これは実生活でありふれた問題でしょう。全国の児童の約 60%（約 60 万人）がこの問題に正答できないことが、学力向上の課題です。

また、調査の出題内容の②として、「知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等」ともあります。「実生活の様々な場面」で知識・技能を活用する力とか、人生や社会での「様々な課題解決」を「構想」する力、その構想を「実践し評価・改善する力」こそ、全国学力調査の「学力」です。この定義では、主体的に課題解決しようとか、率先して実践しようとか、改善しようといった児童生徒の主体性や意志の力が強調されています。決まったことを決まった通り反復する力は、全国学力調査の「学力」とは対極にあります。つまり、言われたことを言われた通りにする力を訓練する教育は、全国学力調査の正答率を上げるためには、逆効果です。

高度に文明化した社会では、多種多様で膨大な文字や記号や図表を主体的に読みとり、活用しなければ、一定の文化水準で生きていくことは困難です。「学力向上」とは、児童生徒が実生活や実社会を主体的に評価し改善し生きていくための意志や知力を向上させることです。それを「テストの点数を上げること」とはき違えると、本筋を見失ってしまいます。

子どもが廊下を走らなくなったら、学力が上がったという話を聞いたことがあります。その学校では、廊下を走ると危ないということで、全学年で学校生活の改善を試みました。走った回数を毎日グラフにして廊下に貼り出しました。日が経つにつれ、回数は、半分、三分の一、四分の一と減少し、その成果を各クラスで喜んだそうです。このように、子どもたちが自分たちの生活を評価・改善できるようになることこそ「学力向上」です。教科問題の平均点の上昇は、その後に自ずとついてくるものです。令和 7 年度全国学力調査の算数では、ブロッコリーの生産量の推移をグラフから読みとる問題がありました。答えは二倍です。こんな問題は、廊下を走る人数の推移グラフを日常で読み取っていれば、簡単に正答できます。

『ふくしま学力調査 学力の伸びを引き出した学校の取組事例集』は、児童生徒が生きる生活世界に密着した学力向上事例の宝庫です。例えば、ある中学校の取組「『自分にはこれがある、自分ならこれができる』自己肯定感・自己有用感を育む学校づくり」も好例です。この学校では、「対話と考え議論する活動を通して、道徳的価値について自分事として捉え、人間としての生き方について自覚を深める時間を確保した」とあります。また教職員全員で「生徒を伸ばす『ほめ方』」を共有し、生徒が「自分の考えを自由に表現する安心安全な学級風土」を醸成し、生徒による「アウトプットの機会」を確保したとのことです。画一的な一斉授業から、「生徒主体の授業へ変革」したともあります。

児童生徒一人ひとりが学びの主体となり、自分の考えを自由に表現すること、それを仲間たちが聞き反応してくれる手応え、役割を交代し、仲間のユニークな表現に触れること、それに共感し、あるいは自分との違いに気づくこと、こうした生き生きとした人間関係の中でこそ、自己有用感や集団的効力（私たちはできる）感も高まり、自分（たち）は学校や社会のエージェントだという意識も芽生えるでしょう。教科を超えたこうした底力が土台となり教科の「学力」も向上する、というのが私の学力データ分析と整合的です。結果としてこの中学校では、県平均を下回っていた学力値が、県平均を上回ったといいます。私はこの変革を「奇跡」と呼びたいですし、同様の「奇跡」は福島県のいたる所で、今日もまた起きていると信じています。